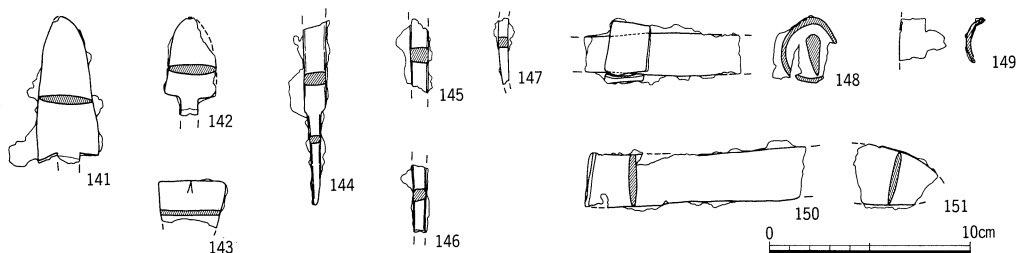
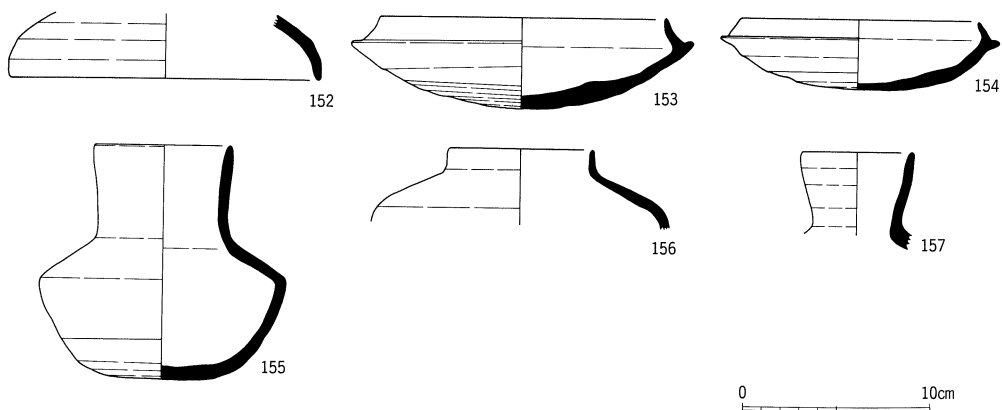


第18図 S M1002出土ガラス玉



第19図 S M1002出土鉄器



第20図 S M1002出土須恵器

須恵器には、蓋杯、直口壺、短頸壺、瓶類がある。152～154は蓋杯で、153と154は口径に差がみられるが、いずれも口縁部の立ち上がりが高い。直口壺（155）は、平坦な底部と大きく屈曲する体部より、直線的に長い口頸部が上方へ延びる。短頸壺（156）で、全体的に薄いつくりが、瓶類（157）は口頸部外面にみられる強い回転ナデが特徴となっている。

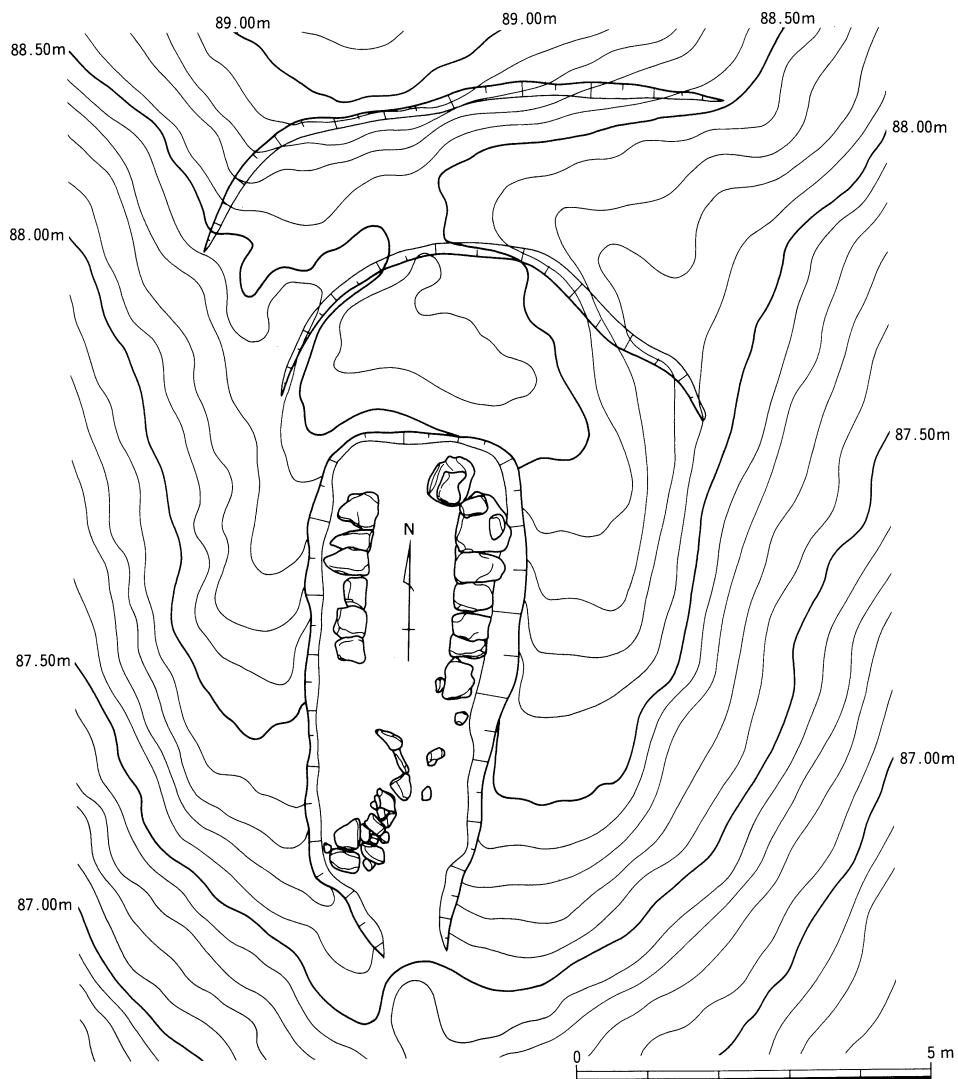
#### (4) 小結

2号墳は、床面が攪乱されており、本来の姿をとどめていないため、築造時期や追葬回数

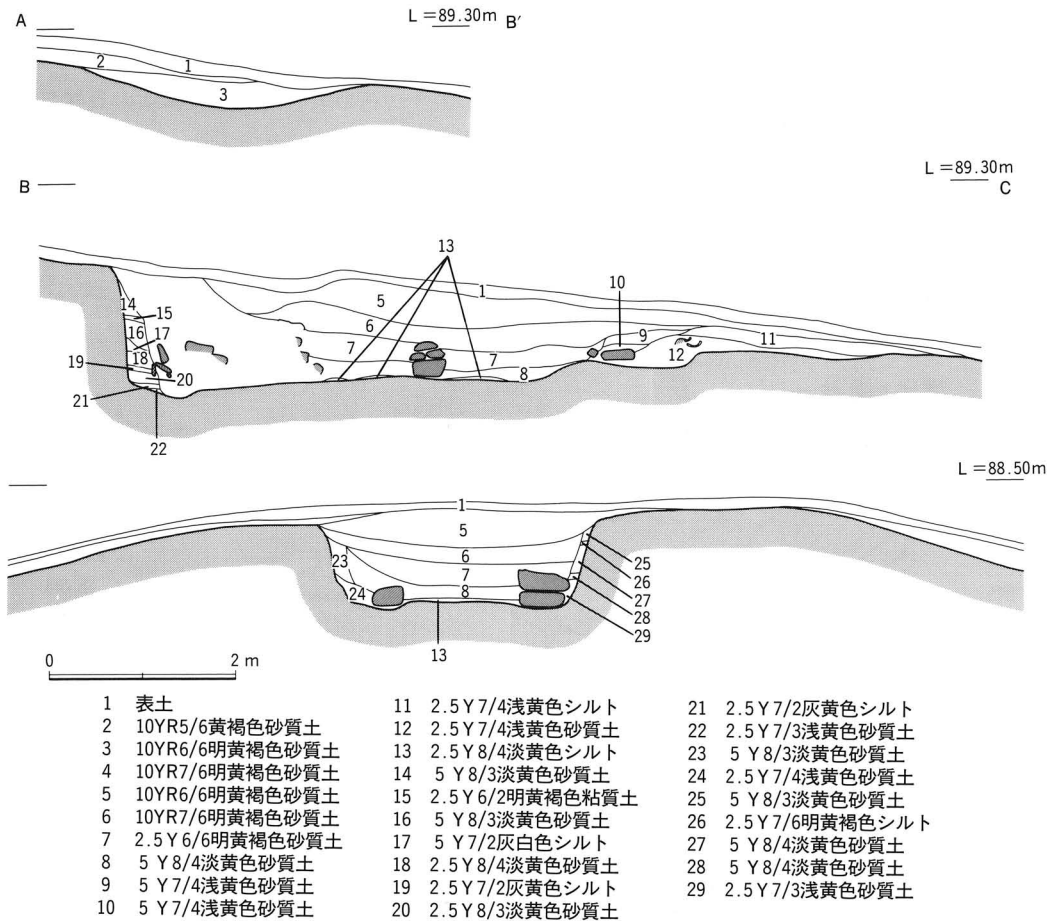
を厳密に決定することは難しい。しかし須恵器蓋杯には形態差が認められ、少なくとも2回の埋葬が行われたものと考えられる。また玄門部での仕切石の設置や奥壁に板状の石材を立てて使用している点など、他の古墳との相違点もいくつか認められることは、本古墳群のみならず周辺の古墳群との関連において把握すべきものとする。

### 3号墳 (S M1003)

#### (1) 墳丘・周溝



第21図 S M1003墳丘測量図



第22図 SM1003墳丘断面図

3号墳は、2号墳の南の標高87.5～88.5mの地点に位置する。北側に周溝を持ち、主体部には横穴式石室が構築されている（第21図）。

周溝は、北側尾根鞍部を切るように構築されている。長さ約8mが残存し、中央部の幅は約2m、深さは約30cmでU字形の断面を呈する。周溝内には明黄褐色砂質土（3層）の堆積がみられたが、遺物は少なかった。

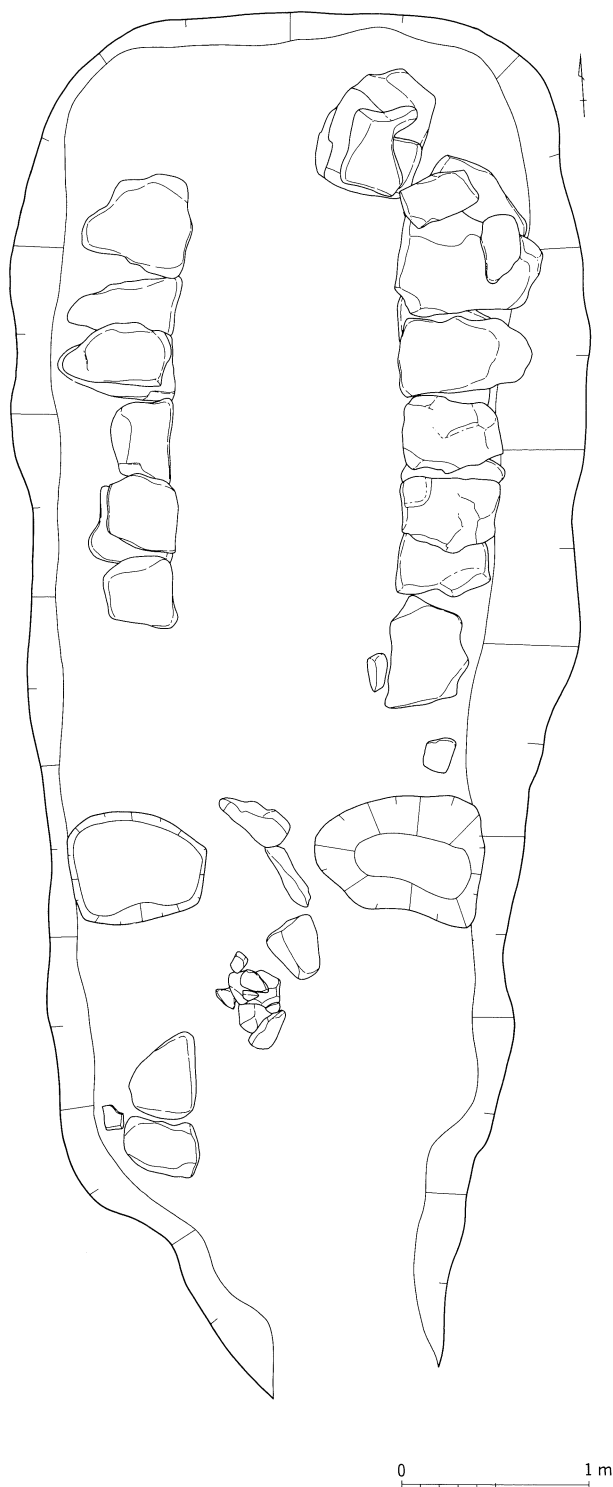
墳丘は盛土がほとんど残存しておらず、その構築方法は不明である。周溝や主体部掘り方から推測される墳形及び規模は、直径10m程度の円墳と考えられる。

## (2) 主体部

主体部は、幅約2.9m、長さ約7.4m、残存する深さ約1.4mの隅丸長方形の掘り方に、主軸方向をN4°Eにとる横穴式石室が構築されている。盗掘のためとみられる攪乱により石室の残存状況は良くない。

石室内は、攪乱後の埋土が大半を占め、それ以前の堆積土はわずかしか残存していない。5～8層の明黄褐色または淡黄色の砂質土は攪乱後の堆積である。9～12層の浅黄色の砂質土またはシルトは、石室の利用終了直後から攪乱を受けるまでの堆積土である。特に12層には羨道部において検出された須恵器が含まれている。13層の淡黄色砂質土は、焼土もしくは灰とみられる粒子を含み、よくしまっている。床面もしくは床面構築にあたっての基底層を構成する層と考えられる。14～29層は壁体構築時の裏込め土と考えられる。奥壁側と左側壁側は粒子の細かい層（15・17・19・21・26・28層）と粗い層（14・16・18・20・22・25・27・29層）が互層になっている。

羨道部は、内法幅約1m、長さ約1.5mと推定される。右側に壁の石材とみられる40～50cm大で厚さ10～15cm程度の板状の砂岩が2つ残存し、床面には10～30cm大の砂岩小礫が若干みられる。このことから羨道部にも床面には礫が敷かれていたことが推測される。玄門部は袖石を欠くが、床面に残存する石材の抜き取り痕から両袖式の石室であったとみられ、また礫床の残存状況から当初より仕切石は配置されていなかったと考えられ



第23図 S M1003主体部平面図



L = 88.10m

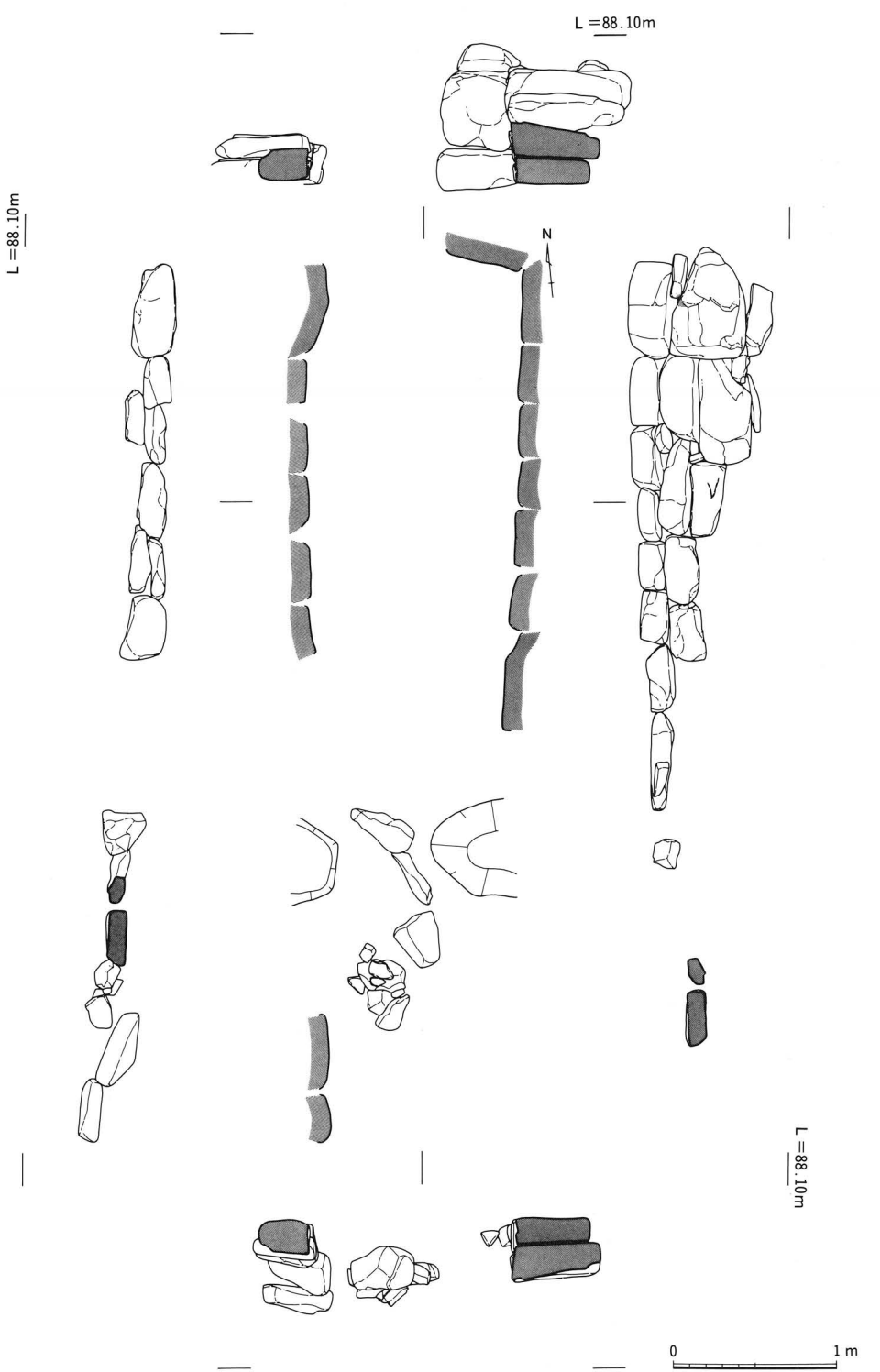
L = 88.10m

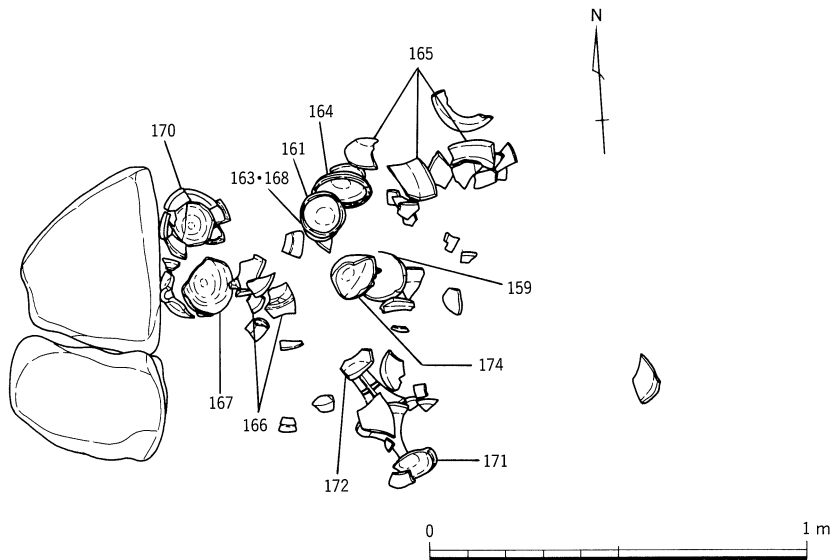
L = 88.10m

ω01' 88= 1

0 1 m

第24図 S M1003石室実測図

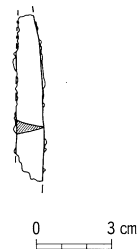




第25図 SM1003遺物出土状況

る。

玄室の内法幅は、奥壁側1.2m、中央部1.3m、玄門付近1.2mで、わずかに胴張り気味の長方形プランを持つ。長さは3.4m程度と推定される。右側壁は多い部分で2段約25cmが残存し、最も奥壁側の石材の幅が約60cmであるほかは、ほとんどが幅約40cmほどの板状の石材となっている。左側壁は、多い部分で3段、約80cmが残存し、第1段に40cm大の板状の石材を用い、第2段には50~60cm大の石材を、第3段には70~80cm大の石材を配し、上部ほど大きな石材を用いている。また積み方については、第26図 SM1003出土鉄器いくつかのブロックに分けて積むのではなく、1段ずつ横へ横へ積んでいくという方法が採られている。奥壁は中央から右側を欠くため、1列3段しか残存していない。第1段には50cm大の板状の石材を配し、第2段には70cm大の砂岩の小口を利用している。また石材の形態に合わせて小さな板状の石材を間に配しレベルの調整を行っている。玄室床面については、羨道部の様子から砂岩小礫による礫床が想定されるが、全く残存しておらず不明である。ただ検出段階において、玄室内には中央部と奥壁近くに、短軸方向に2列の石列がみられ、これらが攪乱時に石室内の石材を積み上げたものと考えられることから、本墳石室内はほとんど原形をとどめていないものとみられる。



遺物は、ほとんどが羨道部から出土し、特に羨道部の最も開口部に近い地点では、須恵器が集めて積み上げられたような形で検出された(第25図)。まずもっとも開口部側で、長脚高杯が2つ(171・172)、横倒して脚部を合わせるような状態で、羨道部中央では蓋杯(159・

161・163・168) や高杯 (164・165) に混じて平瓶 (174) が、右側壁近くで短脚高杯 (170) と高杯蓋 (167) が検出された。中央部の蓋杯や高杯には完形のものが多いが、それ以外の地点では破片が多い。

### (3) 出土遺物

3号墳出土遺物には、鉄器と須恵器がある。以下各種遺物について記述する。

#### 鉄器 (第26図)

158は刀子である。石室内の攪乱から出土した。刃部のみが残存している。

#### 須恵器 (第27図)

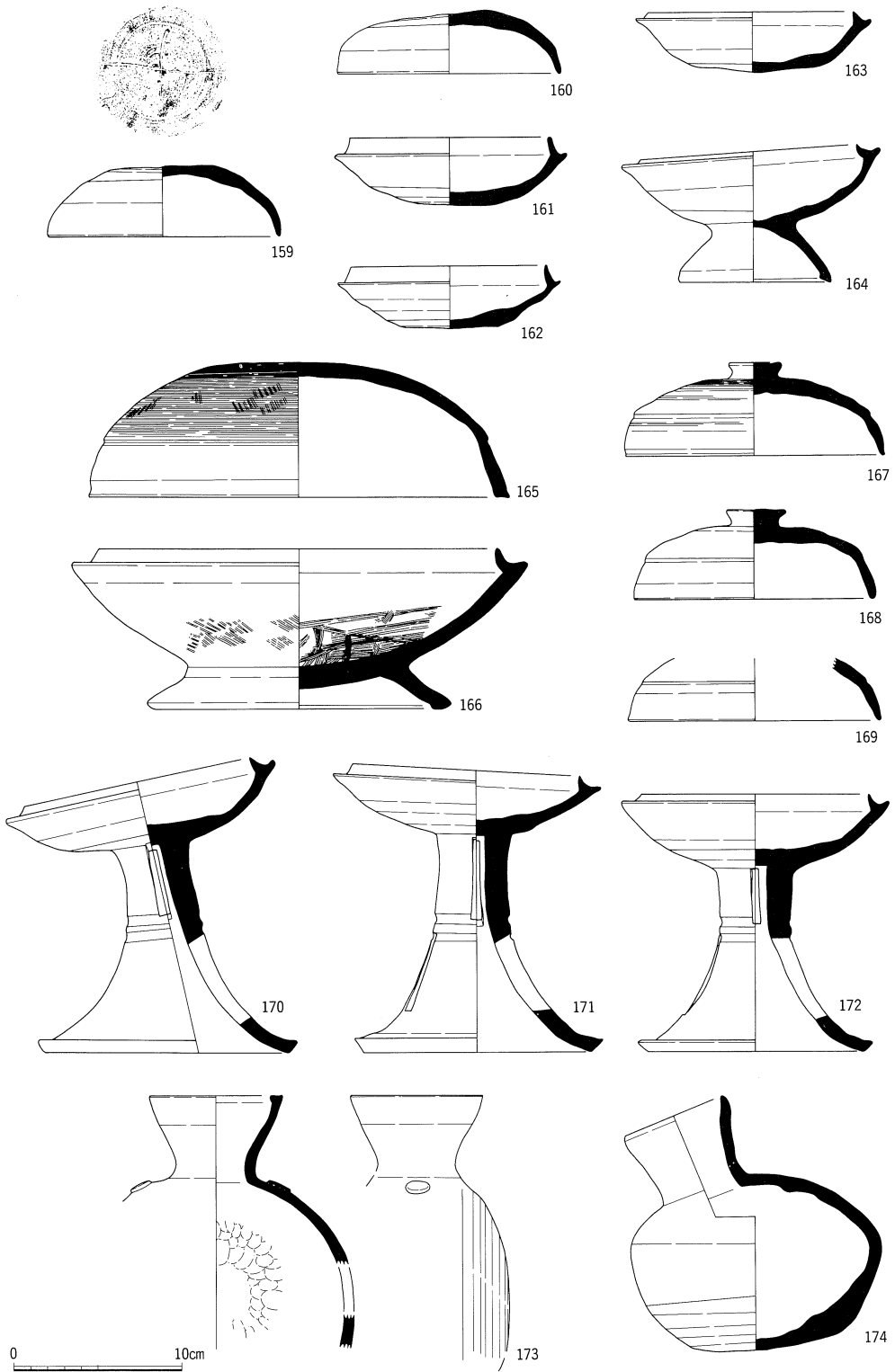
須恵器には、蓋杯、高杯、提瓶、平瓶がある。

159～160は蓋杯の蓋で、159の天井部外面には「+」形のヘラ記号がみられる。

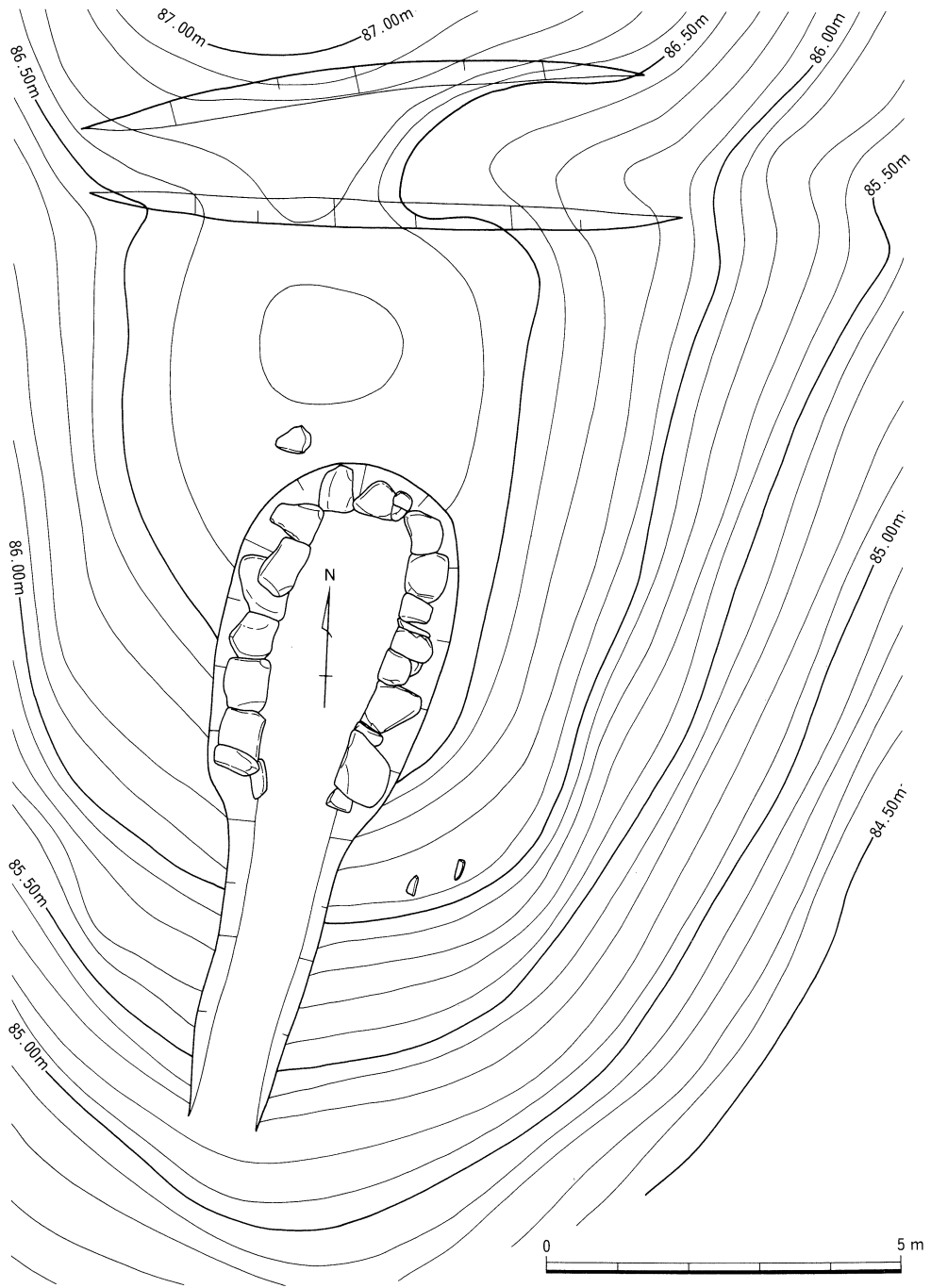
161～163は蓋杯の身で、161・162のように口縁部の立ち上がりが高いものと、163のように低く短いものがある。

164～172は高杯で、このうち164～166は有蓋短脚高杯、167～172が有蓋長脚高杯である。164は短く外反しつつ立ち上がる口縁部と倒杯形に延びる脚部が特徴である。165・166は大形の有蓋短脚高杯の蓋と身のセットである。165は口縁部と天井部の境に稜線を巡らし、天井部には平行タタキを施した後、回転カキメを施している。166は杯部外面に回転ナデが施されているが、わずかに平行タタキの残存が認められ、また脚基部より内側の底部外側にもかすかに回転カキメが残存している。このことから杯部の外面に平行タタキを施した後回転カキメを施し、その後脚部を貼り付けて回転ナデを施したものとみられる。また内面には強い不整方向ナデがみられる。167～169は有蓋長脚高杯の蓋で、いずれも外面の相当部分に自然釉が認められ、天井部と口縁部の境には稜線が巡っている。また167には天井部外面に回転カキメが施されている。170～172は有蓋長脚高杯の身で、いずれも口縁部の立ち上がりが低く短く、脚部に施された2条の沈線と2方2段の方形の透かし穴も共通している。なお蓋167は口縁端部をわずかに欠き、高杯170は受部に蓋の口縁端部の釉着が認められる。170にみられる口縁端部は167のものであることから、焼成時に身の上に蓋を重ねて置いたものと考えられる。

173は提瓶で、体部外面には弱い回転の回転ヘラ削りが、内面には時計回りに施されたユビ押さえがみられる。174は平瓶で、体部の上面に三角錘状の把手が2つ張り付けられているのが特徴となっている。



第27图 S M1003出土須恵器



第28図 S M1004墳丘測量図

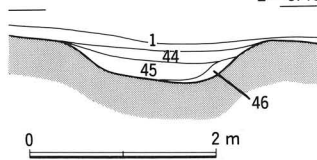
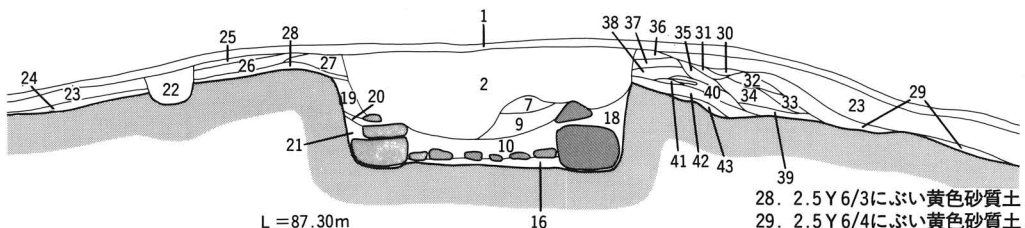
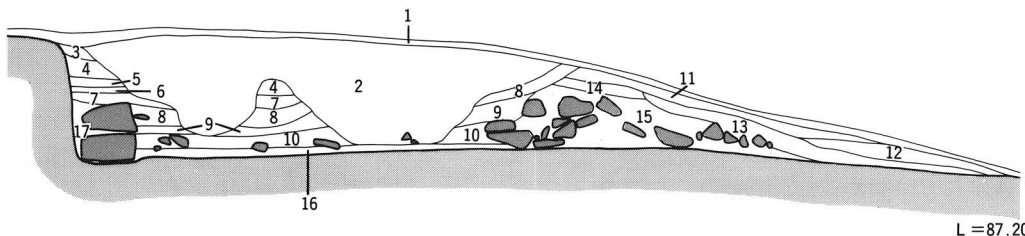
(4) 小結

全体的に残存状況の悪い3号墳の最も大きい特徴は須恵器にある。なかでも特に有蓋長脚高杯には、167と170のように胎土が粗いものが含まれており、色調や焼成が他の古墳とは異なる。また脚部の透かし孔の形状にも特徴が認められる。透かし孔は2段2方向に穿たれ、幅8～17mm程度の方形を呈するが、4号墳や柿谷遺跡では、筋状の透かし孔を持つ高杯がみられ、透かし孔の形態が異なる。165、166のような大形の短脚高杯も類例はなく、在地窯での生産をも想定した供給ルートの再検討も必要になるものと考えられる。

3号墳出土の須恵器は、その形状や法量から、蓋杯160・161、高杯165・166や167・170、蓋杯163という大きく3つのグループに分けることができる。これはそのまま築造時期や追葬時期を表したものと考えられることから、少なくとも3度の埋葬が行われたものと考えられる。

4号墳 (SM1004)

L = 87.20m



- 1. 表土
- 2. 攪乱
- 3. 2.5 Y 7/4 浅黄色砂質土
- 4. 2.5 Y 7/3 浅黄色砂質土
- 5. 2.5 Y 8/4 淡黄色砂質土
- 6. 2.5 Y 7/2 灰黄色砂質土
- 7. 2.5 Y 7/3 浅黄色砂質土
- 8. 2.5 Y 7/4 浅黄色砂質土
- 9. 2.5 Y 6/2 灰黄色砂質土
- 10. 2.5 Y 7/3 浅黄色砂質土

- 11. 10YR5/8 黄褐色砂質土
- 12. 10YR6/3 にぶい黄褐色砂質土
- 13. 2.5 Y 7/3 浅黄色砂質土
- 14. 2.5 Y 7/2 灰黄色砂質土
- 15. 10YR7/2 にぶい黄橙色砂質土
- 16. 2.5 Y 7/4 浅黄色粘質土
- 17. 2.5 Y 6/3 にぶい黄色砂質土
- 18. 2.5 Y 6/2 灰黄色砂質土
- 19. 2.5 Y 7/4 浅黄色砂質土
- 20. 2.5 Y 5/4 暗灰黄色砂質土
- 21. 2.5 Y 6/4 にぶい黄色砂質土
- 22. 攪乱
- 23. 10YR5/8 黄褐色砂質土
- 24. 2.5 Y 7/4 浅黄色砂質土
- 25. 2.5 Y 7/3 浅黄色砂質土
- 26. 2.5 Y 7/6 明黄褐色砂質土
- 27. 2.5 Y 6/6 明黄褐色砂質土
- 28. 2.5 Y 6/3 にぶい黄色砂質土
- 29. 2.5 Y 6/4 にぶい黄色砂質土
- 30. 2.5 Y 8/6 黄色砂質土
- 31. 2.5 Y 6/2 灰黄色砂質土
- 32. 2.5 Y 7/6 明黄褐色砂質土
- 33. 2.5 Y 6/6 明黄褐色砂質土
- 34. 2.5 Y 7/4 浅黄色砂質土
- 35. 2.5 Y 7/4 浅黄色砂質土
- 36. 2.5 Y 7/3 浅黄色砂質土
- 37. 2.5 Y 7/3 明黄褐色砂質土
- 38. 2.5 Y 7/6 明黄褐色砂質土
- 39. 2.5 Y 7/4 淡黄色砂質土
- 40. 2.5 Y 6/4 にぶい黄色砂質土
- 41. 2.5 Y 7/4 浅黄色砂質土
- 42. 2.5 Y 5/2 暗灰褐色砂質土
- 43. 2.5 Y 6/4 にぶい黄色粘質土
- 44. 2.5 Y 7/6 明黄褐色砂質土
- 45. 2.5 Y 7/6 明黄褐色砂質土
- 46. 2.5 Y 6/8 明黄褐色砂質土

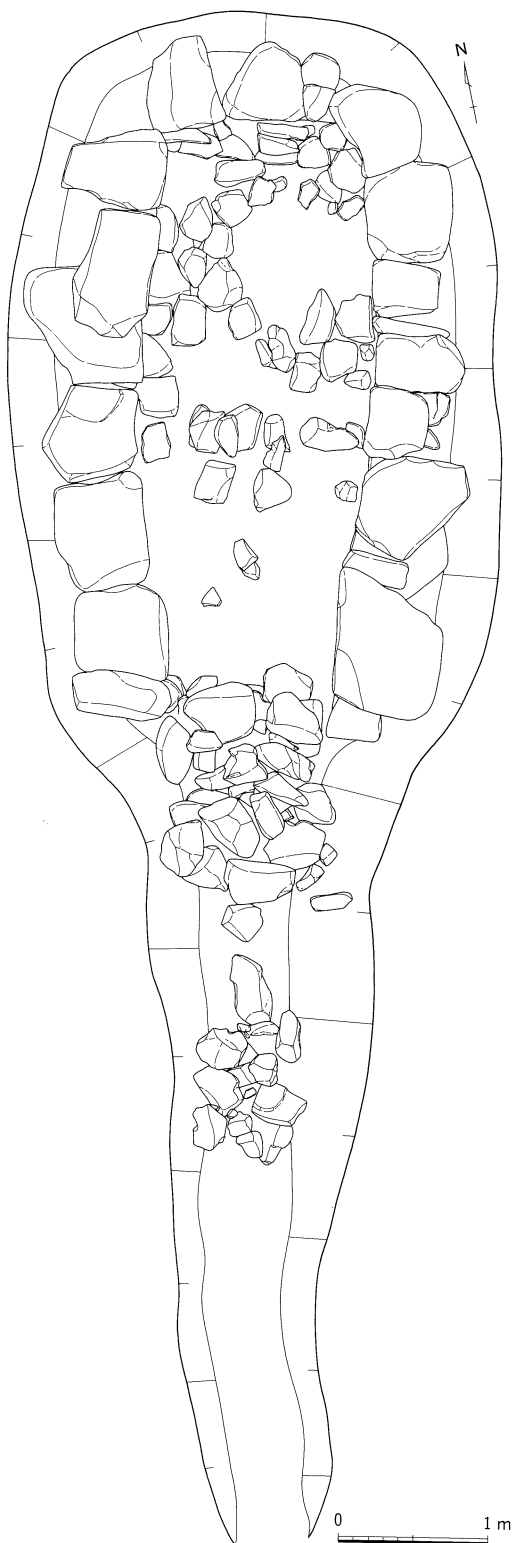
第29図 SM1004墳丘断面図

### (1) 墳丘・周溝

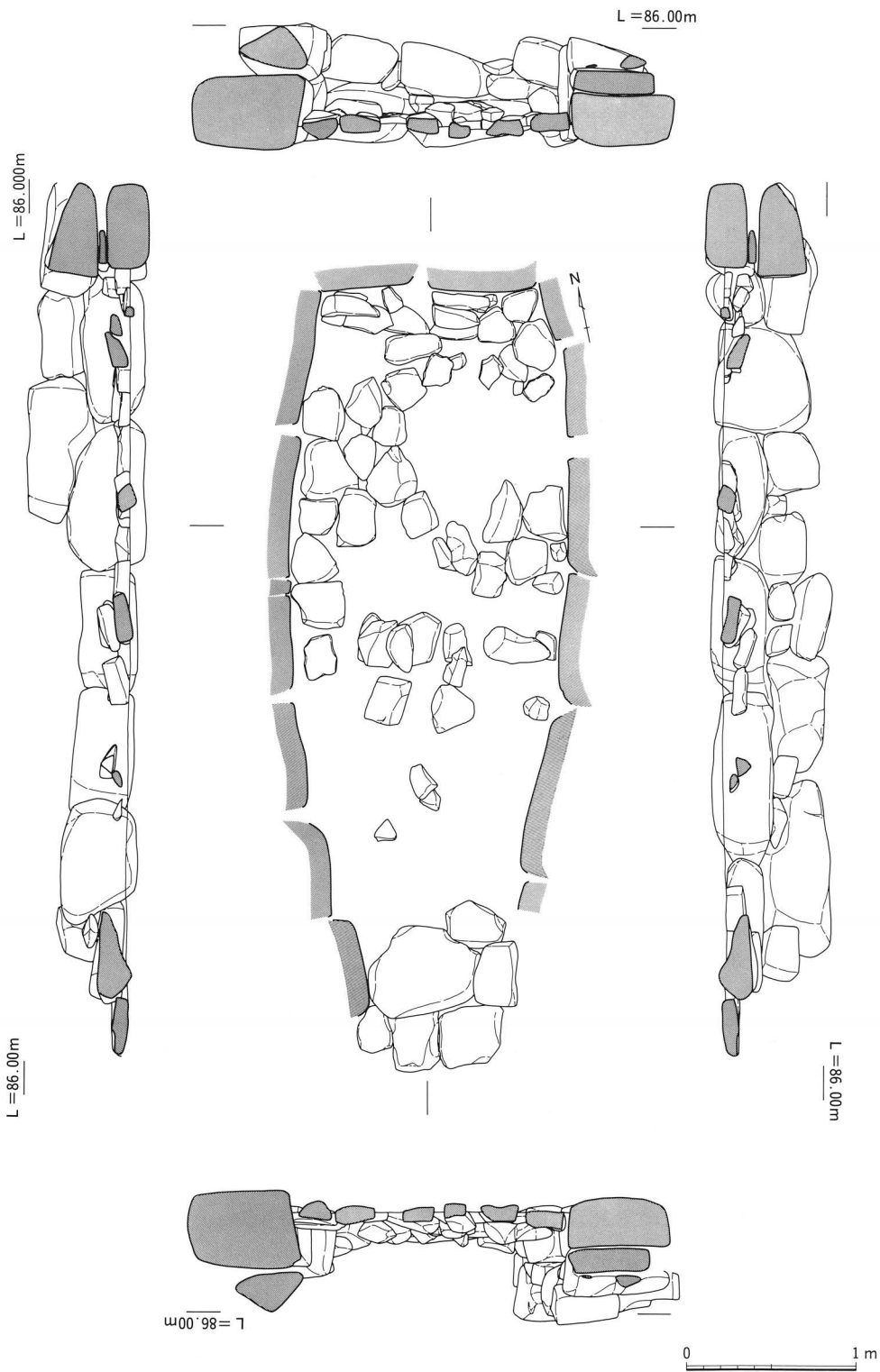
4号墳は、調査区の最も南、標高85～86.5mの地点に位置する。北側尾根鞍部を切るように構築された周溝を持ち、墳丘上の石室掘り方の周囲には、30～50cm大の砂岩礫がみられた。主体部には横穴式石室が構築されている(第28図)。

周溝は、尾根部分に約8m程度残存している。中央部の幅は約2.3m、深さは約45cmで、断面はU字形を呈する。周溝内には明黄褐色砂質土(44～46層)が堆積しており、大きく3層に分けられる。特に45層には須恵器が多く含まれていた。須恵器はほとんどが甕の体部とみられ、口縁部、底部はほとんど含まれていなかった(第29図)。本墳の周溝は、その残存状況からみて墓域の区画という性格が強いものとみられる。

墳丘は、まず地山整形面に明黄褐色(25・26層)やにぶい黄色(27・42層)砂質土を施してレベル調整を行い、その上面に炭化物混じりの砂質土(25・40・42層)を突き固めて基底部を構成し、さらに黄褐色系の砂質土(29～39層)を互層に叩き締めるという方法で構築している。また基底部を構成すると考えられる27層が、掘り方内にまで延び、側壁架構時の裏込めとみられる19～21層の上にもみられることは、盛土によって墳丘が構築された後、掘り方が掘削されたのではなく、まず地山



第30図 SM1004主体部平面図



第31図 S M1004石室実測図



面を露出させ整形した後墓壙を掘削し、石室を構築しつつ盛り土が施されたものとみられる(第29図)。周溝や墳丘盛土から推定される墳形及び規模は、南北径約14.5m、東西径約12mの南北に長い円墳と考えられる。

## (2) 主体部

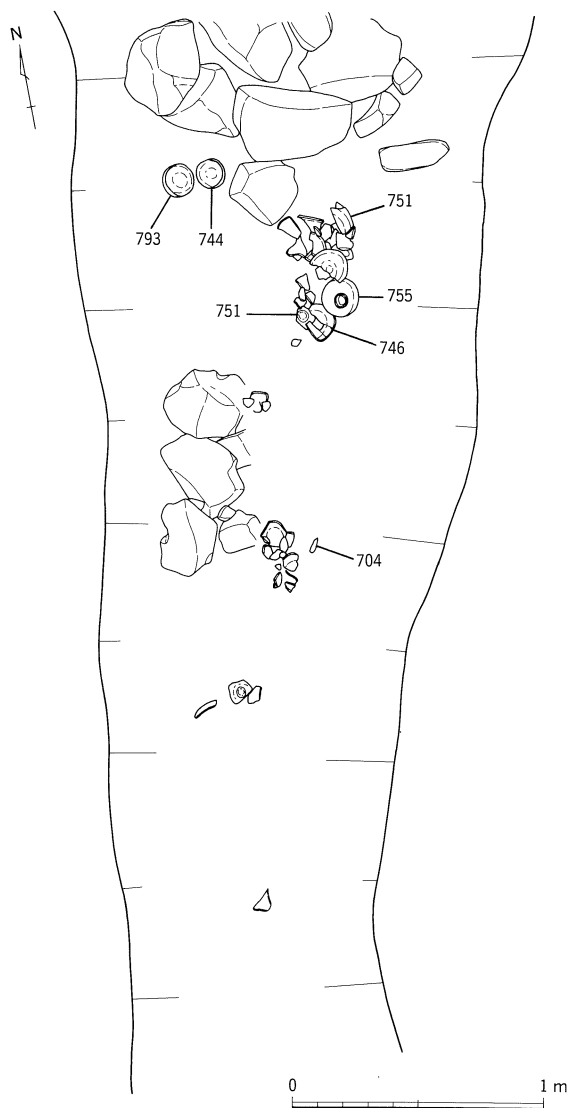
主体部は、幅約3.2m、長さ約10.1m、残存する深さ約1.3mの隅丸長方形を呈する掘り方に、主軸方向をN13°Eにとる横穴式石室が構築されている(第30図)。盗掘とみられる攪乱のため残存状況は良くない。

本墳主体部には、2度にわたって大きな攪乱を受けている。2層は最も新しい攪乱後の堆積層である。3～8層が石材の抜き取りなどが行われたとみられる第1回目の攪乱後の堆積である。ほぼ平行な堆積をしているが、7層と8層は粒子が粗くしまっていないのに対して、3～6層は比較的良好にしまっている。9層と10層は石室利用終了直後の堆積土である。いずれもよく

しまっている。特に10層は床面直上の堆積であり、遺物もこの層に多く含まれている。11～14層は閉塞石上面の堆積で13層には須恵器等の破片が含まれている。15層は閉塞石中の堆積で、この層の上面には完形の須恵器等が含まれている。16層の浅黄色粘質土は、非常によくしまっており、この層の上面や上部には玉が多く含まれている。

石室開口部には、30～40cm大の砂岩礫が閉塞石として用いられ、長さ約1.5m、高さ約60cmにわたって積み上げられていた。羨道部中央にみられる礫群は、それらの閉塞石の崩れたものとみられる。

羨道部の遺物は、概ね4群に分けられる(第32図・図版18)。まず閉塞石のすぐ南西側より、



第32図 S M1004羨道遺物出土状況

完形の蓋杯743と744が口縁部を上に向け、  
 並んで出土した。南東側では、閉塞石と羨  
 道部中央の礫群との間では、やや軟質焼成  
 の高杯751や平瓶755などの完形のものほ  
 か、杯身746などの破片が出土している。中  
 央部の礫群の上からは土師器提瓶や鉄鏃  
 704などが、またそこから約40cm南で高杯の  
 蓋などが出土した。レベルはほとんどが閉  
 塞石の上面にあたり、閉塞石の上面に堆積  
 する15層のにぶい黄橙色砂質土中である。  
 ただ土師器の提瓶や高杯の蓋などは、焼成  
 が不良であったり、残存状況が良くなっ  
 たりで図化できなかつたものが多い。

石室は、内法の長さ約4.3m、幅は奥壁側  
 約1.3m、中央部約1.6m、開口部側約1m  
 とやや胴張りとなっている。右側壁は、す  
 べて60~80cm大で厚さ40cm程度の砂岩が用  
 いられている。多いところで2段、高さ約  
 70cmまで残存し、第1段は6列で構成され  
 ている。左側壁は、最も多いところで3段、  
 高さ約65cmが残存している。第1段は、ほ  
 とんどが厚さ約35cmの砂岩礫が用いられ  
 るが、最も奥壁に近い石材だけは厚さ約65  
 cmと他の2倍ほどあり、第2段、第3段は  
 その石と、他の石とのレベルを調整しつ  
 つ積み上げられている。奥壁は、2段約60cm  
 が残存し、50~60cm大で厚さ30cm程度の  
 石材が用いられている。また奥壁と側壁の  
 交点は2段目以降隅丸に積まれている。

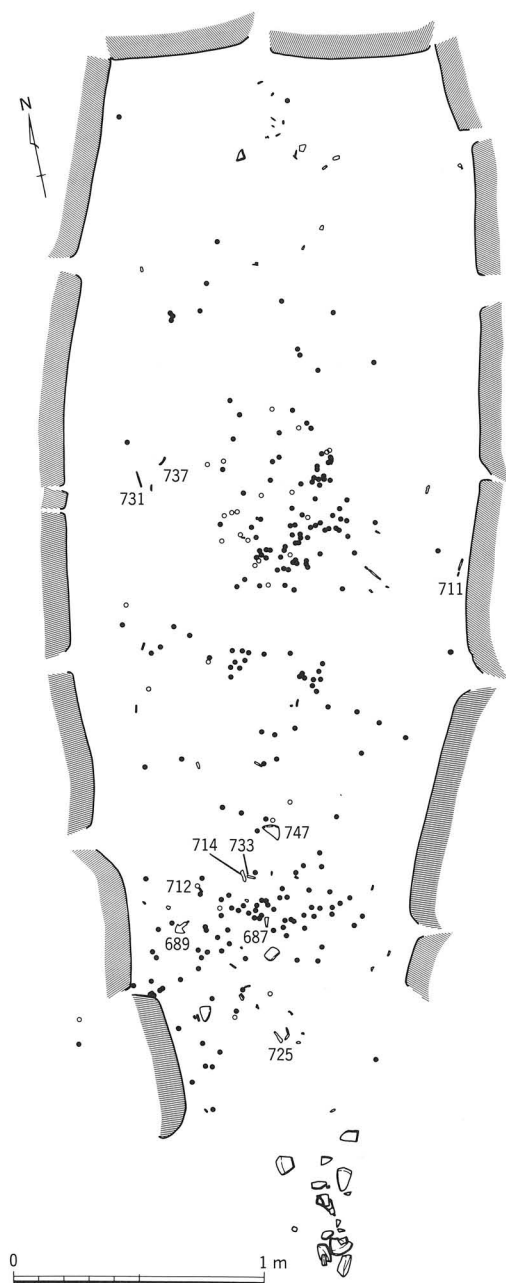
床面は2面が想定される(第31図)。第二次  
 床面には、20~30cm大で厚さ10cm大の砂  
 岩礫が用いられている。攪乱が床面付近ま  
 で及んでいることもあって、部分的に礫の  
 みられない所もあるが、石室内ほぼ全面に  
 敷いたものと考えられる。開口部では50~  
 70cm大で厚さ20cmの板状の砂岩を中心  
 に40cm大のやや四角い砂岩が周囲に配さ  
 れ、仕切石として用いられている。第一次  
 床面は、礫床は構築されていない。石室  
 開口部にも仕切石などは置かれず、かわ  
 って16層のよくしまった浅黄色粘質土が  
 石室内ほぼ全面に敷き詰められている。



第33図 SM1004第二次床面遺物出土状況

第二次床面の遺物は、鉄器が中心である(第33図)。特に馬具、鉄鏃は奥壁付近に集中しているが、石室中央部や開口部付近にも刀子や鉄鏃が若干みられる。奥壁付近の鉄器では、鉄鏃が、奥壁と左側壁のコーナー近くの礫床の隙間で集中して検出されている(図版20)。これらはほとんどが鋒を下に向けて方向が揃っており、意図的に置かれた可能性が高い。装身具は石室中央部と開口部付近に多くみられる。特にガラス玉は数自体は少ないが、石室中央部に集中する傾向がみられる。

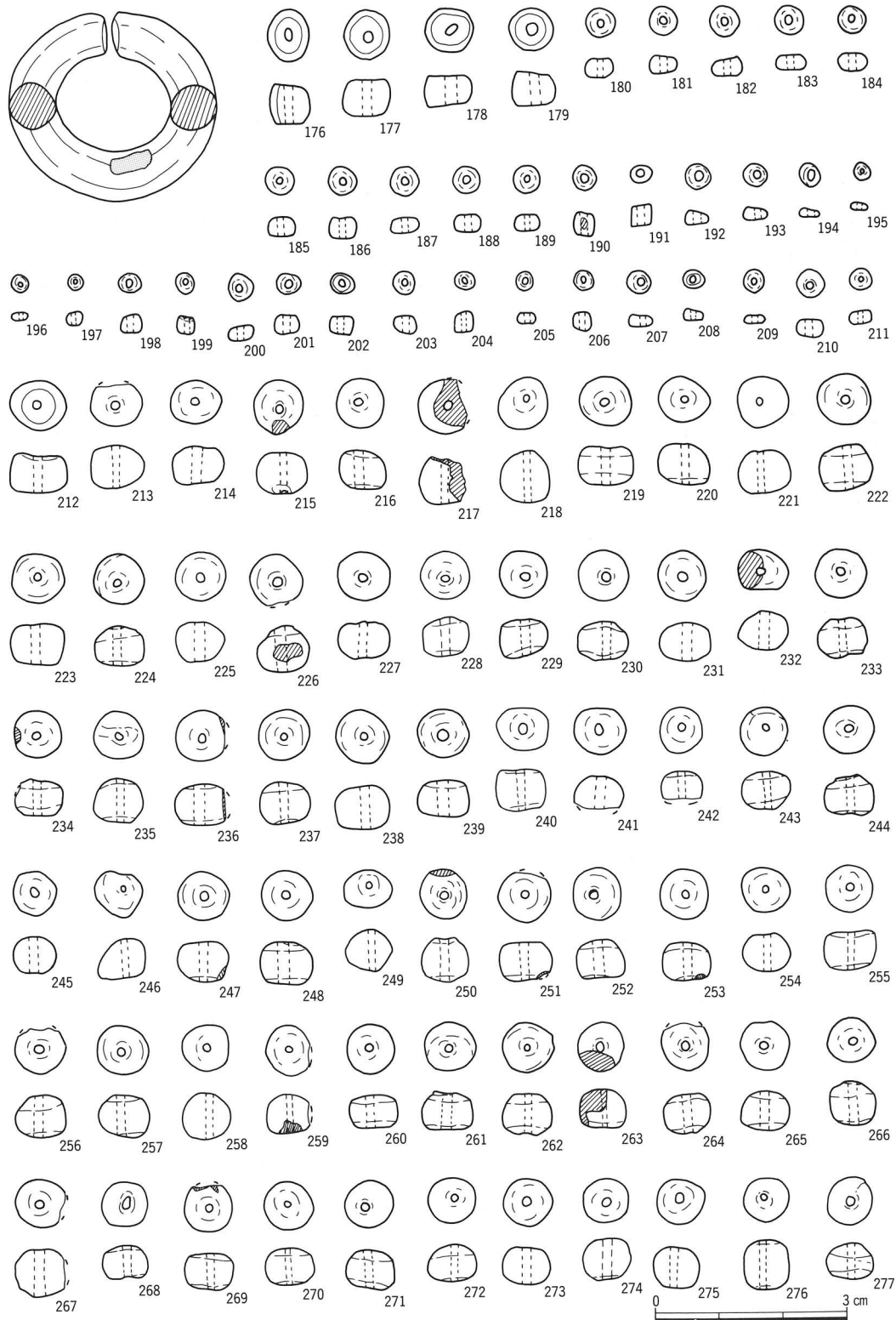
第一次床面ではほとんどが装身具で占められる。特に練玉が多く、石室中央部から開口部にかけてほぼ全面にみられる。ガラス玉は石室中央部に集中しており、第二次床面の礫床の石の下でつぶれて散ったような状態で、トンボ玉が1個体検出された。また開口部では、羨道部にかけての仕切石の下から須恵器の小片が出土している。明らかに礫床上面や下面から検出された遺物を除いて、礫床のない部分から検出された遺物については、層位やレベルから帰属する床面を想定したが、第二次床面に帰属するもので礫床の隙間から第一次床面上に転落したものなどは完全に分けることはできなかったため、杯身747や馬具737のように2面の床面に分かれてしまっているものもある。



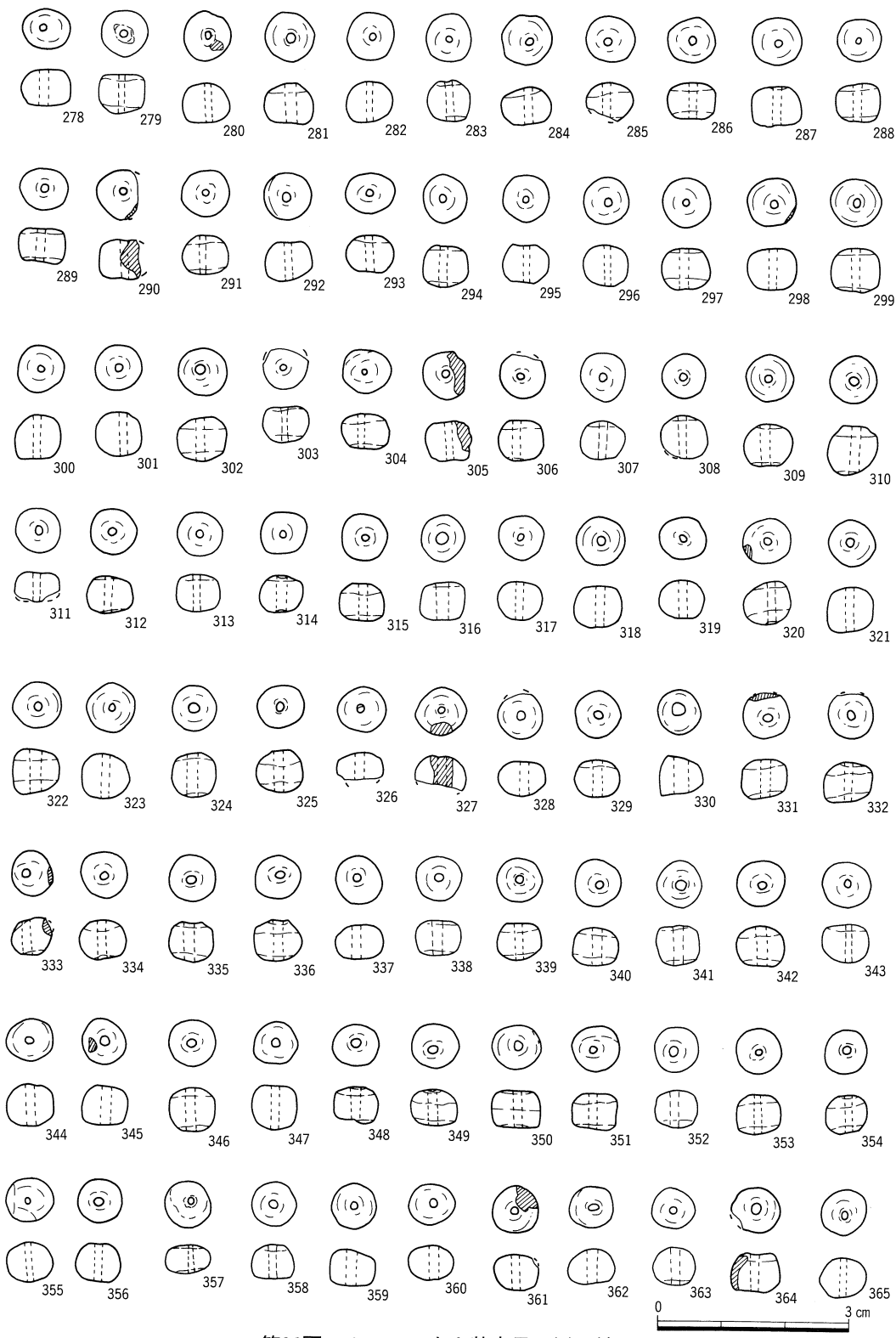
第34図 S M1004第一次床面遺物出土状況

### (3) 出土遺物

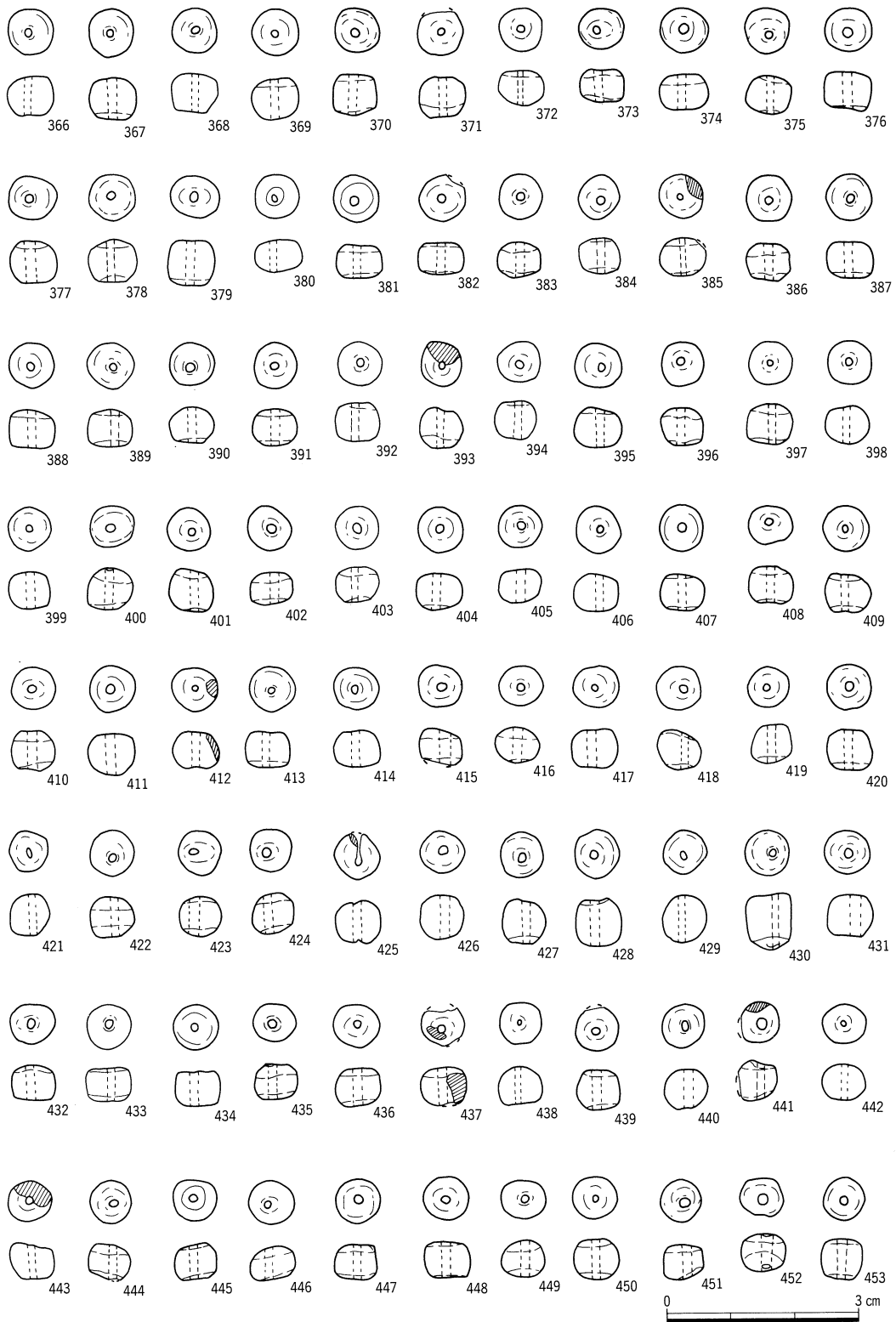
4号墳出土遺物には、装身具、鉄器、須恵器、土師器がある。以下各種遺物について記述する。



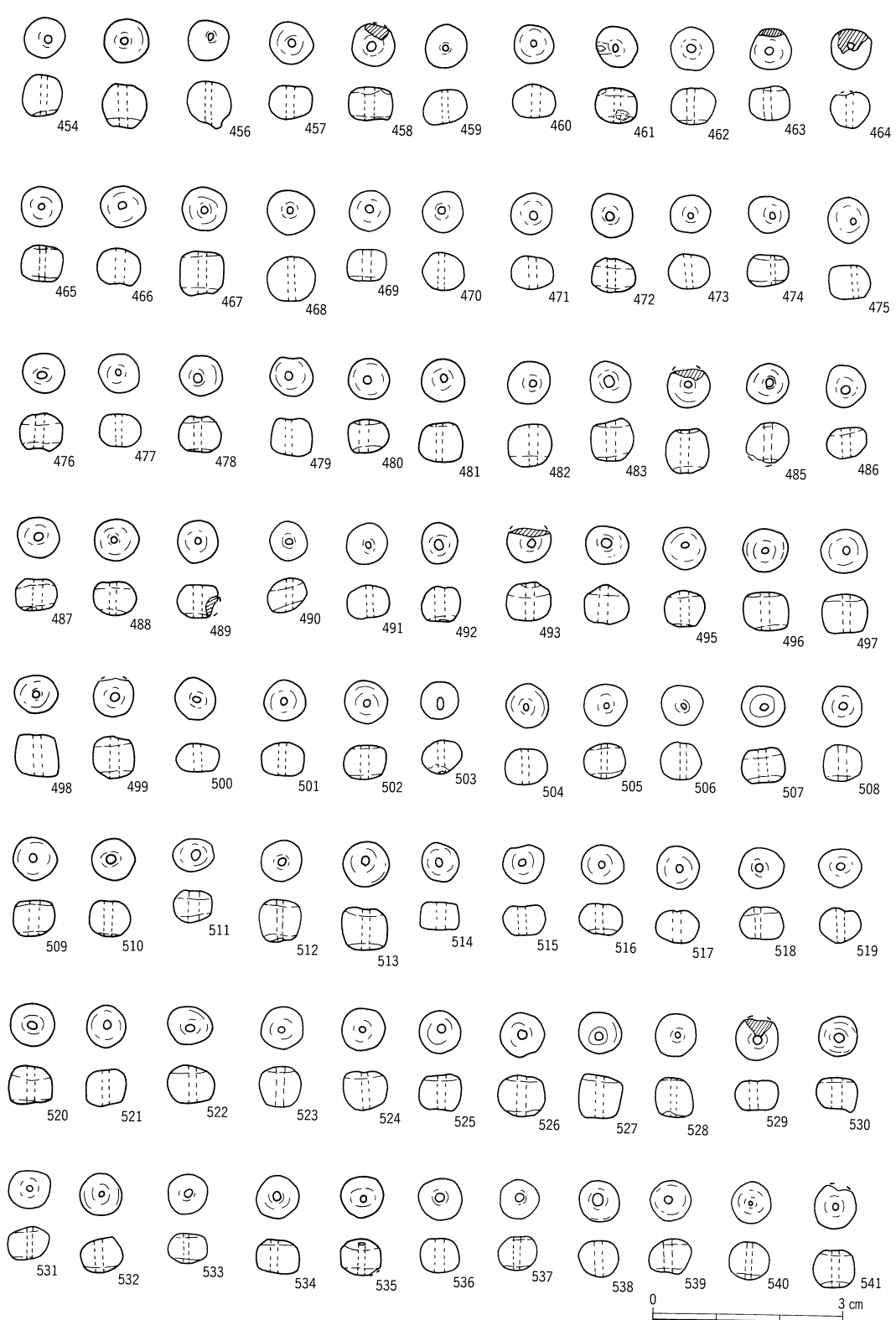
第35図 S M1004出土装身具 (1) 耳環・ガラス玉・練玉



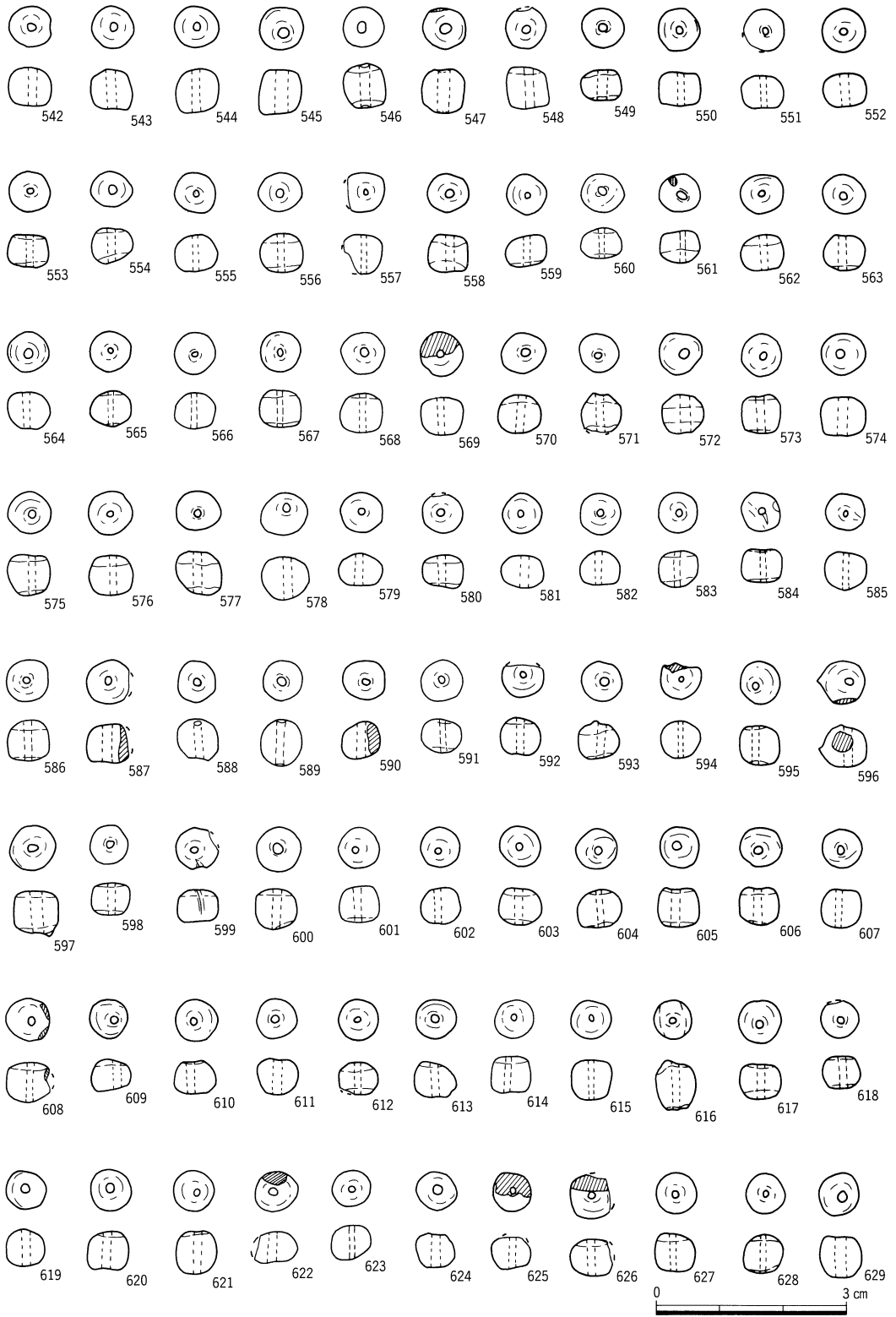
第36図 S M1004出土装身具 (2) 練玉



第37図 SM1004出土装身具 (3) 練玉

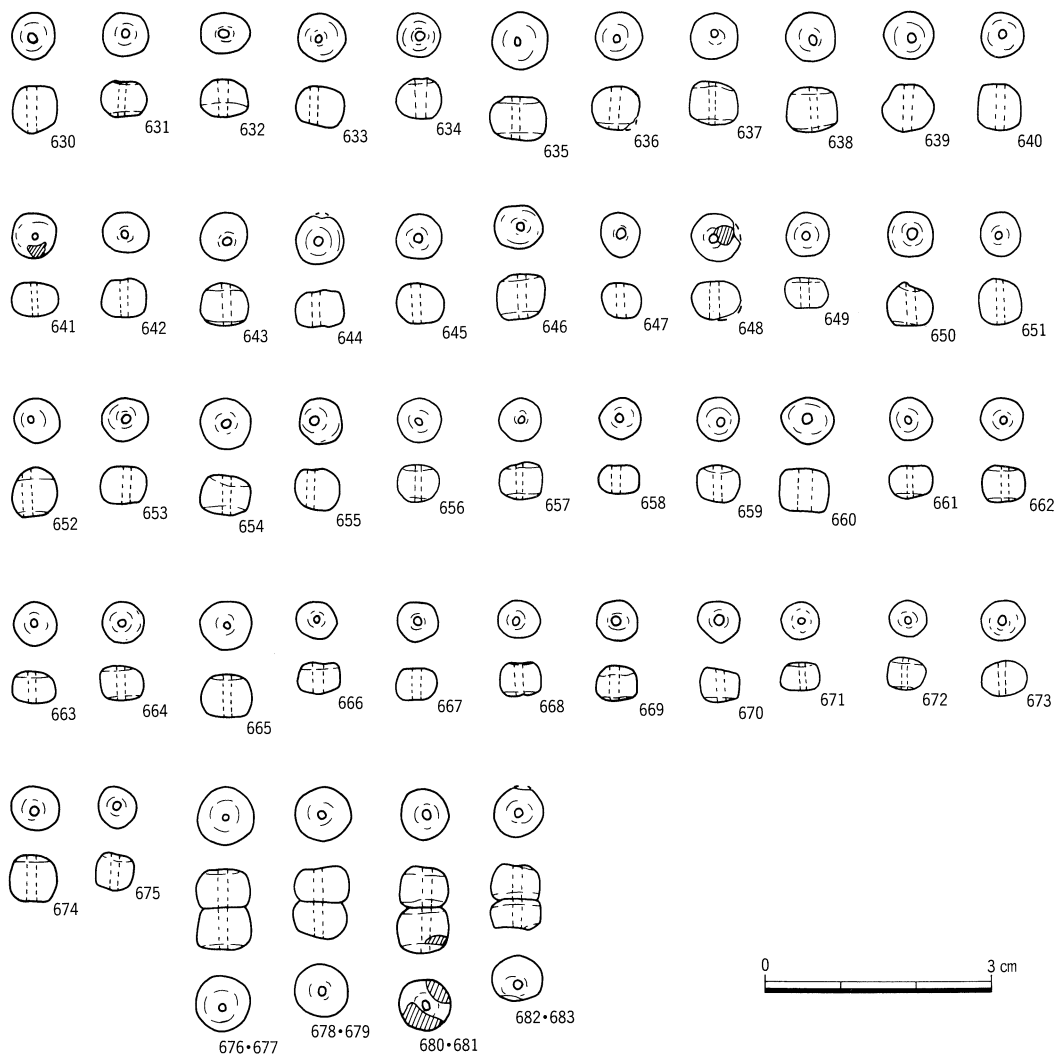


第38図 SM1004出土装身具 (4) 練玉



第39图 S M1004出土装身具 (5) 練玉



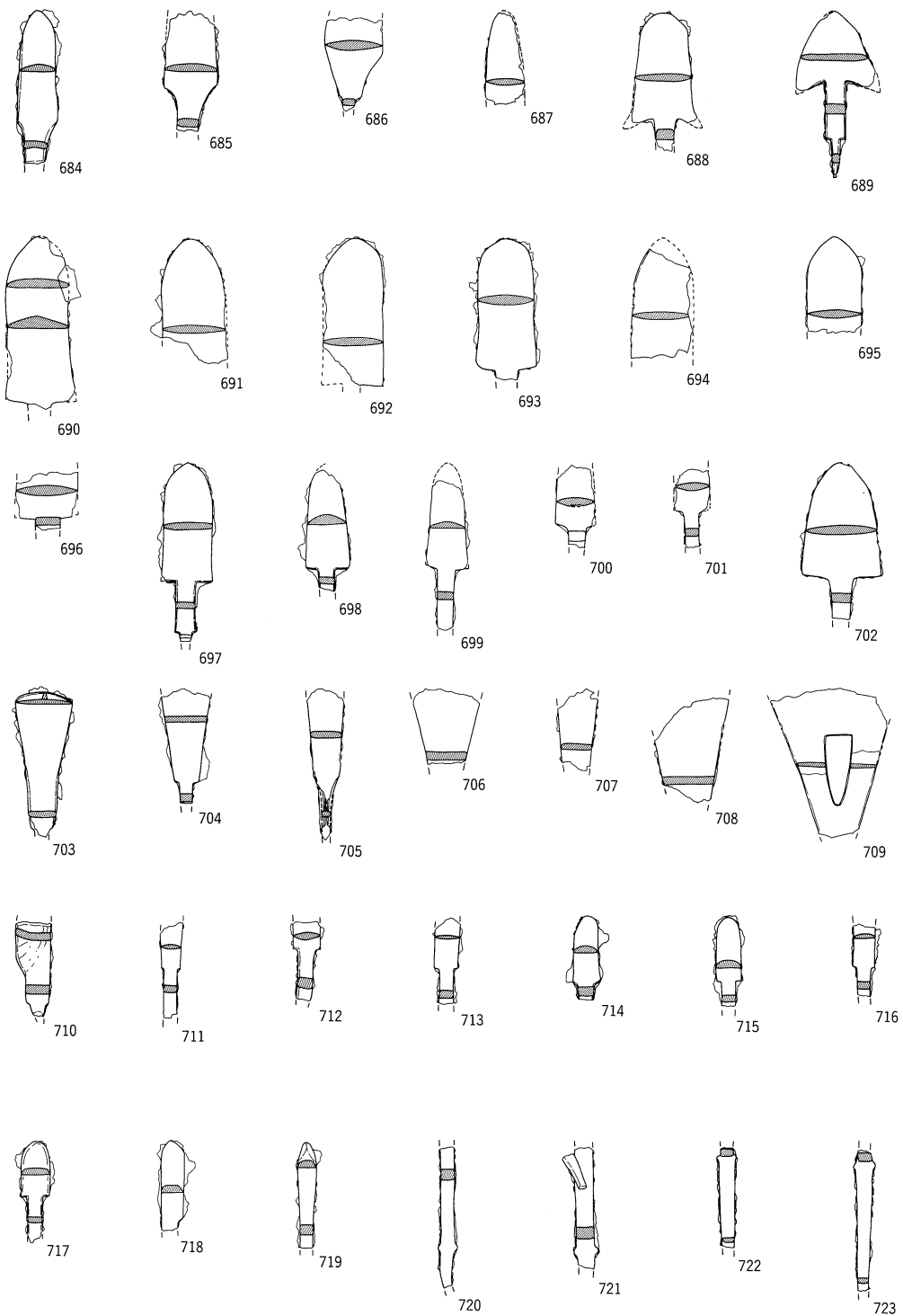


第40図 S M1004出土装身具 (6) 練玉

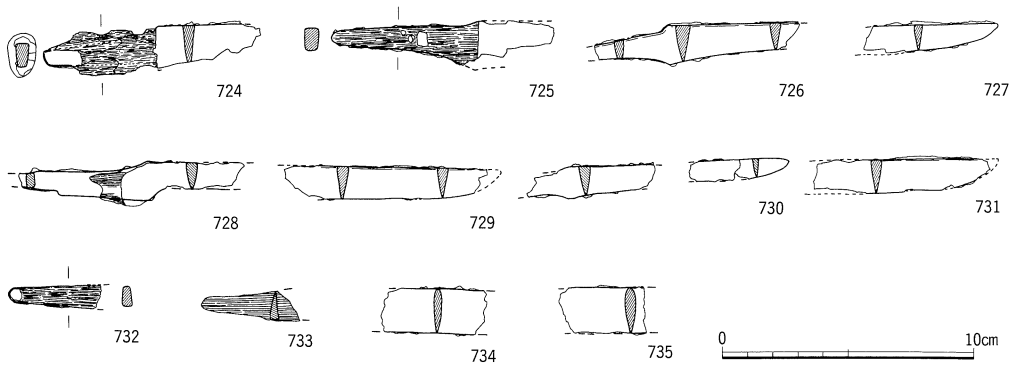
装身具 (第35~40図)

装身具には、耳環、ガラス玉、練玉がある。耳環は2つあるが、図化できたのは1つだけである。175は、わずかに内側にのみ銀箔が残存しているが、表面の大部分は剝離しており、ほとんどの部分は銅芯がむき出しになっている。芯は中実である。

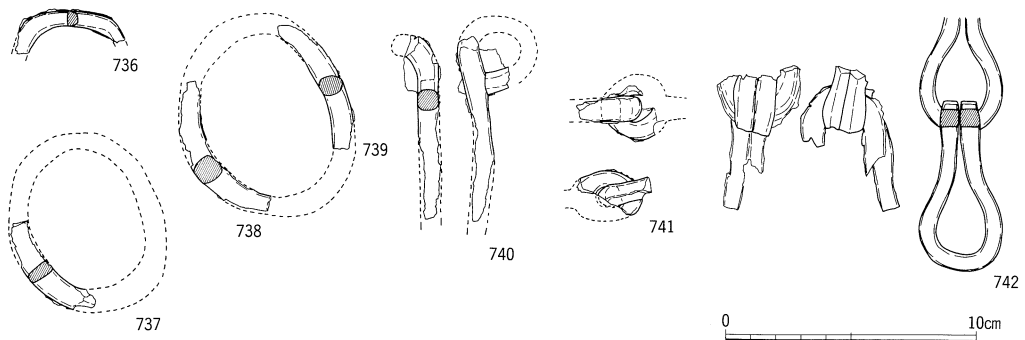
176から211はガラス玉である。176~178は紺色 (A群)、179はあいいろの玉 (B群) で、径は7~8mm、重量は0.3~0.5gほどあり、他の群と比較しても飛び抜けて大きい。上下両面が研磨されて平坦面となっており、孔と平行な方向に気泡がみられる。180~189は径4~5mm程度の紺色の玉である。一方の面の孔付近のみを研磨してあるものも多く、また切り離し時のものとみられる突起が認められるものがある (C群)。190は径4mm弱のあさぎいろの玉で、



第41図 S M1004出土鉄器 (1) 鉄鍬



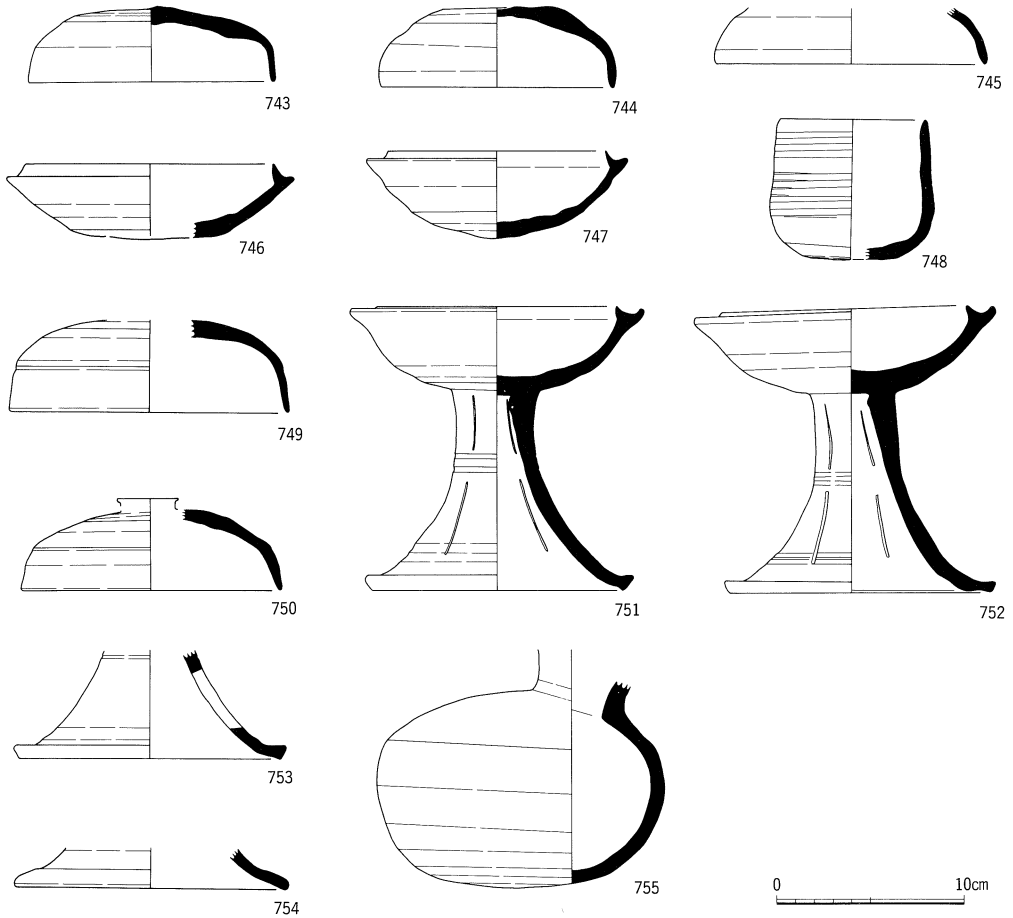
第42図 SM1004出土鉄器 (2) 刀子・鎌



第43図 SM1004出土鉄器 (3) 馬具

側面に紺色の斑点を有する(D群)。191は径3.4mmのあさぎいろの玉で、管状の素材を切断したものとみられる(E群)。192~197はあさぎいろの玉で、193が不透明であるほかは透明感がある(F群)。198・199は不透明なにぶあおみどり(G群)、200~204はやや透明感のあるさびあさぎ、205はにぶみどり、206~208は不透明なさびあさぎの玉で、202、206、208には両面に研磨が施されている(H群)。209は不透明なわさびいろの玉(I群)、210・211はうすきの玉(J群)で、孔付近にのみ研磨が施されている。このほかガラス玉には、オパールグリーンの子玉を持つトンボ玉(モザイク玉か?)や、こみどりのガラス製管玉とみられる破片があるが、復元、図化することはできなかった。

212~683は練玉である。基本的には球体を呈するものと白形を呈するものの大きく2つの形態に分けることができるが、その中間の形態を示すものもみられるため、厳密な区分は難しい。製作方法については、まず整形については、粘土を球体をなすものについては手で丸め、白形を呈するものは管状の素材を切断したものと、上下両面を指で挟み側面を整形したものとみられる。その後1本の細い芯に数個から数十個を刺して焼成を行う。これは676~683のように、2つの玉がくっついた状態のまま出土していることや、上下両面に平坦面を持つ



第44図 S M1004出土須恵器 須恵器

ものの中に、その平坦面のみ黒色になっていないものがみられることから推測される。また1面がくぼみ、1面が突出するような力が玉に加わっていることから芯に刺す場合に玉を乾燥させず柔らかい状態のまま行ったものと推測される。おそらく芯には燃えやすいものが用いられ、焼成後玉だけを集めて使用したのであろう。

#### 鉄器 (第41～43図)

鉄器には鍬、刀子、鎌、馬具がある。鍬には、柳葉鍬、腸袂三角形鍬、三角形鍬、方頭鍬、長頸鍬がある。684～687は柳葉鍬で、鍬身部は関部はいずれも撫関を呈するが、断面は684・685が片丸造を、686・687は両丸造を呈する。688・689は腸袂三角形鍬で、688は鋒からふくらを有して直線状に逆刺部に至るが、逆刺部が大きく外方へ開いている。689は鋒より緩やかに内弯しつつ逆刺部に至る。688が鍬身部幅に対して長さが長く、689はほぼ同じである。断面はいずれも平造である。690～702は三角形鍬であり、そのほとんどを長三角形鍬(690～701)

が占める。鍔身関部はいずれも直角関であるが、断面にはいくつかの種類がある。690は鍔身部中央は片丸造であるが、先端は平造となっている。691～697・702は平造で、698・699は片丸造、700・701は両丸造である。703～709は方頭鍔である。703は類円頭形の刃部を持つが、他は欠失しており、形態は不明である。709は鍔身部中央に逆三角形の透かし穴を持つが、鍔身部は剝離が激しく、かなり薄くなっている。710は鍔身部先端を欠失しており形式は不明である。鍔身部にはねじりの力が加えられているため、大きくねじれている。4号墳出土の平根鍔は、総じて個体差が大きい。711～723は長頸鍔である。711～717については長三角形の鍔身部に関部が角関を呈し、断面は両丸造（711～713）、片丸造（714～717）がある。718は片刃形を呈し、切刃造とみられる。719は無関の鍔身部の先端にのみ刃部がある「のみや」である。

724～733は刀子である。完形のものはないが、724・725・728・732・733には茎部に木質の残存が認められる。734・735は鎌である。いずれも刃部の中央付近の一部が残存しているのみである。

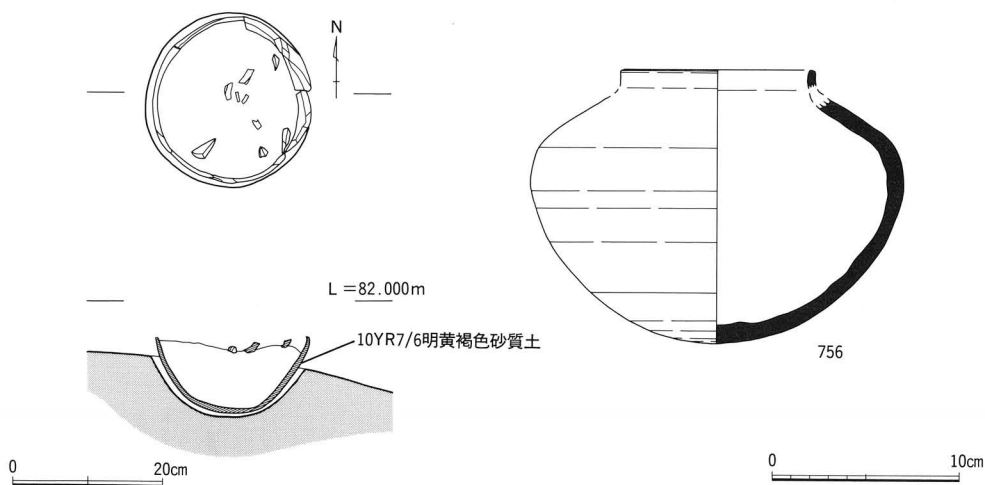
736～742は馬具の破片とみられる。736はコの字状を呈し台形の断面を持つ。立聞にあたりと考えられる。737～739は隅丸方形の断面を持ち、その平面形は円弧を描く。素環鏡板の一部とみられる。740は隅丸方形の断面を持ち、直線状にのびる先端が環状を呈する。引手の一部とみられる。741は環状を呈する2つの破片が鎖のようにかみ合っている。銜とみられる。742は2重の鎖がかみ合った様子から兵庫鎖とみられる。

#### 土器（第44図）

土器には、須恵器、土師器がある。土師器は提瓶があるが、残存状況が悪く、図化することとはできなかった。須恵器には蓋杯、椀、高杯、平瓶がある。743～745は杯蓋で、743と744は口径はよく似ているが、天井部の形状や調整技法に差異がみられ、745はやや口径が大きい。杯身は口径がやや大きく口縁部の立ち上がりが若干高いもの（746）と口径が小さく口縁部の立ち上がりが低く短いもの（747）がみられる。椀（748）は、体部が底部より直立して立ち上がり、回転カキメが施されている。749・750は高杯の蓋で、天井部にツマミの付かないもの（749）と偏平なツマミの付くもの（750）がみられる。751・752は有蓋長脚高杯で、いずれも口縁部は低く短く、また脚部には筋状の透かし穴が穿たれている。平瓶（755）は口縁部を欠く。軟質焼成のため、外面が磨耗しており、調整の残存状況はあまり良好とはいえない。

#### (4) 小結

4号墳のように小規模な胴張りの無袖式石室は、山田古墳群A2号墳や蓮華谷古墳群(II)



第45図 骨蔵器出土状況及び実測図

6号墳などが知られるが、徳島県内ではあまり多くはない。地域的には板野町から上板町にかけての阿讃山麓にかけてに偏る。また他の古墳の副葬品と比較した場合、本墳は馬具をはじめとする鉄製品や、玉類の数や質の面で充実しており、相違点が認められる。

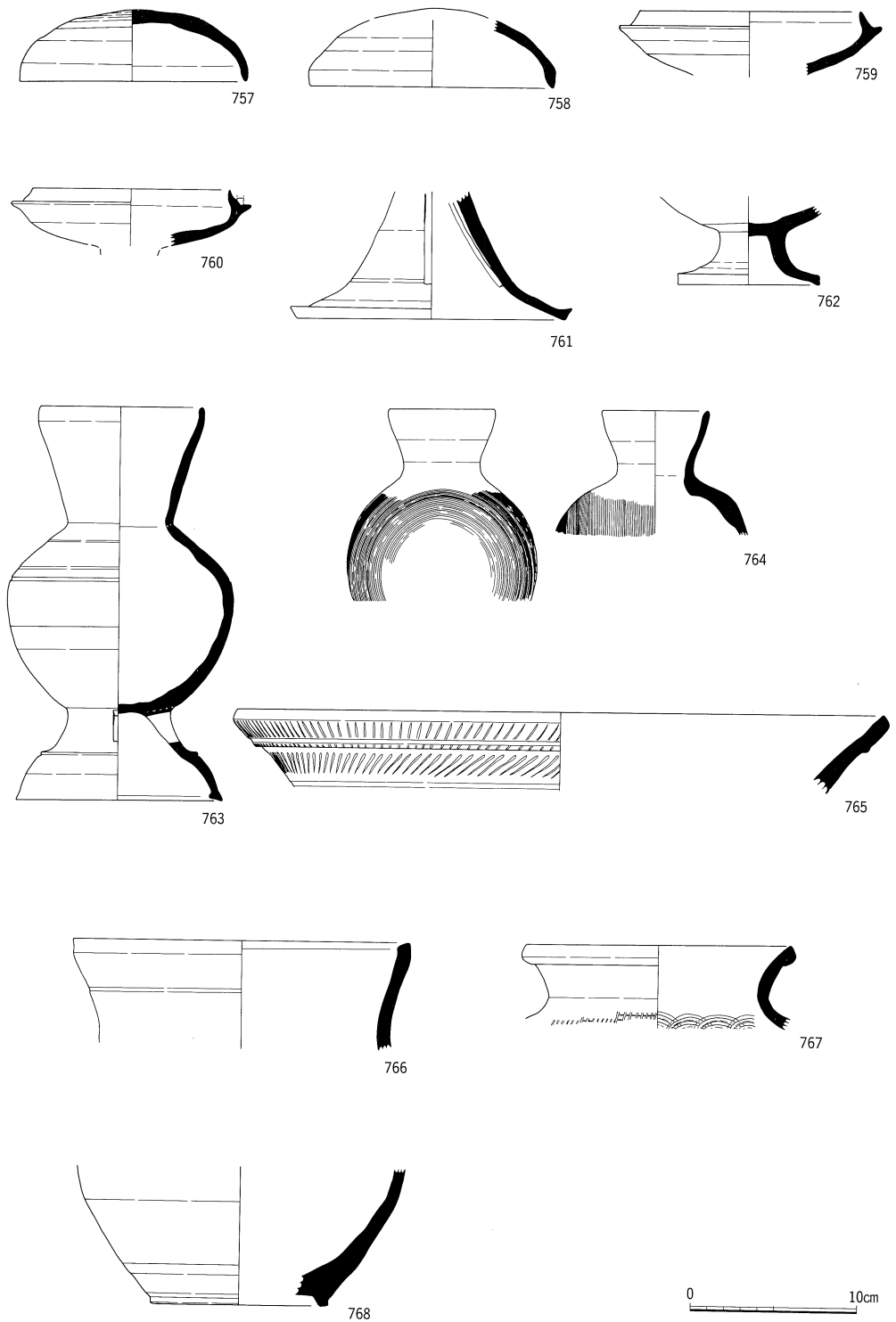
4号墳出土の須恵器は、大きく2つに分けることができる。1つは杯身746のように口縁部の立ち上がりやや高いもので、もう一つは杯身747や有蓋長脚高杯751、752のようにひくものである。残存状況から考えて、これがそのまま築造時期や埋葬回数を表しているとは考えにくいことから、最低2回の埋葬が行われたとするととどめたい。

## その他の遺構・遺物

### (1) 火葬墓

火葬墓は、4号墳の南の尾根先端に近い地点（D3グリッド）で検出された。地山を掘削した掘り方を持ち、掘り方は直径21cm、深さ7cmが残存していた。掘り方内には骨蔵器が埋納されており、掘り方と骨蔵器の間には、明黄褐色砂質土が堆積していた（第45図）。検出時には、体部下半が掘り方内にあり、体部上半から口縁部にかけてはその大半が削平のために失われており、一部が残存する下半部に落ち込んでいるだけであった。また骨蔵器内の堆積土には骨片が多く含まれていたが、その他に土師器片が若干含まれており、本来は土師質の土器で蓋が行われていたことが考えられる。

骨蔵器（756）は、口径9.8cm、体部最大径15.0cm、器高14.5cmの須恵器の短頸壺で、内面



第46図 遺構に伴わない遺物

には強い回転ナデが施されていた。なお骨蔵器内より検出された土師質の土器は、摩滅していたため図化できなかった。

## (2) 遺構に伴わない遺物 (第46図)

本古墳群では、検出された主体部のすべてが盗掘によるとみられる攪乱を受けていたこともあって、遺構以外から出土した遺物が多い。そのほとんどは調査区東側斜面や4号墳の南側斜面であり、特に4号墳の南側にあたるC6、D6といったグリッドが多い。以下で代表的なものを図示し、特徴などを記述しておく。

757~759は蓋杯で、757は口縁端部付近に1条の凹線が巡っている。760は有蓋高杯である。外面には黒色の自然釉がみられ、受部には蓋の端部が釉着している。761は長脚高杯の脚部である。3方に方形の透かし穴が穿たれ、裾部には1条の弱い凹線が巡っている。762は短脚高杯で、軟質焼成のため残存状況は良くない。763は台付壺である。口頸部は直線状に外側へ開くが、端部はやや内側に屈曲させている。体部には上位に1条、中位に2条の凹線が施されているが、上位の1条は弱い。脚部は中位で大きく屈曲させているが、その部分にやや鋭い稜を巡らせてあり、2方に方形の透かし穴が穿たれている。764は横瓶で、体部下半は残存していないが、表状を呈する体部の1面には回転カキメが、もう1面には回転ヘラ削りが施されている。765~767は甕で、いずれも口頸部のみ残存している。765は、丸い稜を巡らせ、2段の斜線文が施されている。外面には黒色の自然釉がみられる。766は中位に1条の凹線を巡らせ、外面には灰色の自然釉がみられる。767は体部の一部が残存する。体部外面には格子タタキが、内面には同心円タタキが施されている。768は壺の底部で、断面方形の高台が付いている。

757~767までは古墳に伴うものとみられるが、768は火葬墓が構築された時期に近いものとみられる。

## 3 まとめ

### (1) 外部施設について

墳丘はいずれも地山整形を行った後、盛り土を行うという方法で構築されているが、細部にはそれぞれ異なる点がみられる。まず1号墳では、砂質土を20~30cmの厚さで盛って墳丘を構築しているのに対して、2号墳と4号墳では盛土を行うにあたって、まず炭化物混じりのシルトまたは砂質土を薄く敷き、叩き締めて基底部分を構築した後盛土を行っている。特に



2号墳では、墳丘南側の開口部側は地山面が低いいため、盛土の厚さが厚くなるのに対応して、この工程を3度繰り返している。

掘り方は、盛土がある一定の高さに達した時点で掘削されたものと考えられる。いずれの主体部も削平を受けており、また攪乱が大きいために完全に盛土が残存しているわけではないため、どの段階から掘削が始まったかについては明らかにしがたい。ただ4号墳では墳丘基底部の薄い層が、石室内の壁体の裏込め土の上面にまでみられることから、地山整形面より掘削し始め、ある程度壁体を構築した後、墳丘を構築しつつさらに壁を積み上げていったことが考えられる。

周溝については、1、2号墳は、尾根鞍部を掘削せず裾部に構築し、3、4号墳は尾根鞍部を切って構築しており、構築法が異なる。

## (2) 石室について

1～3号墳についてはいずれも平面プランが長方形に近い。袖部の形態は、1号墳は不明であるが、2号墳と3号墳は両袖式である。4号墳は、胴張り形の平面プランを持つ無袖式の石室で、壁は2段目以降隅丸に構築されている。また2号墳と4号墳は仕切石を持つが、1号墳、3号墳は持たない。

床面礫床は1号墳と4号墳しか残存していない。1号墳では、床面の礫床に用いられる砂岩礫が、20cm大のものと30～45cm大で板状のものからなり、それぞれ玄室空間内で占める位置が異なることから、礫の大きさや敷き方で埋葬空間を分けたものと考えられるが、4号墳では礫の大きさや敷き方による空間の区分は認められない。なお主軸方向については、すべての古墳が尾根に沿う方向に主軸を設定しており差異は認められない。

## (3) 遺物について

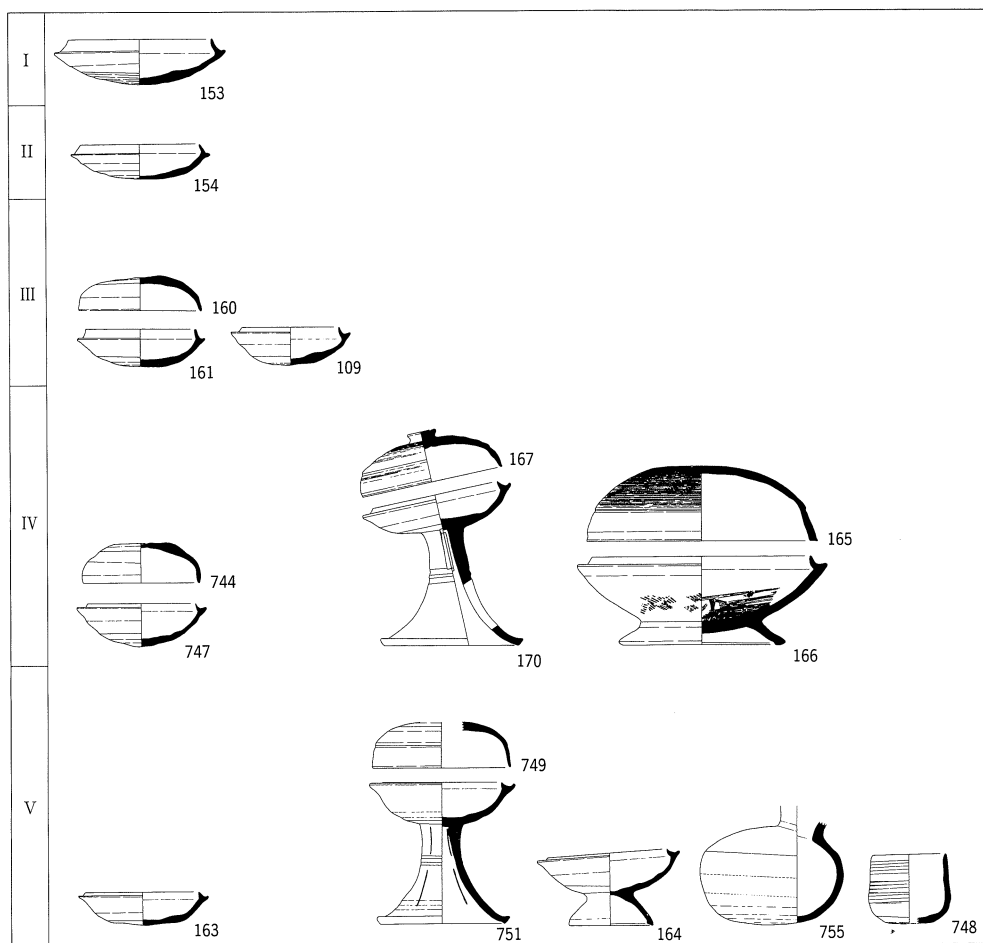
### 装身具

装身具は、1、2、4号墳から出土している。2号墳からはガラス玉しか検出されなかったが、1号墳では、耳環、ガラス玉と練玉が、4号墳では耳環、ガラス玉、練玉のほかトンボ玉やガラス製の管玉も検出されている。徳島県内での練玉の出土例の中で、出土状況の明確なものは、菖蒲谷西山B遺跡4号墳例のほか、蓮華谷古墳群(Ⅱ)5号墳例や山田古墳群A1号墳例、同3号墳、同1号石室墓がある。これらの古墳においては、いずれも装身具をはじめとする副葬品が豊富であることが共通点として挙げられる。またその出土状況もガラス玉が石室内の特定の地点に集中することが多いのに対して、練玉は比較的広い範囲で検出

されることが多い。しかし、蓮華谷古墳群（Ⅱ）5号墳ではほとんどが棺内遺物と考えられるが、西山B 4号墳例ではその可能性が低いこともあり、今後の出土例の増加を待って、その副葬形態や用途について検討すべきものとする。

### 須恵器

須恵器は、その形態からⅠ～Ⅴの5段階に分けることができる。Ⅰ期の須恵器は、2号墳蓋杯153がこれにあたる。口径15.3cm、器高4.9cmと大きく浅い杯身で、口縁部の立ち上がりが高く長い。また外面の回転ヘラ削りも単位が細かく丁寧に施されている。Ⅱ期の須恵器は、Ⅰ期に比べてやや小振りになり、外面の回転ヘラ削りも粗くなる。2号墳蓋杯154がこれにあたる。口縁部の立ち上がりはⅠ期に比べてやや低く短くなる。Ⅲ期の須恵器は、口径がさらに小さくなり、杯身は深くなるが、口縁部の立ち上がりはⅡ期と同様である。1号墳蓋杯109、



第47図 菖蒲谷西山B遺跡における須恵器の変遷

3号墳蓋杯160、161がこれにあたる。Ⅳ期の須恵器は、蓋杯がさらに深くなり、口縁部の立ち上がりは低く短くなる。4号墳747がこれにあたる。この段階においてみられるのは、3号墳高杯170～172のように、方形の透かし穴を2方2段に持ち、上段と下段では透かし穴が直交する方向に穿たれている。この中には170や171のように胎土が非常に粗く、歪みの大きいものも含まれている。また165・166のように徳島県内ではあまり例のない大形の短脚高杯もみられる。Ⅴ期の須恵器は、蓋杯が3号墳163のように口縁部の立ち上がりがⅣ期よりもさらに低く短くなる。また有蓋高杯の口縁部も同様の傾向を示している。有蓋長脚高杯は、Ⅳ期のものとは透かし穴の形態が異なる。Ⅴ期の有蓋長脚高杯は、筋状の透かし穴を2方2段に持つが、その方向は上段下段とも同じ方向である。また高杯の蓋には、天井部と口縁部との境に稜線が巡っており、やや古い要素を残している。これらのⅠ～Ⅴ期は、陶邑編年では、Ⅰ期がMT85型式に、Ⅱ～Ⅲ期がTK43型式に、Ⅳ～Ⅴ期がTK209型式にそれぞれ対応するものとする。

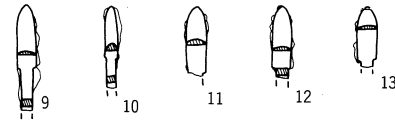
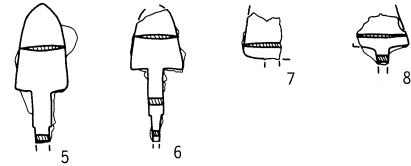
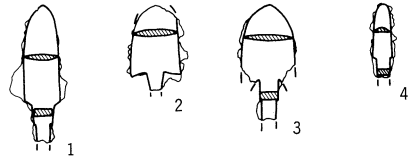
## 鉄器

1号墳が鍬と刀を、2号墳が鍬と刀子、鎌を、3号墳が刀子を、4号墳が鍬、刀子、鎌、馬具を持つ。鍬はいずれの古墳も方頭鍬または圭頭鍬を持つが、2号墳と4号墳ではその組成が異なる。2号墳では三角形鍬や長頸鍬に加えて方頭鍬が1本含まれるが、4号墳では方頭鍬の本数や占める割合が高い。また4号墳では、柳葉鍬とともに透かし孔を持つ方頭鍬がみられ、片丸造の三角形鍬などとともにこれまで徳島県内で確認されている古墳副葬鍬と比べて趣が異なる。さらに4号墳は石室は小規模であるにもかかわらず鉄器が豊富で、馬具を持つことも注目される。また1古墳群中にみられる刀、馬具、農工具といった鉄製品が共存することなく別々の主体部に副葬されていることは、蓮華谷古墳群（Ⅱ）でも同様の傾向を示すが、階層差等の反映という可能性も考えられる。

方頭鍬・圭頭鍬は、四国ではTK10併行期頃瀬戸内海沿岸において採用されはじめ、TK43併行期以降盛んに用いられる形式である<sup>(1)</sup>。しかし徳島県においては、TK43併行期の段階ではまだ多くは用いられず、多量に用いられるようになるのはTK209併行期の段階になってであり、瀬戸内地域とは若干の時間差が認められる。

徳島県のTK43併行期の副葬鍬は、その組成より2群に分けることができる。三角形鍬、腸扶三角形鍬と長頸鍬という組み合わせを基本として構成されるA群と、A群の組成にさらに方頭鍬・圭頭鍬を合わせ持つB群である。A群では、石井町ひびき岩17号墳例<sup>(2)</sup>、板野町蓮華谷（Ⅱ）3号墳例、同土壙墓例<sup>(3)</sup>、海南町大里1号墳例、美馬町願勝寺1号墳例<sup>(4)</sup>、山田古墳群A1号墳例などが挙げられ、B群では、石井町ひびき岩16号墳例<sup>(5)</sup>、蓮華谷（Ⅱ）5号墳例、山田古墳群A2号墳<sup>(6)</sup>などが挙げられ、本古墳群1号墳例、2号墳例は後者に属

するものである。A群では、三角形鍬はすべて平造であり、地域的には徳島県全域に、時期的にはTK43併行期全体にみられる。B群では、三角形鍬には平造のものに混じて片丸造のものがみられる。方頭鍬または圭頭鍬を合わせ持つが、その数は1本のみという例が多く、山田古墳群A 2号墳のように4本も副葬する例は希である。地域的にはほとんどが板野・上板といった阿讃山麓地域を中心に分布し、時期的にもTK43併行期でも新しい段階に属する。



1～4 大里1号墳(海部郡海南町)  
5～13 願勝寺1号墳(美馬郡美馬町)

第48図 TK43併行期の鉄鍬

TK209併行期になると、急激に方頭鍬・圭頭鍬の割合が高まる。柳葉鍬や片刃・鑿箭の長頸鍬など新しい形式のものが加わるという変化もみられ、TK43併行期の鉄鍬とは趣を異にする。本古墳群4号墳例は、従来の三角形鍬、腸袂三角形鍬、方頭鍬、

鍬身部が長三角形を呈する長頸鍬に加えて、柳葉鍬や片刃・鑿箭といった長頸鍬が新たに加わる。柳葉鍬には片丸造や両丸造などがあり、三角形鍬にも片丸造のものが、方頭鍬には透かし穴を持つものがみられる。また柿谷3号墳、同12号墳副葬鍬は方頭鍬のみで構成され、山田A 3号石室墓副葬鍬は、方頭鍬と片刃の長頸鍬で構成される。この段階においては、方頭鍬や圭頭鍬の占める割合が急激に高まり、平根鍬や長頸鍬の鍬身部にもヴァリエーションが豊富になる。

TK209併行期の副葬鍬は、現在上板町所在のものしか確認されていないため、これをもって徳島県全域にあてはめることは適当ではないが、TK43併行期における方頭鍬・圭頭鍬の導入が板野・上板という阿讃山麓地域において最も顕著であることや、その傾向がTK209併行期により強まっていることから、この地域が方頭鍬・圭頭鍬をはじめとする新しいタイプの鉄鍬の玄関口であることは十分考え得ることである。

徳島県古墳副葬鍬が、TK43併行期までの鉄鍬が緩やかな変化をみせていたのに対し、TK209併行期に急激な変化をみせることは、徳島県古墳被葬者やその集団に対する鉄鍬供給ルートの変化を反映したものと考えられる。

#### (4) 築造順序について

前述した須恵器の形態の変遷より、本古墳群の形成過程を復元すると、①2号墳が築造される。②2号墳で追葬が行われる。③3号墳と1号墳が築造される。④3号墳の追葬と4号

墳の築造が行われる。⑤3号墳の追葬と4号墳の追葬が行われる。という順に形成され、その役割を終えたものと考えられる。この①を6世紀後半に、⑤を6世紀末から7世紀初頭にかけての時期と考えたい。

本古墳群の特徴は、1～3号墳と4号墳との間に石室形態その他の面において大きな差異がみられるという1点に集約される。まず1～3号墳は平面形が長方形を呈するのに対し、4号墳は胴張りの無袖式石室である。本古墳群の周囲の古墳群では、横穴式石室の平面形は柿谷遺跡や山崎古墳群でみられるように胴張り形や隅丸形が多く、長方形は少ない。一方胴張りの無袖式石室は、板野・上板という阿讃山麓地域では比較的好くみられるものである。須恵器については、3号墳の大形有蓋短脚高杯などは徳島県内では例をみないものであり、一方4号墳の有蓋長脚高杯は柿谷7号墳例とよく似た筋状の透かし孔を有する。また鉄鏃の形式や組成では、1～2号墳では方頭鏃は少数であるのに対して、4号墳では大量に副葬されており、TK209併行期以降の副葬鏃の変化を明瞭に反映している。

以上のように1～3号墳と4号墳は、石室形態のみならず副葬品およびその組成の面でも大きな違いがある。それはこの地域の中で特異な個性を持つ古墳から、周囲の古墳群との共通の性格を強めたものへの変化である。このような変化が起こる時期は、板野、上板両地域の古墳群のほとんどが衰退する一方で、柿谷遺跡が秩序だてて形成されていく時期にあたる。このことは、7世紀初頭前後の阿讃山麓地域において、氏族集団の再編をも含む大きな変革がおこったことを表わしているのかも知れない。

## 注

- (1) 須崎一幸「徳島県下古墳出土の鉄鏃について」『真朱』第2号 1994
- (2) 「ひびき岩古墳群-17号墳発掘調査-」『徳島県文化財調査概報』昭和54年度 徳島県教育委員会 1980
- (3) 『蓮華谷古墳群(Ⅱ)・蓮華池遺跡(Ⅰ)』四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告4 財団法人 徳島県埋蔵文化財センター 1994
- (4) 石丸 洋「徳島県美馬群願勝寺1号墳」『古代学研究』56号 1969
- (5) 『ひびき岩16号墳』石井町教育委員会 1986
- (6) 本報告書所収

# 遺物觀察表

第1表 SM1001耳環計測表

番号	縦径(mm)	横径(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備 考
1	30.0	24.0	8.0	8.0	29.23	銅芯銀張り、のち鍍金
2	30.5	23.0	7.5	8.0	31.38	銅芯銀張り、のち鍍金
3	22.7	25.4	4.2	4.2	▲4.52	銅芯のみ残存
4	20.1	22.7	4.1	2.9	▲1.06	銅芯のみ残存

第2表 SM1001ガラス玉計測表

番号	分類	径(mm)	厚さ(mm)	孔径(mm)	重量(g)	色 調	気 泡	備 考
5	A	9.20	5.00	1.90	0.62	紺色	孔に平行	両面研磨
6	A	8.80	6.90	2.00	0.82	紺色	孔に平行	両面研磨
7	A	8.75	6.65	1.40	0.78	紺色	孔に平行	両面研磨
8	A	8.35	6.40	1.70	0.58	紺色		両面研磨
9	A	6.35	9.00	2.70	0.73	紺色		両面研磨
10	A	7.90	2.45	2.40	0.20	紺色	孔に平行	両面研磨
11	B	4.90	3.70	1.20	0.13	紺色		両面研磨
12	B	4.85	2.80	1.30	0.09	紺色		孔付近のみ研磨
13	B	4.70	2.90	1.30	0.08	紺色		孔付近のみ研磨
14	B	4.65	2.85	1.60	0.08	紺色		孔付近のみ研磨
15	B	4.65	3.05	1.10	0.09	紺色		孔付近のみ研磨
16	B	4.60	3.00	1.50	0.10	紺色		孔付近のみ研磨
17	B	4.60	2.90	1.20	0.08	紺色		孔付近のみ研磨
18	B	4.60	3.55	1.40	0.10	紺色		孔付近のみ研磨、突起あり
19	B	4.60	3.15	1.30	0.09	紺色		孔付近のみ研磨、突起あり
20	B	4.55	3.80	1.20	0.13	紺色		両面研磨
21	B	4.55	3.30	1.20	0.10	紺色		孔付近のみ研磨、突起あり
22	B	4.55	3.10	1.50	0.09	紺色		孔付近のみ研磨
23	B	4.50	3.35	1.05	0.10	紺色		孔付近のみ研磨、突起あり
24	B	4.50	2.80	1.60	0.07	紺色		孔付近のみ研磨
25	B	4.50	3.20	1.30	0.09	紺色		孔付近のみ研磨
26	B	4.45	2.85	1.10	0.09	紺色		孔付近のみ研磨
27	B	4.45	3.10	1.20	0.09	紺色		孔付近のみ研磨、突起あり
28	B	4.40	2.85	1.10	0.08	紺色		孔付近のみ研磨
29	B	4.40	3.05	1.40	0.08	紺色		孔付近のみ研磨
30	B	4.35	3.40	1.20	0.09	紺色		孔付近のみ研磨、突起あり
31	B	4.35	3.00	1.20	0.08	紺色		孔付近のみ研磨、突起あり
32	B	4.25	3.15	1.10	0.08	紺色		孔付近のみ研磨
33	B	4.75	2.50	1.80	0.07	紺色		両面研磨

番号	分類	径(mm)	厚さ(mm)	孔径(mm)	重量(g)	色調	気泡	備考
34	C	3.30	1.55	1.20	0.02	紺色		孔付近のみ研磨
35	C	3.30	1.70	1.10	0.02	紺色		両面研磨
36	C	3.20	1.80	1.30	0.02	紺色		両面研磨
37	C	2.60	1.50	0.80	0.01	紺青		孔付近のみ研磨
38	D	5.10	3.60	1.30	0.12	あさぎいろ		孔付近のみ研磨
39	D	4.40	2.95	1.70	0.08	あさぎいろ		両面研磨
40	D	4.30	2.45	1.10	0.06	あさぎいろ		孔付近のみ研磨
41	D	3.95	2.40	1.30	0.04	あさぎいろ		孔付近のみ研磨
42	D	3.85	1.70	1.40	0.03	あさぎいろ		孔付近のみ研磨
43	E	3.90	2.25	1.20	0.03	におおみどり		孔付近のみ研磨
44	E	3.50	1.85	1.30	0.03	におおみどり		孔付近のみ研磨
45	E	2.75	1.80	1.00	0.03	におおみどり		両面研磨
46	F	3.30	2.80	1.60	0.04	さびあさぎ		孔付近のみ研磨
47	F	3.00	2.55	1.00	0.03	さびあさぎ		孔付近のみ研磨
48	F	2.70	1.40	1.10	0.01	さびあさぎ		孔付近のみ研磨
49	G	5.10	2.40	2.50	0.08	こみどり		孔付近のみ研磨
50	H	5.20	2.90	1.60	0.09	うすき		孔付近のみ研磨
51	I	4.20	2.90	1.60	0.07	あいいろ		孔付近のみ研磨
52	I	3.90	2.85	1.20	0.06	あいいろ		孔付近のみ研磨
53	I	3.70	1.90	1.10	0.04	あいいろ		孔付近のみ研磨
54	I	3.55	1.95	1.40	0.04	あいいろ		孔付近のみ研磨
55	I	3.50	1.90	1.20	0.03	あいいろ		孔付近のみ研磨
56	I	3.50	2.05	1.30	0.03	あいいろ		孔付近のみ研磨
57	I	3.45	2.80	1.30	0.05	あいいろ		孔付近のみ研磨
58	I	3.30	1.90	1.20	0.03	あいいろ		孔付近のみ研磨
59	I	3.20	2.00	1.10	0.03	あいいろ		孔付近のみ研磨
60	I	3.10	1.90	0.90	0.01	あいいろ		孔付近のみ研磨
61	I	3.10	1.90	1.00	0.02	あいいろ		孔付近のみ研磨
62	I	3.10	1.30	1.20	0.02	あいいろ		孔付近のみ研磨
63	I	3.05	1.55	1.00	0.01	あいいろ		孔付近のみ研磨
64	I	3.00	1.50	1.20	0.02	あいいろ		孔付近のみ研磨
65	I	3.00	1.70	1.10	0.02	あいいろ		孔付近のみ研磨
66	I	3.00	1.40	1.10	0.01	あいいろ		孔付近のみ研磨
67	I	2.95	1.70	1.00	0.02	あいいろ		孔付近のみ研磨
68	I	2.90	2.00	1.00	0.02	あいいろ		孔付近のみ研磨
69	I	2.90	2.00	1.10	0.02	あいいろ		孔付近のみ研磨



番号	分類	径(mm)	厚さ(mm)	孔径(mm)	重量(g)	色調	気泡	備考
70	I	2.90	1.70	1.10	0.02	あいいろ		孔付近のみ研磨
71	I	2.90	1.95	0.90	0.03	あいいろ		孔付近のみ研磨
72	I	2.90	1.55	1.20	0.01	あいいろ		孔付近のみ研磨
73	I	2.80	1.50	1.20	0.02	あいいろ		孔付近のみ研磨
74	I	2.80	1.50	0.90	0.02	あいいろ		両面研磨
75	I	2.80	2.05	0.70	0.02	あいいろ		孔付近のみ研磨
76	I	2.75	1.60	0.80	0.02	あいいろ		孔付近のみ研磨
77	I	2.70	1.70	1.00	0.02	ぶどういろ		孔付近のみ研磨
78	I	2.70	1.20	1.20	0.02	あいいろ		孔付近のみ研磨
79	I	2.60	1.40	1.10	0.02	あいいろ		孔付近のみ研磨
80	I	2.60	1.35	0.80	0.01	あいいろ		孔付近のみ研磨
81	I	2.60	1.45	0.90	0.02	あいいろ		孔付近のみ研磨
82	I	2.50	1.90	1.00	0.01	あいいろ		孔付近のみ研磨
83	I	2.50	1.50	0.90	0.01	あいいろ		孔付近のみ研磨
84	I	2.45	1.90	0.80	0.01	あいいろ		孔付近のみ研磨
85	I	2.35	1.50	0.80	0.01	あいいろ		孔付近のみ研磨
86	I	2.30	1.80	0.80	0.01	あいいろ		孔付近のみ研磨
87	I	2.30	1.10	0.80	0.01	あいいろ		孔付近のみ研磨
88	I	2.30	1.55	1.20	0.01	あいいろ		孔付近のみ研磨

第3表 SM1001練玉計測表

番号	分類	径(mm)	厚さ(mm)	孔径(mm)	重量(g)	備考
89	A	7.40	6.25	1.50	▲0.32	
90	A	7.20	6.70	2.00	0.30	
91	A	7.00	5.55	1.30	0.27	
92	B	7.40	5.85	1.60	0.33	
93	B	7.30	5.85	1.40	▲0.27	
94	B	7.20	5.65	1.80	0.30	
95	B	6.90	5.90	1.80	0.28	
96	B	6.85	5.95	1.60	0.27	
97	B	6.70	5.90	2.20	0.26	
98	B	6.60	5.60	1.80	0.25	
99	B	6.05	5.50	1.40	0.25	
100	B	5.75	4.70	1.30	▲0.16	孔付近黒色なし
101	C	6.95	5.30	1.70	0.26	
102	C	6.65	5.80	1.40	0.30	

番号	分類	径(mm)	厚さ(mm)	孔径(mm)	重量(g)	備考
103	C	6.15	3.50	1.60	0.12	孔付近黒色なし
104	D	6.70	7.00	2.00	0.27	

第4表 SM1001鉄器計測表

番号	種類	出土地点	法 量				備考			
105	鉄刀	石室内	刀身幅2.9cm 刀身厚1.4cm 残存長6.0cm							
106	鉄鏃	石室埋土	鏃身部	残存長2.6cm	幅1.4cm	厚4.0mm	茎部	幅4.8mm	厚4.2mm	茎部に若干木質が認められる
107	鉄鏃	石室埋土	残存長2.1cm 幅9.2mm 厚3.1mm							

第5表 SM1001須器器観察表

番号	器種	出土地点	法量(cm)	形態の特徴	技法の特徴	備考
108 第12図	蓋杯 蓋	石室床面 直上	口径 13.8 残存高 2.5	口縁部はやや小さく屈曲し、直線状に外下方へ下り、端部はやや丸い。	回転ナデ。	胎土 密。 焼成 良好。 色調 外面 青灰色 内面 青灰色 断面 青灰色 ロクロ回転 時計回り
109 第12図 図版7	蓋杯 身	羨道部 攪乱	口径 10.3 受部径 12.6 器高 4.1	口縁部は外反気味に延び、端部はやや鋭い。受部は外上方へ延び、端部は丸い。底部は丸いが、中央部はやや平坦。	底部外面回転ヘラ削り。 他は回転ナデ。	胎土 密。 焼成 良好。 色調 外面 青灰色 (部分的に緑灰色) 内面 青灰色 ロクロ回転 時計回り
110 第12図	台 付 壺	周溝	脚径 11.8 残存高 2.9	脚部は倒杯形に下り、端部に至る。端部付近に1条の稜が巡る。	回転ナデ。	胎土 密。 焼成 良好。 色調 外面 青灰色 内面 青灰色 断面 赤褐色 ロクロ回転 不明

第6表 SM1002ガラス玉計測表

番号	分類	径(mm)	厚さ(mm)	孔径(mm)	重量(g)	色調	気泡	備考
111	A	4.65	2.85	2.40	0.08	ダービーブルー		両面研磨
112	B	4.55	3.40	1.80	0.09	ダービーブルー	孔に平行	両面研磨、孔楕円
113	C	5.10	2.95	2.40	0.11	インキブルー	孔に平行	両面研磨
114	C	4.55	2.70	1.20	0.07	紺青		両面研磨
115	C	4.10	2.55	1.30	0.06	紺		両面研磨
116	D	4.25	2.05	1.60	0.05	さびあさぎ		孔付近研磨、孔楕円
117	D	3.90	2.20	1.40	0.04	さびあさぎ		両面研磨
118	D	3.85	2.65	1.20	0.05	さびあさぎ		孔付近研磨
119	D	3.85	2.15	1.40	0.04	さびあさぎ		両面研磨、孔楕円
120	D	3.80	2.80	1.30	0.06	さびあさぎ		孔付近研磨、孔楕円

番号	分類	径(mm)	厚さ(mm)	孔径(mm)	重量(g)	色調	気泡	備考
121	D	3.75	2.65	1.10	0.04	さびあさぎ		孔付近研磨
122	D	3.65	2.20	1.50	0.04	さびあさぎ		孔付近研磨、孔楕円
123	D	3.60	2.40	1.30	0.04	さびあさぎ		孔周辺研磨
124	D	3.45	2.60	1.20	0.04	さびあさぎ		孔付近研磨、孔楕円
125	D	3.45	2.40	1.70	0.03	さびあさぎ		孔付近研磨、孔楕円
126	D	3.20	2.50	1.20	0.04	さびあさぎ		両面研磨、孔楕円
127	D	3.20	2.25	1.20	0.03	さびあさぎ		孔付近研磨
128	D	3.15	2.60	1.20	0.03	さびあさぎ		孔付近研磨
129	D	2.90	2.70	1.10	0.04	さびあさぎ		孔周辺研磨
130	E	4.40	3.40	1.10	0.08	わさびいろ		両面研磨
131	E	4.15	2.80	1.30	0.07	わさびいろ		孔付近研磨、孔楕円
132	E	4.00	2.00	1.30	0.04	わさびいろ		両面研磨
133	F	4.90	3.45	1.60	0.09	なんどいろ	孔に平行	両面研磨、孔楕円
134	F	4.45	3.20	1.30	0.08	なんどいろ		両面研磨
135	G	3.80	2.05	1.20	0.04	あさぎいろ		両面研磨
136	G	3.55	1.90	1.30	0.04	あさぎいろ		孔付近研磨
137	G	3.40	1.50	1.30	0.02	あさぎいろ		孔付近研磨
138	H	3.25	1.95	1.00	0.03	あいろ		孔付近研磨
139	H	3.00	1.70	1.10	0.04	あいろ		両面研磨
140	H	2.35	2.35	1.00	0.02	あいろ		孔付近研磨

第7表 SM1002鉄器計測表

番号	種類	出土地点	全長 (cm)	鍔身部(cm)			筥被部(cm)			茎部長 (cm)	備考	
				長	幅	厚	長	幅	厚			
141	鉄鍔	礫床上	▲5.70	5.70	2.50	0.30	▲0.45	0.90	▲0.25	……	筥被部、茎部欠損	
142	鉄鍔	石室内	▲3.90	▲3.10	2.10	0.35	▲0.70	0.70	0.40	……	筥被部、茎部欠損	
143	鉄鍔	石室内	▲1.90	▲1.90	2.70	0.20	……	……	……	……	鍔身部先端のみ残存	
144	鉄鍔	石室内	▲7.20	……	……	……	▲3.50	0.90	0.40	3.70	鍔身部欠損	
145	鉄鍔	石室内	▲2.60	……	……	……	▲2.60	0.70	0.45	……	筥被部のみ残存	
146	鉄鍔	石室内	▲2.60	……	……	……	▲2.60	0.50	0.50	……	筥被部のみ残存	
147	鉄鍔	石室埋土	▲2.60	……	……	……	……	……	……	▲2.60	茎部のみ残存	
148	刀子	礫床上	▲6.20	刃部長▲5.10cm 幅1.40cm 厚0.70cm							▲1.10	鍔残存
149	刀装具	石室埋土	▲1.60	残存幅1.90cm 厚さ0.20cm								
150	曲刃鍔	石室内	▲8.70	幅1.90cm 厚さ0.30cm								先端と折り返し部を欠く
151	曲刃鍔	石室埋土	▲3.10	幅2.10cm 厚さ0.20cm								先端のみ残存 150と同一個体の可能性あり

第8表 SM1002須恵器観察表

番号	器種	出土地点	法量 (cm)	形態の特徴	技法の特徴	備考
152 第20図	蓋 杯 蓋	石室内 墳丘	口径 16.5 残存高 3.4	口縁部は緩やかに内湾しつつ下り、 端部付近でわずかに屈曲して直線状 に下る。端部はやや丸い。	回転ナデ。	胎土 やや粗。 焼成 良好。 色調 外面 青灰色 内面 青灰色 断面 青灰色 ロクロ回転 不明
153 第20図 図版11	蓋 杯 身	石室内 盗掘坑 墳丘	口径 15.3 受部径 18.2 器高 4.9	口縁部は外反気味に立ち上がり、端 部はやや鋭い。 受部は外方へ水平に延び、端部はや や鋭い。立ち上がり基部に1条の凹 線が巡る。 底部は浅く丸い。	底部外面回転ヘラ削り。 他は回転ナデ。 のち底部内面弱い一定方向ナデ。	胎土 密。 焼成 良好。 色調 外面 青灰色 内面 青灰色 ロクロ回転 反時計回り
154 第20図 図版11	蓋 杯 身	口径 12.7 受部径 14.4 器高 3.7	石室内 墳丘	口縁部は内傾してのち中位で内側に 屈曲して外反気味に立ち上がり、端 部は鋭い。 受部は水平に外方へ延び、端部はや や鋭い。 底部は浅く平坦。	底部外面回転ヘラ削り。 他は回転ナデ。	胎土 密。 焼成 良好。 色調 外面 青灰色 内面 青灰色 ロクロ回転 時計回り
155 第20図 図版11	直 口 壺	石室内	口径 7.2 体部 最大径 13.2 器高 12.6	口頸部は直立して上方へ延び、端部 は丸い。 体部は直線的に外下方へ下り、中位 で大きく屈曲して内湾気味に底部に 至る。 底部は浅く平坦。	底部外面回転ヘラ削り。 他は回転ナデ。	胎土 やや粗。 焼成 良好。 色調 外面 緑灰色 内面 青灰色 ロクロ回転 時計回り
156 第20図	短 頸 壺	墳丘 盗掘坑	口径 7.7 残存高 4.0	口縁部は短く直立して上方へ延び、 端部はやや丸い。 体部は直線的に外下方へ下り、中位 で屈曲する。	回転ナデ。	胎土 密。 焼成 良好。 色調 外面 青灰色 内面 青灰色 ロクロ回転 不明
157 第20図	瓶 類	墳丘	口径 5.9 残存高 4.4	口頸部は外反のち内湾気味に上方へ 延び、端部は丸い。	回転ナデ。	胎土 密。 焼成 良好。 色調 外面 青灰色 内面 青灰色 断面 青灰色 ロクロ回転 不明

第9表 SM1003鉄器計測表

番号	種類	出土地点	刃部長 (cm)	刃部幅 (cm)	刃部厚 (cm)	備考
158	刀子	石室内攪乱	▲6.60	1.10	0.50	刃部のみ残存

第10表 SM1003須恵器観察表

番号	器種	出土地点	法量 (cm)	形態の特徴	技法の特徴	備考
第27図 図版17	蓋 杯 蓋	羨道	口径 13.6 器高 4.2	口縁部はやや外反気味のち内湾しつ つ下り、端部に至る。端部はやや丸 い。 天井部はやや高く平坦。 天井部外面にヘラ記号あり。 若干歪みあり。	天井部外面回転ヘラ削り。 他は回転ナデ。 のち天井部内面弱い一定方向ナデ。	胎土 密。 焼成 やや不良。 色調 外面 明青灰色 内面 明青灰色 ロクロ回転 反時計回り

番号	器種	出土地点	法量 (cm)	形態の特徴	技法の特徴	備考
160 第27回 図版17	蓋 杯 蓋	盗掘坑	口径 13.1 器高 3.8	口縁部はやや外反気味に外下方へ下り、端部は丸い。 天井部は低く、平坦。	天井部外面回転ヘラ削り。 他は回転ナデ。	胎土 やや粗。 焼成 良好。 色調 外面 暗灰色 内面 灰色 ロクロ回転 時計回り
161 第27回 図版17	蓋 杯 身	羨道部	口径 11.8 受部径 13.5 器高 4.1	口縁部はやや外反気味に高く立ち上がり、端部はやや鋭い。受部は外方へ水平やや上向きに延び、端部は端部はやや鋭い。底部は丸いが、中央部はやや平坦。	底部外面回転ヘラ削り。 他は回転ナデ。 のち底部内面不整方向ナデ。	胎土 やや粗。 焼成 良好。 色調 外面明オリブ灰色 内面青灰色 ロクロ回転 時計回り
162 第27回 図版17	蓋 杯 身	盗掘坑	口径 11.3 受部径 13.0 器高 3.7	口縁部は内傾して外反気味に立ち上がり、端部は鋭い。 受部は外やや上方へのび、端部は鋭い。 底部は浅く平坦。	底部外面回転ヘラ削り未調整。 他は回転ナデ。	胎土 やや粗。 焼成 良好。 色調 外面 暗灰色 内面 灰色 ロクロ回転 時計回り
163 第27回 図版17	蓋 杯 身	羨道部	口径 12.1 受部径 13.7 器高 3.6	口縁部は短く内傾して立ち上がる。端部は鋭い。 受部は外上方へ延び、端部は丸い。 底部は浅く平坦。	底部内面回転ヘラ削り未調整。 他は回転ナデ。	胎土 やや粗。 焼成 やや不良。 色調 外面 青灰色 内面 灰色 ロクロ回転 時計回り
164 第27回 図版17	高 杯 身	羨道部	口径 12.8 受部径 15.1 器高 8.1	口縁部は内傾してのち屈曲して短く上方へ延びる。端部はやや鋭い。 受部は外上方へ延び、端部は丸い。 底部は丸く、倒杯形に脚部が延びる。 脚部の歪み大。	杯部、底部外面回転ヘラ削り。 他は回転ナデ。	胎土 密。 焼成 良好。 色調 外面 灰白色 内面 明青灰色 ロクロ回転 不明
165 第27回 図版17	高 杯 蓋	羨道部 盗掘坑	口径 24.8 器高 8.0	口縁部は直線的に外下方へ下り、端部に平坦面を持つ。天井部は高く丸い。口縁部と天井部は丸みを帯びた稜線によって分けられる。 外面の大部分に自然釉あり。 天井部外面に重ね焼きの痕跡あり。	天井部外面平行タタキのち回転カキメ。 他は回転ナデ。 のち天井部内面不整方向ナデ。	胎土 密。 焼成 良好。 色調 外面 黒色 内面 灰色 ロクロ回転 不明
166 第27回 図版17	高 杯 身	羨道部 盗掘坑 墳丘	口径 23.5 受部径 26.7 器高 9.5	杯部 口縁部は短く外反して立ち上がり、端部は鋭い。受部は外上方へ延び、端部は丸い。底部は深く丸い。 脚部 杯部の底部より外反気味のち内弯気味に下り、端部に至る。脚部は歪み大。受部に焼成時の釉着あり。	底部外面平行タタキのち回転カキメ 他は回転ナデ。 のち底部内面に強い不整方向ナデ。	胎土 密。 焼成 良好。 色調 外面 黒色 内面 青灰色 ロクロ回転 不明
167 第27回 図版17	高 杯 蓋	羨道部 盗掘坑	口径 15.1 器高 5.5 ツمام径 3.1	口縁部は内弯しつつ外下方に下り、端部付近でわずかに外反する。端部は丸い。天井部は丸い。天井部と口縁部はやや丸い稜線によって分けられる。天井部には偏平なツمامが付く。外面のほぼ全面に自然釉あり。	天井部外面回転カキメ。 他は回転ナデ。	胎土 粗。 焼成 良好。 色調 外面 灰白色 内面 灰白色 ロクロ回転 不明
168 第27回 図版17	高 杯 蓋	羨道部	口径 14.0 器高 5.3 ツمام径 3.5	口縁部は内弯しつつ下り、端部は丸い。天井部は丸いが、中央部は平坦。天井部と口縁部は丸い稜線によって分けられる。天井部に偏平なツمامが付く。 外面のほぼ1/2に自然釉あり。	回転ナデ。	胎土 密。 焼成 不良 色調 外面 灰白色 内面 灰白色 ロクロ回転 不明

番号	器種	出土地点	法量 (cm)	形態の特徴	技法の特徴	備考
169 第27図	高杯 蓋	羨道部	口径 14.8 残存高 3.7	口縁部はやや内弯気味に外下方へ下り、端部は丸い。 天井部と口縁部は丸い稜線によって分けられる。 外面に自然釉あり。	回転ナデ。	胎土 やや粗。 焼成 良好。 色調 外面 灰色 内面 灰白色 断面 赤褐色 口クロ回転 不明
170 第27図 図版17	高杯 身	羨道部	口径 13.6 受部径 16.1 底径 14.4 器高 17.2	杯部 口縁部は短く外反気味に立ち上がり、端部は鋭い。受部は外上方へ延び、端部は丸い。底部は浅く、平坦。 脚部 基部より直線状に下り、中位より大きく外方へ開く。中位に2条の沈線が巡り、2方2段の方形の透かし穴が穿たれている。 外面のほぼ全体に自然釉あり。 受部に焼成時の軸着あり。	回転ナデ。	胎土 粗。 焼成 やや不良。 色調 外面 灰白色 内面 灰白色 断面 青灰色 口クロ回転 不明
171 第27図 図版17	高杯 身	羨道部	口径 13.4 受部径 15.6 底径 13.4 器高 17.2	杯部 口縁部は短く外反気味に立ち上がり、端部は鋭い。受部は外上方へ延び、端部はやや鋭い。底部は丸いが浅い。 脚部 基部よりわずかに外反しつつ下り、中位より大きく外方へ開く。中位に2条の沈線が巡り、2方2段の方形の透かし穴が穿たれている。 杯部外面に自然釉あり。	回転ナデ。	胎土 やや粗。 焼成 良好。 色調 外面 青灰色 内面 青灰色 断面 赤褐色 口クロ回転 不明
172 第27図 図版17	高杯 身	羨道部 盗掘坑	口径 13.4 受部径 15.6 底径 12.7 器高 15.3	杯部 口縁部は短く外反しつつ立ち上がる。端部は鋭い。受部は外上方へ延び、端部は丸い。底部は丸く、やや浅い。 脚部 基部より直線的に下り、中位より大きく外方へ開く。中位に2条の沈線が巡り、2方2段の透かし穴が穿たれている。脚部のほぼ全面と杯部の一部に自然釉あり。	回転ナデ。	胎土 密。 焼成 良好。 色調 外面 灰白色 内面 灰白色 口クロ回転 不明
173 第27図	提瓶	羨道部 盗掘坑	口径 7.8 残存高 15.0	口頸部は基部より外反しつつ立ち上がり、中位より内弯気味に端部に至る。端部は段を有し、凹面となっている。体部は偏平な球体をなし、側面にボタン状の把手を貼り付ける。	体部外面回転ヘラ削り（中央部は回転が弱い）。 体部内面ユビ押さえ。 他は回転ナデ。	胎土 密。 焼成 良好。 色調 外面 暗青灰色 内面 青灰色 断面 青灰色 口クロ回転 反時計回り
174 第27図 図版17	平瓶	羨道部	口径 6.1 体部 最大径 14.8 器高 15.2	口頸部は基部より外反気味に立ち上がり、端部付近で若干内弯する。体部は緩やかに内弯しつつ下り、中位で大きく屈曲して底部に至る。底部は浅く平坦。 体部上面に三角錘状の把手が付く。	底部外面回転ヘラ削り。 他は回転ナデ。	胎土 密。 焼成 良好。 色調 外面 青灰色 内面 青灰色 口クロ回転 時計回り

第11表 SM1004耳環計測表

番号	縦径(mm)	横径(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考
175	29.5	32.5	7.0	7.5	22.02	銅芯銀張り、のち鍍金か？

第12表 SM1004ガラス玉計測表

番号	分類	径(mm)	厚さ(mm)	孔径(mm)	重量(g)	色調	気泡	備考
176	A	8.15	6.70	1.80	0.52	紺色	孔に平行	両面研磨、孔楕円
177	A	7.90	5.95	1.20	0.55	紺色	孔に平行	両面研磨
178	A	7.60	4.90	2.00	0.38	紺色		両面研磨、孔楕円
179	B	6.80	5.20	1.80	0.35	あいいろ	孔に平行	両面研磨、孔楕円
180	C	4.70	3.00	1.10	0.09	紺色		突起あり
181	C	4.70	3.20	1.20	0.09	紺色		突起あり
182	C	4.70	2.85	1.20	0.08	紺色		
183	C	4.65	2.95	1.10	0.08	紺色		突起あり
184	C	4.50	3.10	1.10	0.09	紺色		片面孔付近研磨
185	C	4.45	3.20	1.10	0.09	紺色		片面孔付近研磨
186	C	4.45	3.35	1.20	0.07	紺色		片面研磨あり
187	C	4.45	3.00	1.20	0.08	紺色		突起あり
188	C	4.40	3.20	1.20	0.09	紺色		片面孔付近研磨
189	C	4.40	2.80	1.10	0.07	紺色		片面研磨あり
190	D	3.95	3.60	1.80	0.07	あさぎいろ		紺色の斑点あり
191	E	3.40	3.45	1.30	0.06	あさぎいろ		管切り技法による
192	F	4.25	2.35	1.60	0.05	あさぎいろ		孔付近研磨
193	F	3.70	1.95	1.40	0.04	あさぎいろ		孔付近研磨
194	F	3.50	1.50	1.40	0.02	あさぎいろ		孔付近研磨、孔楕円
195	F	3.05	1.40	1.00	0.02	あさぎいろ		孔付近研磨
196	F	2.95	1.40	1.00	0.02	あさぎいろ		孔付近研磨
197	F	2.45	2.30	1.00	0.02	あさぎいろ		孔付近研磨
198	G	3.65	3.00	1.20	0.05	にぶあおみどり		孔付近研磨
199	G	3.50	2.95	1.00	0.05	にぶあおみどり		孔付近研磨
200	H	4.20	2.50	1.30	0.06	さびあさぎ		孔付近研磨
201	H	3.95	2.95	1.00	0.07	さびあさぎ		孔付近研磨
202	H	3.85	3.25	1.10	0.07	さびあさぎ		両面研磨
203	H	3.60	2.80	1.00	0.05	さびあさぎ		孔付近研磨
204	H	3.20	3.00	1.00	0.05	さびあさぎ		孔付近研磨
205	H	3.10	1.90	1.00	0.02	にぶみどり		孔付近研磨
206	H	3.40	3.15	1.00	0.05	さびあさぎ		両面研磨
207	H	3.85	2.05	1.10	0.03	さびあさぎ		孔付近研磨
208	H	3.25	2.00	1.00	0.03	さびあさぎ		両面研磨
209	I	3.90	1.70	1.00	0.04	わさびいろ		孔付近研磨
210	J	4.30	2.75	1.40	0.07	うすき		孔付近研磨
211	J	3.40	2.00	1.10	0.01	うすき		孔付近研磨

第13表 SM1004練玉計測表

番号	径 (mm)	厚み (mm)	孔径 (mm)	重量 (g)	備 考	番号	径 (mm)	厚み (mm)	孔径 (mm)	重量 (g)	備 考
212	8.70	5.85	1.90	0.44	孔付近黒色なし	248	7.90	6.15	1.20	0.43	
213	8.70	6.80	1.65	▲0.46		249	7.90	6.65	1.40	0.32	
214	8.60	6.40	1.50	0.42		250	7.90	6.65	1.80	▲0.42	
215	8.60	6.55	1.50	▲0.47		251	7.90	6.90	1.40	▲0.38	
216	8.50	5.95	1.70	0.44		252	7.85	5.70	1.30	0.40	孔付近黒色なし
217	8.50	7.10	0.80	▲0.42		253	7.85	5.75	1.20	0.39	孔付近黒色なし
218	8.40	7.70	1.30	0.52		254	7.85	6.10	1.40	0.38	
219	8.30	5.95	1.20	0.44		255	7.85	6.20	1.40	▲0.45	
220	8.30	6.35	1.60	0.37		256	7.85	6.40	1.80	▲0.39	
221	8.30	6.75	1.60	0.49		257	7.85	6.40	1.50	▲0.42	
222	8.30	6.95	1.20	0.47		258	7.85	6.95	1.40	▲0.41	
223	8.20	6.20	1.30	0.48		259	7.85	7.15	1.30	▲0.36	
224	8.20	6.25	1.40	0.43		260	7.80	5.40	1.90	0.38	
225	8.20	6.50	1.40	0.46		261	7.80	5.90	1.40	0.41	
226	8.20	7.80	1.90	▲0.43		262	7.80	6.10	1.10	▲0.41	
227	8.10	5.70	2.10	0.38		263	7.80	6.15	1.40	▲0.37	
228	8.05	5.55	1.90	0.37		264	7.80	6.15	1.80	▲0.38	
229	8.05	6.05	1.30	0.40		265	7.80	6.30	1.20	0.38	
230	8.05	6.20	1.60	0.42		266	7.80	7.10	1.30	0.40	
231	8.05	6.40	1.80	0.44		267	7.80	7.55	1.40	▲0.45	
232	8.05	6.50	1.40	▲0.33		268	7.75	5.25	1.80	0.34	
233	8.00	5.95	1.30	▲0.39		269	7.75	5.45	1.40	▲0.36	
234	8.00	6.05	1.50	0.39		270	7.75	5.60	1.40	0.36	
235	8.00	6.40	1.65	0.43		271	7.75	6.00	1.50	0.37	
236	8.00	6.40	1.40	▲0.43		272	7.70	5.80	1.10	0.33	
237	8.00	6.70	1.20	0.42		273	7.70	6.00	1.60	0.43	
238	7.95	6.50	1.40	0.47	孔付近黒色なし	274	7.70	6.25	1.60	▲0.32	孔付近黒色なし
239	7.95	5.85	2.20	0.38		275	7.70	6.45	1.60	0.35	
240	7.95	7.25	1.95	▲0.44	孔付近黒色なし	276	7.70	7.60	1.60	0.45	
241	7.90	—	2.10	▲0.33		277	7.65	5.50	1.65	0.33	
242	7.90	5.25	2.40	▲0.27		278	7.65	5.70	1.20	0.30	
243	7.90	5.75	1.40	▲0.37		279	7.65	5.95	1.40	0.39	
244	7.90	5.90	1.80	0.40		280	7.65	6.10	1.40	▲0.36	
245	7.90	5.90	1.20	▲0.28		281	7.65	6.20	2.20	0.38	
246	7.90	5.90	1.20	▲0.32		282	7.65	6.25	1.10	0.39	
247	7.90	5.90	1.20	▲0.38		283	7.65	6.25	1.30	▲0.34	



番号	径 (mm)	厚み (mm)	孔径 (mm)	重量 (g)	備 考
284	7.60	5.40	1.10	0.32	
285	7.60	5.60	1.20	▲0.28	
286	7.60	5.75	1.40	0.36	孔付近黒色なし
287	7.60	5.75	1.70	▲0.35	
288	7.60	5.80	1.20	0.30	
289	7.60	5.80	1.40	0.34	
290	7.60	5.90	1.10	▲0.30	
291	7.60	5.95	1.40	0.36	
292	7.60	6.05	1.60	0.37	孔付近黒色なし
293	7.60	6.10	1.20	0.30	
294	7.60	6.20	1.30	0.38	
295	7.60	6.20	1.20	0.41	孔付近黒色なし
296	7.60	6.30	1.80	0.33	
297	7.60	6.45	1.20	0.39	
298	7.60	6.60	1.40	0.37	
299	7.60	6.65	1.30	0.42	
300	7.60	6.70	1.50	0.38	
301	7.60	6.85	1.40	0.36	
302	7.60	7.00	1.20	0.37	
303	7.60	▲4.65	1.10	▲0.24	
304	7.55	5.40	1.20	0.33	
305	7.55	5.85	1.20	▲0.32	
306	7.55	5.85	1.50	▲0.35	
307	7.55	5.90	1.20	0.33	
308	7.55	6.30	1.70	▲0.32	
309	7.55	6.70	1.50	0.38	
310	7.55	6.70	1.20	0.41	
311	7.50	4.80	1.65	▲0.28	
312	7.50	5.65	1.30	▲0.35	
313	7.50	5.70	1.00	0.33	
314	7.50	5.80	1.60	0.29	
315	7.50	5.85	1.30	0.33	
316	7.50	5.85	2.00	0.36	
317	7.50	6.00	1.20	0.30	
318	7.50	6.25	1.50	0.36	
319	7.50	6.30	1.40	0.31	
320	7.50	6.30	1.20	0.39	

番号	径 (mm)	厚み (mm)	孔径 (mm)	重量 (g)	備 考
321	7.50	6.80	1.20	0.40	
322	7.50	6.85	1.40	0.36	
323	7.50	6.85	1.10	0.39	
324	7.50	6.85	1.30	0.40	
325	7.50	6.90	1.30	▲0.40	
326	7.45	—	1.10	▲0.24	
327	7.45	—	1.30	▲0.28	
328	7.45	5.65	1.40	▲0.33	
329	7.45	5.95	1.30	0.30	
330	7.45	6.00	2.60	0.30	
331	7.45	6.00	1.60	0.36	孔付近黒色なし
332	7.45	6.00	1.30	▲0.38	孔付近黒色なし
333	7.45	6.10	1.45	0.32	
334	7.45	6.20	1.40	0.36	
335	7.45	6.30	2.10	0.38	
336	7.45	6.45	1.20	0.35	
337	7.40	5.15	1.10	0.29	孔付近黒色なし
338	7.40	5.55	1.90	▲0.31	
339	7.40	5.70	1.20	0.34	
340	7.40	5.80	1.20	0.36	
341	7.40	6.05	2.20	0.34	
342	7.40	6.10	1.28	0.30	孔付近黒色なし
343	7.40	6.20	1.80	0.38	
344	7.40	6.60	1.80	0.34	
345	7.40	6.70	1.60	▲0.36	
346	7.40	6.85	1.20	0.40	
347	7.40	7.10	2.50	▲0.40	
348	7.35	5.55	1.80	0.27	
349	7.35	5.65	1.30	0.31	
350	7.35	5.70	2.00	0.30	
351	7.35	5.75	1.10	0.35	孔付近黒色なし
352	7.35	5.95	1.70	0.32	
353	7.35	6.15	1.20	0.37	
354	7.35	6.25	1.30	0.30	
355	7.35	6.25	1.30	0.31	
356	7.35	6.25	1.20	0.35	
357	7.30	4.50	1.30	0.28	

番号	径 (mm)	厚み (mm)	孔径 (mm)	重量 (g)	備 考
358	7.30	5.50	1.30	0.30	
359	7.30	5.50	1.20	0.30	
360	7.30	5.65	1.40	0.28	
361	7.30	5.70	1.40	0.31	
362	7.30	5.75	2.00	0.25	
363	7.30	5.80	2.20	0.27	
364	7.30	5.85	1.60	▲0.29	
365	7.30	5.90	1.20	0.30	
366	7.30	6.00	1.70	0.33	
367	7.30	6.10	1.40	0.35	
368	7.30	6.15	1.20	0.36	
369	7.30	6.20	1.40	0.35	
370	7.30	6.40	1.30	0.36	
371	7.30	6.50	1.40	▲0.33	
372	7.25	5.15	1.30	0.29	
373	7.25	5.25	1.10	0.30	孔付近黒色なし
374	7.25	5.70	0.80	0.31	
375	7.25	5.90	1.50	0.33	
376	7.25	6.00	1.80	0.32	
377	7.25	6.45	1.40	▲0.36	
378	7.25	6.75	1.40	0.40	
379	7.25	6.85	1.40	0.37	
380	7.25	6.95	2.20	0.38	
381	7.20	5.15	1.30	0.32	孔付近黒色なし
382	7.20	5.30	1.10	0.32	
383	7.20	5.55	1.60	0.27	
384	7.20	5.60	1.50	0.28	
385	7.20	5.60	1.30	▲0.28	
386	7.20	5.60	1.40	▲0.30	孔付近黒色なし
387	7.20	5.65	1.20	0.31	
388	7.20	5.70	1.40	0.30	
389	7.20	5.75	1.80	0.28	
390	7.20	5.80	1.60	0.25	
391	7.20	5.80	1.20	0.34	
392	7.20	5.85	1.20	0.35	
393	7.20	6.05	1.60	▲0.30	
394	7.20	6.10	1.20	0.31	

番号	径 (mm)	厚み (mm)	孔径 (mm)	重量 (g)	備 考
395	7.20	6.15	1.40	0.30	
396	7.20	6.15	1.40	0.33	
397	7.20	6.15	1.50	0.34	
398	7.20	6.20	1.60	0.27	
399	7.20	6.20	1.20	▲0.33	
400	7.20	6.30	1.60	0.32	
401	7.20	6.60	1.20	0.33	
402	7.15	5.20	1.10	0.28	
403	7.15	5.35	1.60	0.29	
404	7.15	5.50	1.40	0.29	
405	7.15	5.50	1.40	0.31	孔付近黒色なし
406	7.15	5.70	1.30	0.30	
407	7.15	5.90	1.40	0.32	
408	7.15	5.95	1.20	0.30	
409	7.15	6.10	1.40	0.34	孔付近黒色なし
410	7.15	6.30	1.60	0.34	
411	7.15	6.30	1.70	▲0.33	
412	7.15	6.55	1.10	▲0.28	
413	7.10	5.30	1.20	0.31	孔付近黒色なし
414	7.10	5.45	1.70	▲0.29	
415	7.10	5.55	1.40	▲0.28	
416	7.10	5.70	1.20	0.25	
417	7.10	5.95	1.80	0.28	
418	7.10	6.10	1.20	0.28	
419	7.10	6.10	1.20	0.29	
420	7.10	6.15	1.40	0.33	
421	7.10	6.15	1.70	▲0.27	
422	7.10	6.20	1.40	0.32	
423	7.10	6.30	1.20	0.31	
424	7.10	6.30	2.10	0.32	
425	7.10	6.50	1.60	▲0.32	
426	7.10	6.60	1.40	0.32	
427	7.10	6.65	2.40	0.34	
428	7.10	7.00	1.50	0.39	
429	7.10	7.40	1.40	▲0.34	
430	7.10	8.15	1.80	0.47	
431	7.10	▲6.50	1.20	▲0.31	孔付近黒色なし

番号	径 (mm)	厚み (mm)	孔径 (mm)	重量 (g)	備 考
432	7.05	5.35	1.70	0.29	
433	7.05	5.50	1.30	0.32	
434	7.05	5.50	1.40	0.36	
435	7.05	5.60	1.30	0.25	
436	7.05	5.70	1.40	0.27	
437	7.05	5.70	1.50	▲0.26	
438	7.05	5.95	1.00	0.31	
439	7.05	6.20	1.40	▲0.33	
440	7.05	6.25	2.20	0.28	
441	7.05	6.30	2.00	0.29	
442	7.00	5.20	1.20	0.25	孔付近黒色なし
443	7.00	5.20	1.20	▲0.25	
444	7.00	5.45	1.40	0.27	
445	7.00	5.45	1.40	0.31	孔付近黒色なし
446	7.00	5.50	1.20	0.30	
447	7.00	5.80	1.50	0.33	
448	7.00	5.80	1.40	0.35	
449	7.00	5.95	1.20	0.28	
450	7.00	6.25	1.40	0.31	
451	7.00	6.40	1.80	0.35	
452	7.00	6.45	1.40	0.29	
453	7.00	6.50	1.50	0.32	
454	7.00	6.55	1.40	0.33	
455	7.00	6.70	1.20	0.34	
456	7.00	6.75	1.30	0.32	
457	6.95	5.15	1.60	0.24	
458	6.95	5.30	1.70	▲0.27	
459	6.95	5.35	1.30	0.29	
460	6.95	5.50	1.00	0.25	
461	6.95	5.50	1.20	▲0.28	
462	6.95	5.80	1.60	0.27	
463	6.95	5.80	1.30	▲0.23	
464	6.95	5.90	1.40	▲0.23	
465	6.95	5.95	1.30	0.31	
466	6.95	6.00	1.40	0.30	
467	6.95	6.80	1.50	0.34	
468	6.95	7.10	1.20	0.39	

番号	径 (mm)	厚み (mm)	孔径 (mm)	重量 (g)	備 考
469	6.90	4.75	0.70	0.22	
470	6.90	5.15	1.25	0.30	
471	6.90	5.20	1.40	0.26	
472	6.90	5.25	1.40	0.26	
473	6.90	5.30	1.00	0.25	
474	6.90	5.40	1.50	0.24	
475	6.90	5.50	1.20	0.30	
476	6.90	5.55	1.40	▲0.24	
477	6.90	5.65	1.20	0.26	
478	6.90	5.75	1.60	0.23	
479	6.90	5.85	1.40	▲0.28	
480	6.90	5.95	1.40	▲0.21	
481	6.90	6.15	1.20	0.30	
482	6.90	6.55	1.30	0.30	
483	6.90	6.55	1.25	0.32	
484	6.90	7.15	1.60	▲0.32	
485	6.90	▲6.45	1.50	▲0.27	
486	6.85	4.80	1.60	0.24	
487	6.85	5.00	1.30	0.25	孔付近黒色なし
488	6.85	5.20	1.20	0.27	
489	6.85	5.20	1.10	▲0.23	
490	6.85	5.25	1.20	0.26	
491	6.85	5.50	1.00	0.27	
492	6.85	5.60	2.00	0.26	
493	6.85	5.60	1.40	▲0.23	
494	6.85	5.75	1.60	0.22	
495	6.85	5.75	1.20	0.31	
496	6.85	5.90	1.60	0.33	
497	6.85	6.15	1.20	0.32	
498	6.85	6.45	1.30	0.31	
499	6.85	6.45	1.51	▲0.29	
500	6.80	4.30	1.20	0.21	
501	6.80	5.00	1.20	0.22	
502	6.80	5.20	0.80	0.25	
503	6.80	5.30	2.10	0.19	
504	6.80	5.45	0.80	0.27	
505	6.80	5.60	1.20	0.30	

番号	径 (mm)	厚み (mm)	孔径 (mm)	重量 (g)	備 考
506	6.80	5.70	1.10	0.27	
507	6.80	5.70	1.40	0.29	孔付近黒色なし
508	6.80	5.75	1.40	0.29	
509	6.80	5.80	1.20	0.28	
510	6.80	5.85	1.20	0.29	
511	6.80	6.35	1.10	0.30	
512	6.80	6.55	1.60	0.31	
513	6.80	6.70	1.20	0.35	
514	6.75	4.75	1.30	0.24	
515	6.75	4.95	1.60	0.19	
516	6.75	5.00	0.80	0.22	
517	6.75	5.20	1.80	▲0.24	
518	6.75	5.45	1.70	0.25	
519	6.75	5.70	1.40	0.22	
520	6.75	5.70	1.40	0.32	孔付近黒色なし
521	6.75	5.85	1.40	0.30	
522	6.75	5.90	1.60	0.26	
523	6.75	5.95	1.10	0.30	
524	6.75	5.95	1.00	0.30	
525	6.75	6.05	1.80	0.22	
526	6.75	6.30	1.30	0.31	
527	6.75	6.85	1.40	0.34	孔付近黒色なし
528	6.75	▲6.05	1.40	▲0.24	
529	6.70	4.50	1.60	▲0.24	
530	6.70	5.20	1.30	0.25	
531	6.70	5.20	1.20	0.26	
532	6.70	5.40	1.20	0.26	
533	6.70	5.50	1.10	0.26	
534	6.70	5.55	1.20	▲0.27	
535	6.70	5.65	0.90	0.27	
536	6.70	5.65	1.80	0.28	
537	6.70	5.70	1.40	0.25	
538	6.70	5.75	1.80	0.24	
539	6.70	5.75	1.10	0.28	
540	6.70	5.75	1.40	▲0.25	
541	6.70	6.05	1.80	▲0.28	
542	6.70	6.10	1.70	0.26	継ぎ目あり

番号	径 (mm)	厚み (mm)	孔径 (mm)	重量 (g)	備 考
543	6.70	6.20	1.60	0.32	
544	6.70	6.50	1.40	0.30	
545	6.70	6.70	1.50	0.31	
546	6.70	6.70	2.00	0.33	
547	6.70	6.90	1.60	0.29	
548	6.70	6.95	1.40	▲0.32	
549	6.65	4.85	1.20	0.25	
550	6.65	5.00	1.30	0.25	
551	6.65	5.10	1.40	▲0.23	
552	6.65	5.15	1.10	0.25	
553	6.65	5.40	1.10	0.26	
554	6.65	5.45	1.90	0.19	
555	6.65	5.50	1.10	0.26	
556	6.65	5.85	1.20	0.26	
557	6.65	6.00	1.10	▲0.24	
558	6.65	6.25	1.20	0.26	
559	6.60	4.60	1.10	0.19	
560	6.60	4.65	1.65	0.19	
561	6.60	4.90	1.40	0.20	
562	6.60	5.25	1.00	0.23	
563	6.60	5.50	1.40	0.21	
564	6.60	5.50	1.80	0.21	
565	6.60	5.50	0.90	0.23	
566	6.60	5.60	1.10	0.27	
567	6.60	5.70	1.10	0.27	
568	6.60	5.90	1.40	0.29	
569	6.60	6.00	1.20	▲0.27	
570	6.60	6.10	1.22	0.28	
571	6.60	6.15	1.40	▲0.27	
572	6.60	6.20	1.20	0.26	
573	6.60	6.25	1.80	0.31	
574	6.60	6.25	2.00	0.33	
575	6.60	6.35	1.40	0.29	
576	6.60	6.35	1.20	0.30	
577	6.60	6.45	1.70	0.32	
578	6.60	6.60	1.65	0.35	
579	6.55	5.10	0.80	0.23	

番号	径 (mm)	厚み (mm)	孔径 (mm)	重量 (g)	備 考
580	6.55	5.25	1.10	▲0.24	
581	6.55	5.25	1.20	▲0.27	
582	6.55	5.45	1.40	0.26	
583	6.55	5.45	1.10	0.26	
584	6.55	5.85	1.40	0.27	孔付近黒色なし
585	6.55	5.95	1.00	▲0.24	
586	6.55	6.20	1.70	0.28	
587	6.55	6.20	1.30	▲0.29	
588	6.55	6.45	1.60	0.30	
589	6.55	7.35	1.60	0.32	
590	6.50	5.40	1.70	0.21	
591	6.50	5.40	1.40	0.27	
592	6.50	5.50	0.80	▲0.20	
593	6.50	6.00	1.37	0.27	
594	6.50	6.00	0.90	▲0.20	
595	6.50	6.15	1.80	▲0.26	
596	6.50	6.30	1.10	0.30	
597	6.50	6.35	1.10	0.30	
598	6.45	5.00	1.25	0.24	
599	6.45	5.10	1.20	▲0.25	孔付近黒色なし
600	6.45	5.40	1.90	0.27	
601	6.45	5.65	1.00	0.26	
602	6.45	5.70	0.83	0.26	
603	6.45	5.70	1.30	0.28	
604	6.45	5.80	1.30	0.27	
605	6.45	5.80	1.70	0.29	
606	6.45	6.00	1.70	0.26	
607	6.45	6.20	1.40	0.25	
608	6.45	6.35	1.30	▲0.27	
609	6.40	4.95	1.40	0.21	
610	6.40	5.25	1.10	0.21	
611	6.40	5.30	1.20	0.23	
612	6.40	5.35	1.20	▲0.24	
613	6.40	5.75	1.50	0.22	
614	6.40	5.85	1.80	0.25	
615	6.40	6.10	1.20	0.29	
616	6.40	7.80	1.30	0.32	

番号	径 (mm)	厚み (mm)	孔径 (mm)	重量 (g)	備 考
617	6.35	5.25	1.60	0.23	
618	6.35	5.40	1.70	0.21	
619	6.35	5.70	1.40	0.21	
620	6.35	5.80	1.60	0.27	
621	6.35	6.60	1.20	0.29	
622	6.30	4.95	1.80	▲0.18	
623	6.30	5.40	1.20	0.22	
624	6.30	5.50	1.40	0.20	
625	6.30	5.55	1.50	▲0.19	
626	6.30	5.70	1.10	▲0.26	
627	6.30	5.85	0.80	0.27	
628	6.30	5.90	1.25	0.30	孔付近黒色なし
629	6.30	6.50	1.30	0.30	
630	6.25	6.35	1.60	0.23	
631	6.20	4.70	1.10	0.19	
632	6.20	4.85	1.20	0.17	
633	6.20	5.20	1.20	0.21	
634	6.20	5.50	1.20	0.21	
635	6.20	5.50	1.20	0.33	
636	6.20	5.50	1.20	▲0.24	
637	6.20	5.70	1.20	0.27	
638	6.20	5.80	1.60	0.34	
639	6.20	6.15	1.40	▲0.25	
640	6.20	6.30	1.40	0.25	
641	6.15	4.40	0.80	0.16	
642	6.15	5.20	1.20	0.19	
643	6.15	5.40	1.80	0.21	
644	6.10	4.80	1.40	▲0.24	
645	6.10	5.40	1.50	▲0.19	
646	6.10	5.90	1.20	0.26	
647	6.05	4.80	1.50	▲0.15	
648	6.05	4.85	1.60	▲0.18	
649	6.00	4.10	0.90	0.16	
650	6.00	5.30	1.40	0.19	
651	6.00	6.10	1.20	0.24	
652	6.00	6.60	1.80	0.23	
653	5.95	4.80	1.00	0.19	

番号	径 (mm)	厚み (mm)	孔径 (mm)	重量 (g)	備 考
654	5.95	5.10	1.00	0.26	
655	5.95	5.35	1.40	0.19	
656	5.85	4.95	1.20	0.17	
657	5.85	5.00	1.10	0.19	
658	5.70	4.10	0.80	0.14	
659	5.70	4.70	1.00	0.13	
660	5.70	5.85	2.00	0.26	
661	5.65	4.00	0.90	0.14	孔付近黒色なし
662	5.65	4.55	1.20	0.15	
663	5.60	4.00	0.90	0.13	
664	5.60	4.30	0.90	0.15	
665	5.60	5.35	0.60	0.26	
666	5.55	3.95	1.00	▲0.11	
667	5.50	4.25	1.10	0.14	孔付近黒色なし
668	5.50	4.30	1.20	0.12	孔付近黒色なし

番号	径 (mm)	厚み (mm)	孔径 (mm)	重量 (g)	備 考
669	5.50	4.60	1.10	0.15	
670	5.45	4.40	1.30	0.12	
671	5.40	4.15	1.10	0.12	
672	5.35	4.10	1.00	0.13	孔付近黒色なし
673	5.30	4.65	1.40	0.15	
674	5.30	5.85	1.40	0.23	
675	5.00	4.60	1.20	0.11	
676	7.35	10.20	1.20	0.64	2連 (677)
677	7.25	——	1.30	——	2連 (676)
678	6.70	9.05	1.20	▲0.45	2連 (679)
679	6.75	——	1.20	——	2連 (678)
680	7.10	11.50	1.40	▲0.65	2連 (681)
681	7.00	——	1.20	——	2連 (680)
682	7.20	9.45	1.40	0.50	2連 (683)
683	7.20	——	1.40	——	2連 (682)

第14表 SM1004刀子・鎌計測表

番号	種 類	出土地点	残存長 (cm)	刃 部			茎部長 (cm)	備 考
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)		
724	刀子	石室床面	8.70	▲4.20	▲1.65	0.50	4.50	茎部に木質残存
725	刀子	石室床面	8.80	▲3.50	▲1.45	▲0.90	3.30	茎部に木質残存
726	刀子	石室床面	8.20	▲5.00	1.60	0.55	▲3.20	
727	刀子	石室床面	5.40	▲5.40	▲1.10	0.30	——	
728	刀子	石室床面	8.95	▲3.90	▲1.05	▲0.45	▲5.05	茎部に木質残存
729	刀子	石室床面	8.00	▲8.00	1.30	0.50	——	
730	刀子	石室床面	9.25	▲7.95	1.30	0.45	▲1.30	
731	刀子	石室床面	7.10	▲7.10	1.35	0.45	——	
732	刀子	側壁	3.70	——	——	——	▲3.70	茎部に木質残存
733	刀子	石室床面	3.90	——	——	——	▲3.90	茎部に木質残存
734	鎌	石室床面	4.20	▲4.20	1.80	0.35	——	
735	鎌	石室床面	3.40	▲3.40	1.80	0.45	——	

第15表 SM1004馬具計測表

番号	部位	出土地点	残存長 (cm)	残存幅 (cm)	残存厚 (cm)
736	立聞	石室床面	4.35	0.60	0.40
737	鏡板	石室床面	4.60	1.00	0.55

番号	部位	出土地点	残存長 (cm)	残存幅 (cm)	残存厚 (cm)
738	鏡板	石室床面	6.05	1.00	0.95
739	鏡板	石室床面	5.65	0.90	0.80
740	引手	石室床面	7.40	0.80	0.85
741	銜	石室床面	3.00	0.80	0.90
742	兵庫鎖	石室床面	5.80	0.60	0.70

第16表 SM1004鉄鍔計測表

番号	形式	出土地点	残存長 (cm)	鍔身部			鍔被部			茎部長 (cm)	備考
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)		
684	柳葉鍔	石室床面	6.80	4.90	1.85	0.35	▲1.90	1.00	0.30	——	
685	柳葉鍔	石室床面	5.35	▲3.40	2.40	0.30	▲1.95	0.95	0.35	——	
686	柳葉鍔	2次床面直上	4.20	▲1.65	2.55	0.45	1.90	1.05	0.30	▲0.65	
687	柳葉鍔	石室床面	4.10	▲4.10	1.70	0.25	——	——	——	——	
688	腸扶三角形鍔	石室床面	6.10	▲4.90	▲2.90	0.30	▲1.45	0.85	0.50	——	
689	腸扶三角形鍔	石室床面	7.40	▲3.55	▲3.50	0.30	2.55	0.90	0.45	▲1.55	
690	三角形鍔	石室床面	7.65	7.35	▲3.10	0.55	▲0.30	1.00	——	——	
691	三角形鍔	石室床面	5.50	▲5.50	▲2.90	0.35	——	——	——	——	
692	三角形鍔	石室床面	6.50	6.50	▲2.65	0.35	——	——	——	——	
693	三角形鍔	石室床面	6.25	5.80	2.70	0.45	▲0.45	0.95	0.30	——	
694	三角形鍔	石室床面	4.90	▲4.90	2.70	0.35	——	——	——	——	
695	三角形鍔	石室床面	4.30	▲4.30	2.40	0.35	——	——	——	——	
696	三角形鍔	石室床面	2.60	▲2.00	2.75	0.45	▲0.60	1.10	0.35	——	
697	三角形鍔	石室床面	8.00	5.30	2.20	0.30	2.30	0.85	0.25	▲0.40	
698	三角形鍔	石室床面	5.40	4.40	1.95	0.45	▲1.00	0.70	0.30	——	
699	三角形鍔	石室床面	6.60	▲3.95	▲1.85	0.30	▲2.65	0.75	0.35	——	
700	三角形鍔	石室床面	3.70	▲2.75	1.75	▲0.35	▲0.95	0.75	0.45	——	
701	三角形鍔	石室床面	3.50	▲1.95	▲1.55	0.40	▲1.55	0.60	0.35	——	
702	三角形鍔	石室床面	7.00	5.10	▲3.60	0.40	▲1.90	0.80	0.40	——	
703	方頭鍔	石室床面	6.50	6.10	2.55	0.20	——	——	——	▲0.40	
704	方頭鍔	石室床面	5.10	▲4.15	▲2.15	0.25	——	——	——	▲0.95	
705	方頭鍔	閉塞石下	6.70	▲3.90	▲1.60	0.30	——	——	——	▲2.80	木質残存
706	方頭鍔	石室床面	3.40	▲3.40	▲2.95	0.35	——	——	——	——	
707	方頭鍔	石室床面	3.60	▲3.60	▲1.70	0.25	——	——	——	——	
708	方頭鍔	石室床面	4.70	▲4.70	▲3.00	0.35	——	——	——	——	
709	方頭鍔	石室床面	6.60	▲6.60	▲5.15	▲0.15	——	——	——	——	
710	不明	石室床面	4.25	2.40	1.55	0.35	1.25	1.05	0.40	▲0.60	

番号	形式	出土地点	残存長 (cm)	鏃身部			篋被部			茎部長 (cm)	備考
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)		
711	長頸鏃	石室床面	4.25	▲2.05	1.00	0.20	▲2.20	0.60	0.30	——	
712	長頸鏃	石室床面	3.60	▲1.25	1.20	0.35	▲2.35	0.55	0.45	——	
713	長頸鏃	石室床面	3.80	▲2.25	1.10	0.15	▲1.55	0.65	0.35	——	
714	長頸鏃	石室床面	3.75	3.05	1.20	0.35	▲0.70	1.20	0.40	——	
715	長頸鏃	不明	3.95	2.80	1.10	0.35	▲1.15	0.60	0.30	——	
716	長頸鏃	石室床面	3.20	▲1.90	0.95	0.20	▲1.30	0.60	0.35	——	
717	長頸鏃	石室床面	4.20	2.45	1.25	0.30	▲1.75	0.65	0.25	——	
718	長頸鏃	石室床面	4.00	3.60	1.00	0.35	▲0.40	0.70	0.30	——	
719	長頸鏃	石室床面	4.70	3.30	0.85	0.35	▲1.40	0.60	0.45	——	
720	長頸鏃	石室床面	6.25	——	——	——	▲4.60	0.60	0.45	▲1.60	
721	長頸鏃	石室床面	5.35	——	——	——	▲4.70	0.80	0.50	▲0.60	
722	長頸鏃	石室床面	4.45	——	——	——	▲0.55	0.55	0.35	▲3.90	
723	長頸鏃	石室床面	6.25	——	——	——	▲0.85	0.55	0.35	▲5.40	

第17表 SM1004須恵器観察表

番号	器種	出土地点	法量 (cm)	形態の特徴	技法の特徴	備考
743 第44図 図版25	蓋 杯 蓋	羨道部	口径 13.0 器高 4.0	口縁部はほぼ直線的に下り、端部は丸い。 天井部は平坦だが、中央部はやや丸い。	天井部外面回転ヘラ切り無調整。 他は回転ナデ。 天井部内面弱い一定方向ナデ。	胎土 密。 焼成 良好。 色調 外面 青灰色 内面 青灰色 口クロ回転 時計回り
744 第44図 図版25	蓋 杯 蓋	羨道部	口径 12.4 器高 4.3	口縁部はほぼ直線上に下り、端部はやや鋭い。 天井部はやや高く中央部は平坦。	天井部外面回転ヘラ削り。 他は回転ナデ。	胎土 やや粗。 焼成 良好。 色調 外面 青灰色 内面 青灰色 口クロ回転 時計回り
745 第44図	蓋 杯 蓋	羨道部	口径 14.3 残存高 3.0	口縁部は内穹気味に下方へ開き、端部は丸い。	回転ナデ。	胎土 密。 焼成 良好。 色調 外面 青灰色 内面 青灰色 断面 明青灰色 口クロ回転 不明
746 第44図	蓋 杯 身	羨道部	口径 13.3 受部径 15.1 残存高 3.9	口縁部は短く外反気味に立ち上がり、端部は鋭い。 受部は外上方へのび、端部は丸い。	底部外面回転ヘラ削り。 他は回転ナデ。	胎土 密。 焼成 良好。 色調 外面 青灰色 内面 青灰色 断面 灰白色 口クロ回転 時計回り
747 第44図 図版25	蓋 杯 身	石室内 石室南 表土	口径 12.1 受部径 13.7 器高 3.6	口縁部は外反のち短く直線状のび、端部は鋭い。 受部は外上方へのび、端部は丸い。 底部はやや深く丸い。	底部外面回転ヘラ削り。 他は回転ナデ。 底部内面一定方向ナデ。	胎土 密。 焼成 良好。 色調 外面 青灰色 内面 青灰色 口クロ回転 時計回り



番号	器種	出土地点	法量 (cm)	形態の特徴	技法の特徴	備考
748 第44図 図版25	椀	盗掘坑 羨道部	口径 7.7 器高 7.5	口縁部はやや内弯気味に端部に至る。端部は鋭い。 体部は底部より直立して立ち上がる。 底部はやや深く、中央部は平坦。	底部外面回転ヘラ削り。 体部中位に5本/1.4cmの回転カキメ。他は回転ナデ。	胎土 密。 焼成 良好。 色調 外面 暗灰色 内面 青灰色 ロクロ回転 時計回り
749 第44図 図版25	高杯 蓋	羨道部	口径 14.8 器高 4.9	口縁部はやや開き気味に下り、端部付近で若干反する。端部は丸い。 天井部はやや高い。	天井部外面回転ヘラ削り。 他は回転ナデ。	胎土 密。 焼成 不良。 色調 外面 明緑灰色 内面 明オリーブ灰色 ロクロ回転 時計回り
750 第44図 図版25	高杯 蓋	盗掘坑	口径 13.8 残存高 4.3	口縁部はやや外反気味に開きつつ下り、端部はやや鋭い。 天井部には扁平なツمامミが付く。 天井部と口縁部は弱い稜線によって分けられる。 外面には自然釉が認められる。	天井部外面回転ヘラ削り。 他は回転ナデ。	胎土 密。 焼成 やや不良。 色調 外面 灰白色 内面 灰白色 ロクロ回転 時計回り
751 第44図 図版25	高杯 身	羨道部	口径 12.8 受部径 15.4 底径 13.2 器高 15.2	杯部 口縁部は短く外反して立ち上がる。端部は鋭い。受部は外上方へのび、端部は丸い。 脚部 基部より外反しつつ下り、中位より大きく外方へ開く。端部付近内面に断面三角形の段を有する。中位に弱い凹線が2条巡り、その上下に2方の筋状の透かし穴が穿たれている。	杯部底部外面回転ヘラ削り。 他は回転ナデ。	胎土 やや粗。 焼成 不良。 色調 外面 明オリーブ灰色 内面 明青灰色 断面 明オリーブ灰色 ロクロ回転 不明
752 第44図 図版25	高杯 身	羨道部	口径 13.0 受部径 15.8 底径 14.0 器高 15.4	杯部 口縁部は短く内傾して立ち上がり、端部は鋭い。受部は外上方へのび、端部は丸い。 脚部 基部より外反しつつ下り、中位より大きく外方へ開いて端部に至る。端部内面に断面三角形の段を有する。脚部中位と椗部に弱い2条の凹線が巡り、中位の凹線を境に2段2方に筋状の透かし穴が穿たれている。	回転ナデ。	胎土 密。 焼成 不良。 色調 外面 明オリーブ灰色 内面 明オリーブ灰色 ロクロ回転 不明
753 第44図	高杯	羨道部	底径 13.9 残存高 5.8	脚部は大きく開き端部に至る。端部内面に断面三角形の段を有する。 上部に弱い凹線が1条巡り、2方に方形の透かし穴が穿たれている。	回転ナデ。	胎土 密。 焼成 不良。 色調 外面 明オリーブ灰色 内面 明緑灰色 断面 明緑灰色 ロクロ回転 不明
754 第44図	高杯	墳丘	底径 14.4 残存高 2.1	脚部は端部に向かって大きく開く。 端部は丸い。	回転ナデ。	胎土 密。 焼成 良好。 色調 外面 暗灰色 内面 青灰色 断面 青灰色 ロクロ回転 不明
755 第44図 図版25	平瓶	羨道部	体部 最大径 15.4 残存高 12.7	口頸部は外反気味に立ち上がる。 体部は緩やかに内弯しつつ下り、中位で大きく屈曲して、底部に至る。 底部は丸い。	底部外面回転ヘラ削り。 他は回転ナデ。	胎土 粗。 焼成 不良。 色調 外面 灰白色 内面 灰白色 断面 浅黄褐色 ロクロ回転 時計回り

第18表 骨蔵器観察表

番号	器種	出土地点	法量 (cm)	形態の特徴	技法の特徴	備考
756 第45図	短 頸 壺	D 3 グリッド	口径 9.8 体部 最大径 15.0 器高 14.5	口縁部は短く直立して立ち上がり、 端部に平坦面を有する。 体部は緩やかに内湾しつつ下り、中 位で大きく屈曲して、底部に至る。 底部は深く丸い。	底部外面回転ヘラ削り。 他は回転ナデ。	胎土 密。 焼成 やや不良。 色調 外面 灰白色 内面 灰白色 断面 灰白色 ロクロ回転 時計回り

第19表 遺構に伴わない須恵器観察表

番号	器種	出土地点	法量 (cm)	形態の特徴	技法の特徴	備考
757 第46図	蓋 杯 蓋	C 6 グリッド	口径 13.5 器高 4.3	口縁部は内湾しつつ下り、端部付近 で直線的に下る。端部は丸い。 天井部は丸い。 端部付近内面に1条の凹線が巡る。	天井部外面回転ヘラ削り。 他は回転ナデ。	胎土 密。 焼成 良好。 色調 外面 灰黄色 内面 灰白色 断面 灰色 ロクロ回転 時計回り
758 第46図	蓋 杯 蓋	D 6 グリッド	口径 14.5 残存高 4.0	口縁部は内湾しつつ下り、端部付近 で直線的に下る。端部はやや鋭い。	回転ナデ。	胎土 密。 焼成 良好。 色調 外面 青灰色 内面 青灰色 断面 青灰色 ロクロ回転 不明
759 第46図	蓋 杯 身	C 6 グリッド	口径 13.2 受部径 15.5 残存高 3.8	口縁部は内傾して立ち上がり、中位 でわずかに屈曲して上方へのびる。 端部はやや鋭い。 受部は外上方へのび、端部はやや鋭 い。	底部外面回転ヘラ削り。 他は回転ナデ。	胎土 密。 焼成 良好。 色調 外面 青灰色 内面 青灰色 断面 青灰色 ロクロ回転 時計回り
760 第46図	高 杯 身	4号墳東 表土	口径 11.8 受部径 14.2 残存高 3.4	口縁部は内傾し、中位で屈曲して上 方へのびる。端部は鋭い。 受部は水平にのび、端部はやや鋭い。 立ち上がり基部に1条の沈線が巡 る。外面に自然釉あり。受部に焼成 時の軸着あり。	回転ナデ。	胎土 密。 焼成 良好。 色調 外面 黒色 内面 青灰色 断面 青灰色 ロクロ回転 不明
761 第46図	高 杯	4号墳西 表土	底径 16.0 残存高 7.6	脚部は裾部に向かって大きく開く。 裾部近くに1条の凹線が巡る。 3方に方形の透かし穴が穿たれてい る。	回転ナデ。	胎土 密。 焼成 良好。 色調 外面 暗灰色 内面 青灰色 断面 青灰色 ロクロ回転 不明
762 第46図	高 杯	不明	底径 7.4 残存高 5.3	脚部は外反しつつ下り、中位で大き く屈曲して端部に至る。端部内面に に断面三角形の段を有する。	回転ナデ。	胎土 密。 焼成 不良。 色調 外面 灰白色 内面 灰白色 断面 灰白色 ロクロ回転 不明
763 第46図 図版25	台 付 壺	4号墳 北表土 南表土 3号墳 墳丘 西斜面 盜掘坑 C 6 表土	口径 9.7 体部最大 径 13.5 底径 12.3 器高 23.6	壺部 口頸部は体部より直線状に開 き、口縁部付近で内側に屈曲して端 部に至る。端部は丸い。体部は緩や かに内湾して下り、底部に至る。底 部はやや平坦。 脚部 壺部の底部より外反気味に下 り、中位で屈曲して内湾しつつ端部 に至る。端部内面に断面三角形の段 を有する。 体部上位に1条、中位に2条の凹線 が巡る。脚部にはやや鋭い稜が巡り、 上位には方形の透かし穴が2方に穿 たれている。	壺部底部外面回転ヘラ削りのち回転 ナデ。底部内面ヘラ状工具による不 整方向ナデ。 脚部内面上半指ナデ。 他は回転ナデ。	胎土 密。 焼成 良好。 色調 外面 青灰色 内面 青灰色 断面 灰赤色 ロクロ回転 不明

番号	器種	出土地点	法量 (cm)	形態の特徴	技法の特徴	備考
764 第46図	横 瓶	C 6 グリッド	口径 6.3 残存高 11.5	口頸部は体部より外反気味に立ち上 がり、中位より内弯しつつ端部に至 る。端部は丸い。 体部は俵状を呈する。	体部の一面には回転ヘラ削りが、も う一面には回転カキメが施されてい る。 他は回転ナデ。	胎土 密。 焼成 良好。 色調 外面 灰白色 内面 青灰色 断面 青灰色 ロクロ回転 時計回り
765 第46図	甕	東表土	口径 38.6 残存高 4.7	口頸部は直線状に外方へ開き、中位 にやや丸い稜を有する。 下部に1条の沈線が巡る。 斜線文が2段施されている。 外面に自然釉あり。	回転ナデ。	胎土 密。 焼成 良好。 色調 外面 黒色 内面 灰色 断面 灰色 ロクロ回転 不明
766 第46図	甕	4号墳東 表土	口径 20.1 残存高 6.1	口頸部は外反気味に上方へのび、端 部付近でわずかに内弯し、のち外反 しつつ端部に至る。端部内面に断面 三角形の段を有する。中位に1条の 凹線が巡る。外面に自然釉あり。	回転ナデ。	胎土 密。 焼成 良好。 色調 外面 灰色 内面 灰白色 断面 灰黄色 ロクロ回転 不明
767 第46図	甕	4号墳東 表	口径 15.8 残存高 5.0	口頸部は外反しつつ上方へのび端部 外面に断面三角形の段を有する。	体部外面格子タタキ。体部内面同心 円タタキ。 他は回転ナデ。	胎土 密。 焼成 良好。 色調 外面 青灰色 内面 青灰色 断面 褐色・青灰色 ロクロ回転 不明
768 第46図	壺	1号墳 墳丘	高台径 9.7 残存高 8.3	体部は内弯しつつ上方へのびる。 底部に断面方形の高台が付く。	底部外面回転ヘラ削り。 他は回転ナデ。	胎土 密。 焼成 良好。 色調 外面 灰白色 内面 灰白色 断面 青灰色 ロクロ回転 時計回り

# 写真図版



菖蒲谷西山B遺跡調査区全景



第一次調査遺構



調査前遠景



調査前近景





SM1001主体部検出状況 (1)



SM1001主体部検出状況 (2)

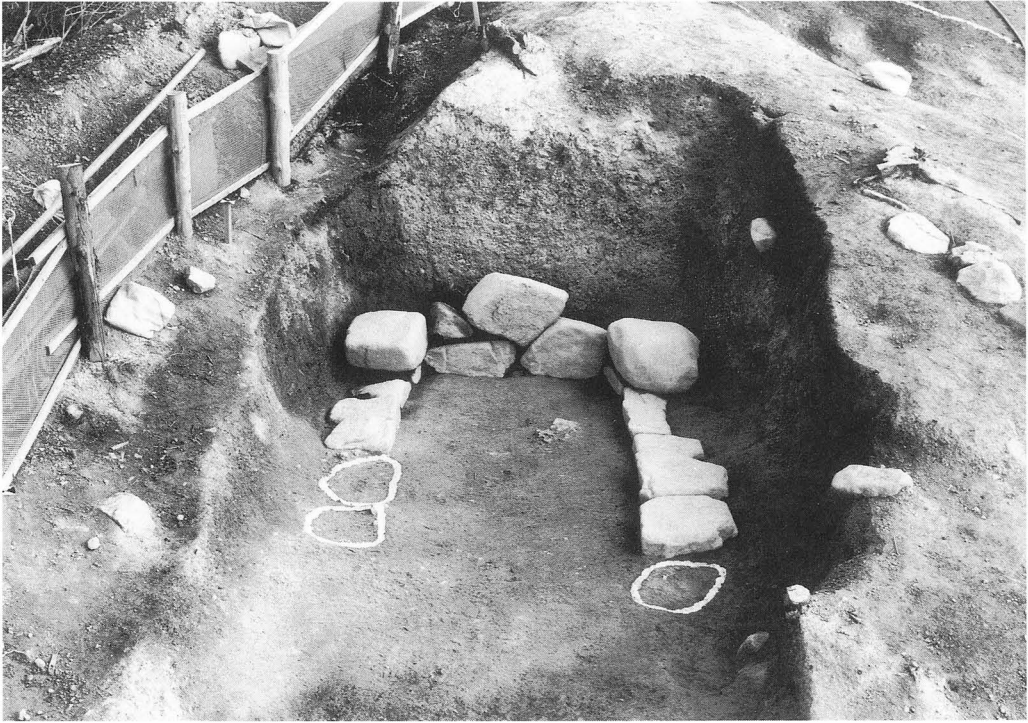




SM1001主体部検出状況 (3)



SM1001石室床面検出状況

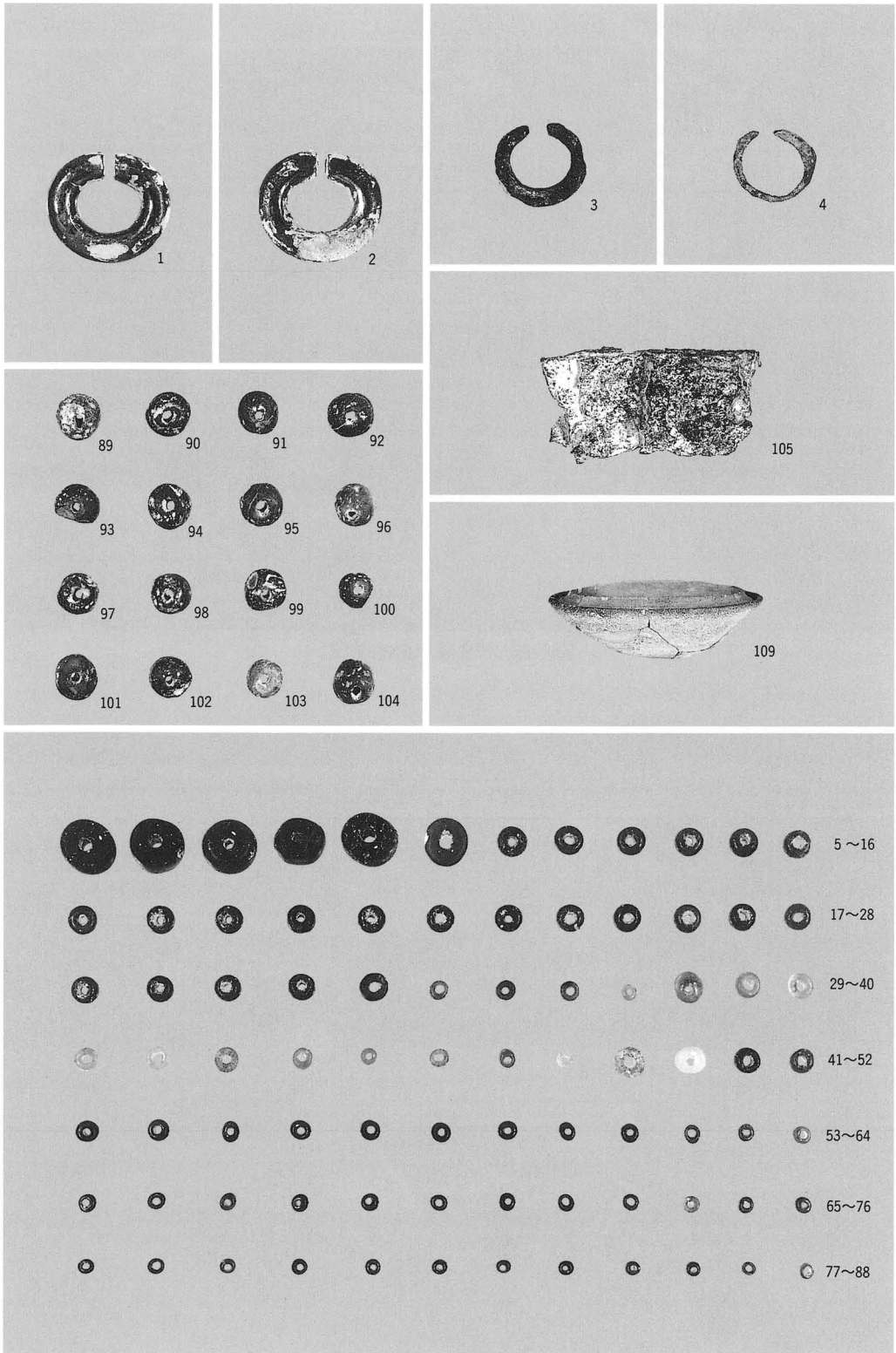


SM1001床面礫床除去状況



SM1001主体部断ち割り状況

图版 7



SM1001出土遺物





SM1002主体部検出状況 (1)



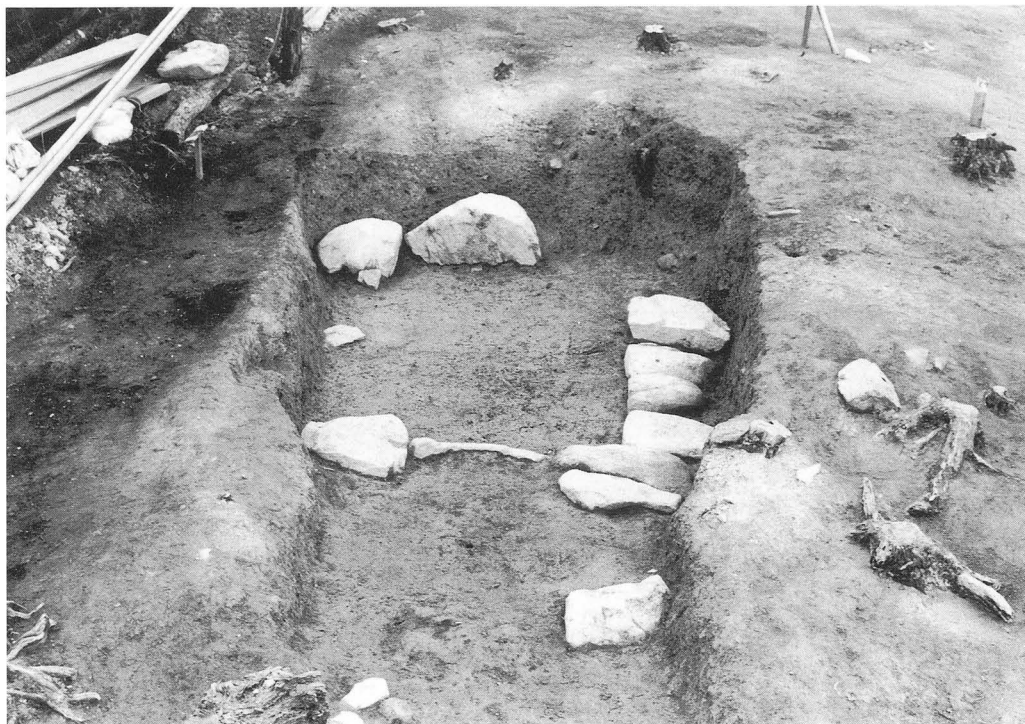
SM1002主体部検出状況 (2)



SM1002石室床面遺物出土状況



SM1002石室床面検出状況

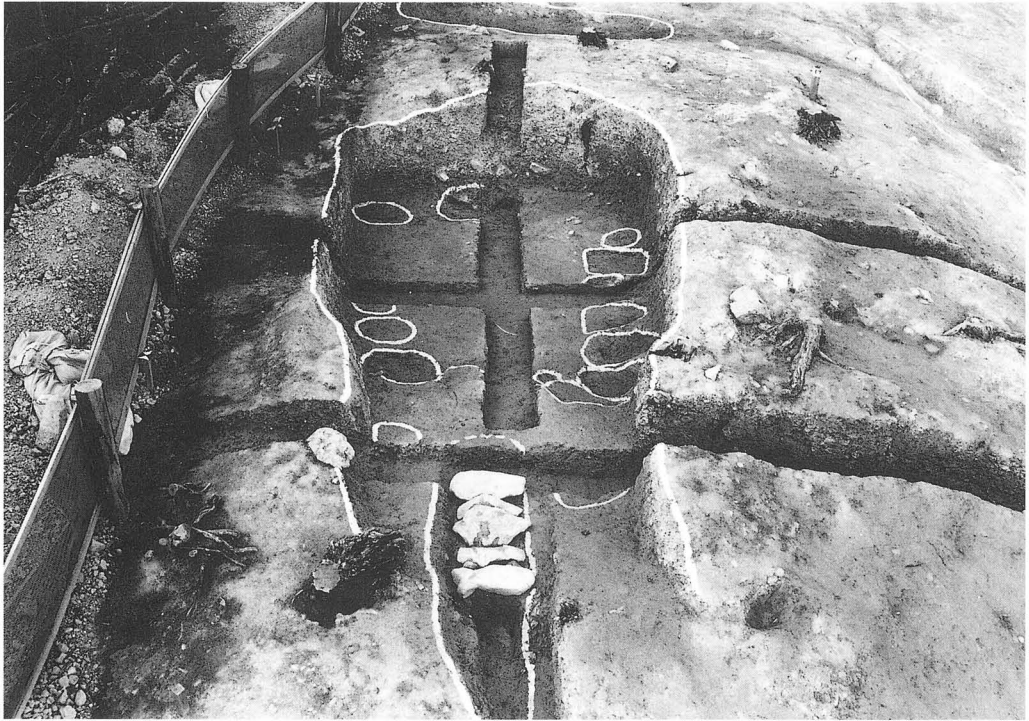


SM1002石室床面礫床除去状況

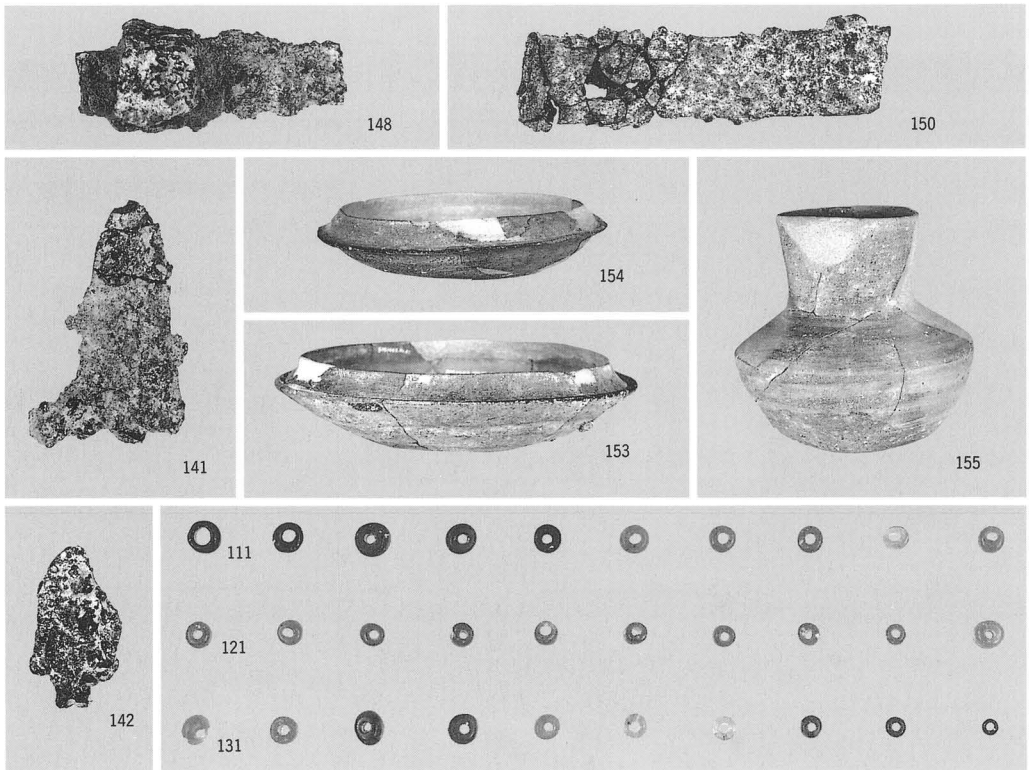


SM1002排水溝検出状況





SM1002断ち割り状況



SM1002出土遺物



SM1003主体部検出状況 (1)



SM1003主体部検出状況 (2)





SM1003主体部検出状況 (3)



SM1003遺物出土状況 (1)



SM1003遺物出土状況 (2)



SM1003遺物出土状況 (3)



SM1003石室検出状況

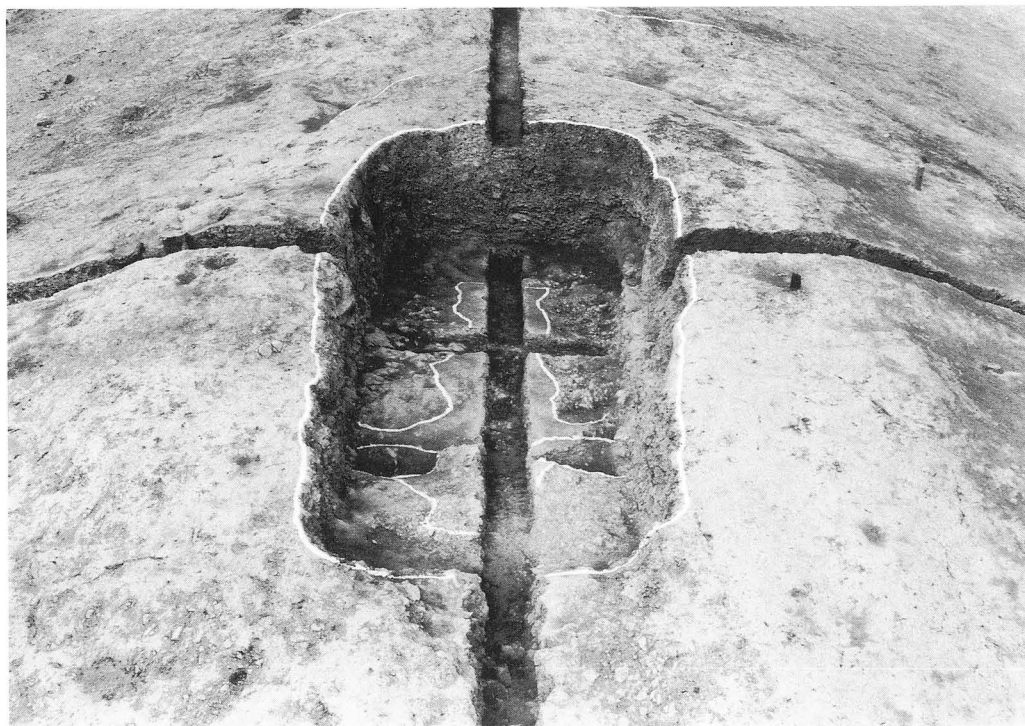


SM1003側壁（西より）



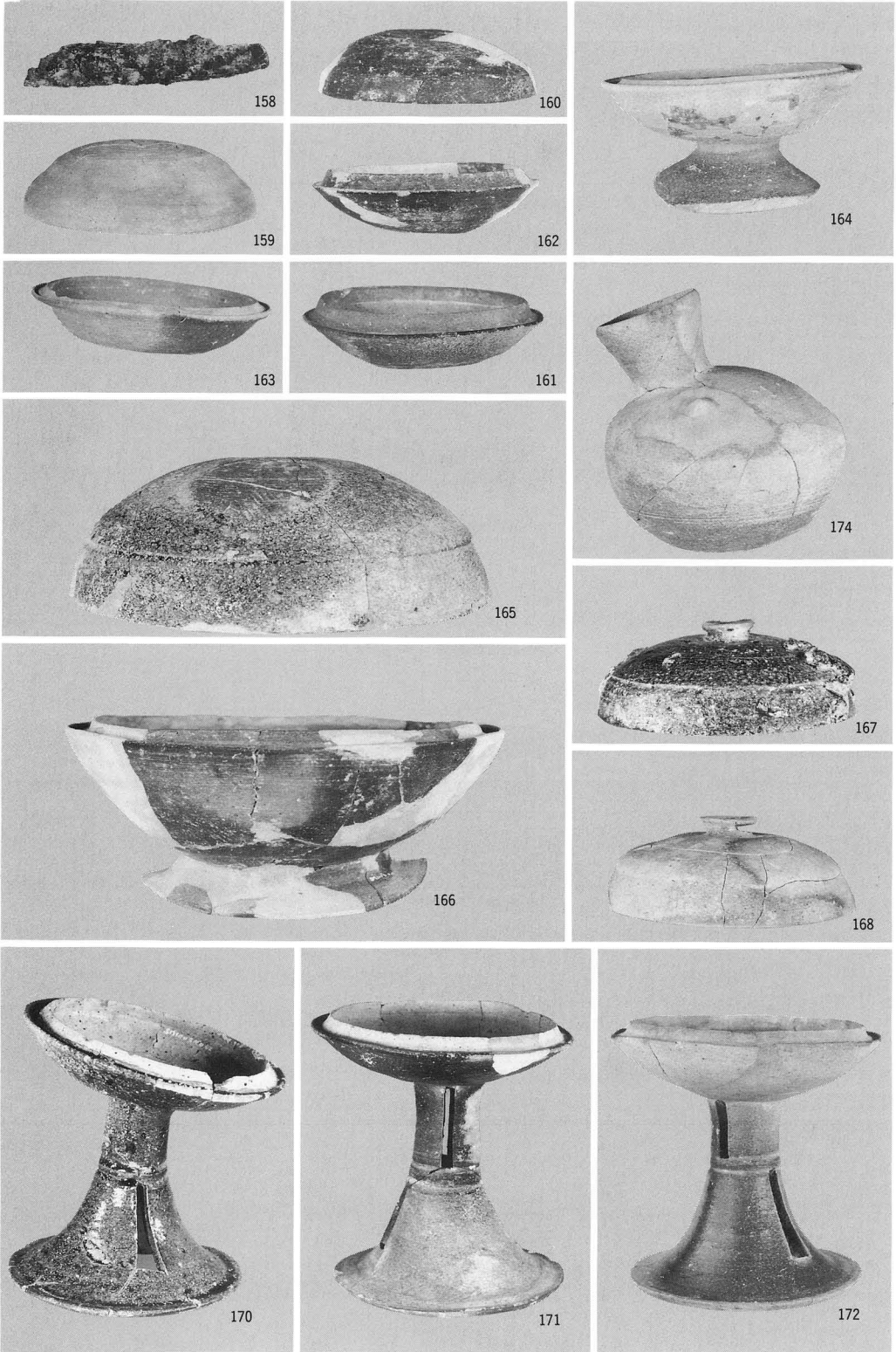


SM1003側壁（東より）

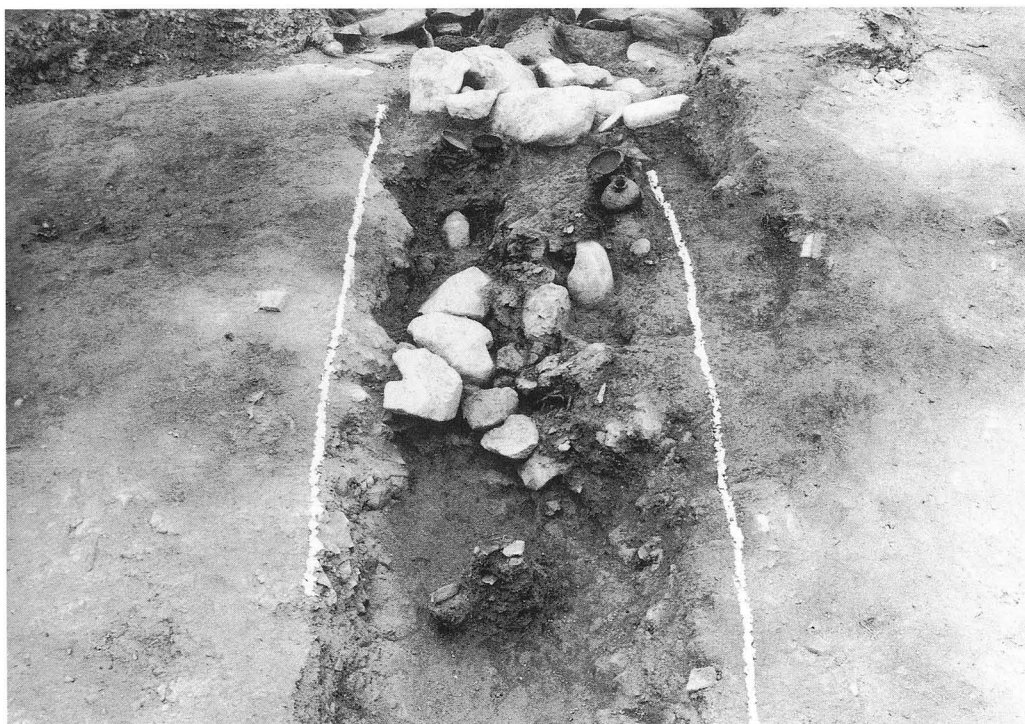


SM1003断ち割り状況

图版17



SM1003出土遺物

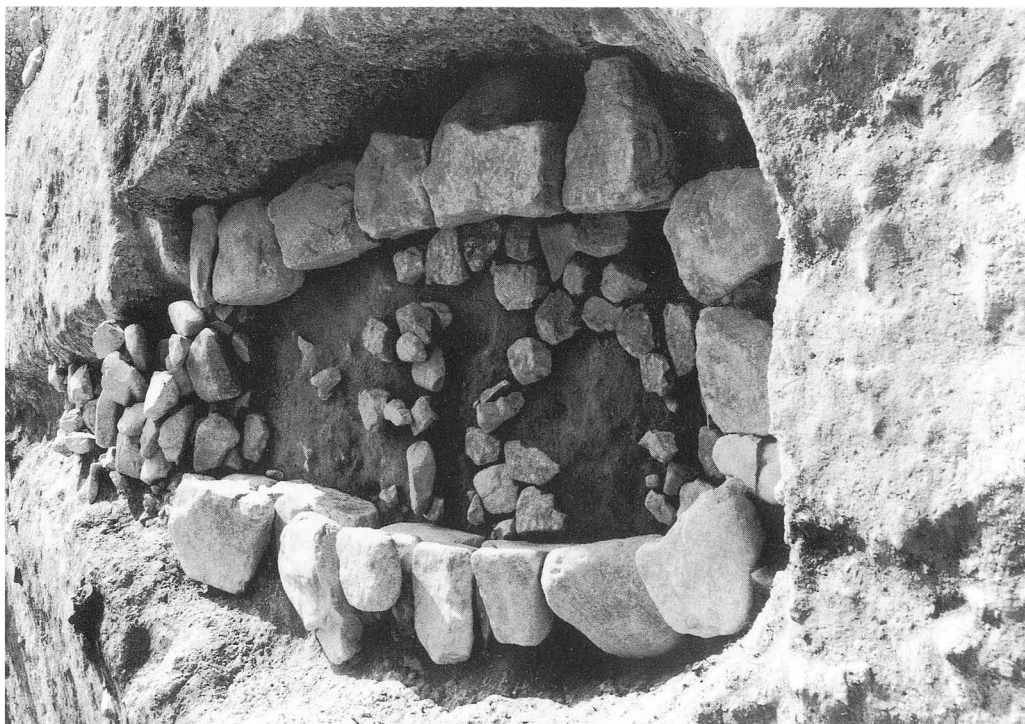


SM1004遺物出土状況 (1)



SM1004遺物出土状況 (2)





SM1004主体部検出状況



SM1004閉塞石検出状況



SM1004床面遺物出土状況



SM1004床面検出状況

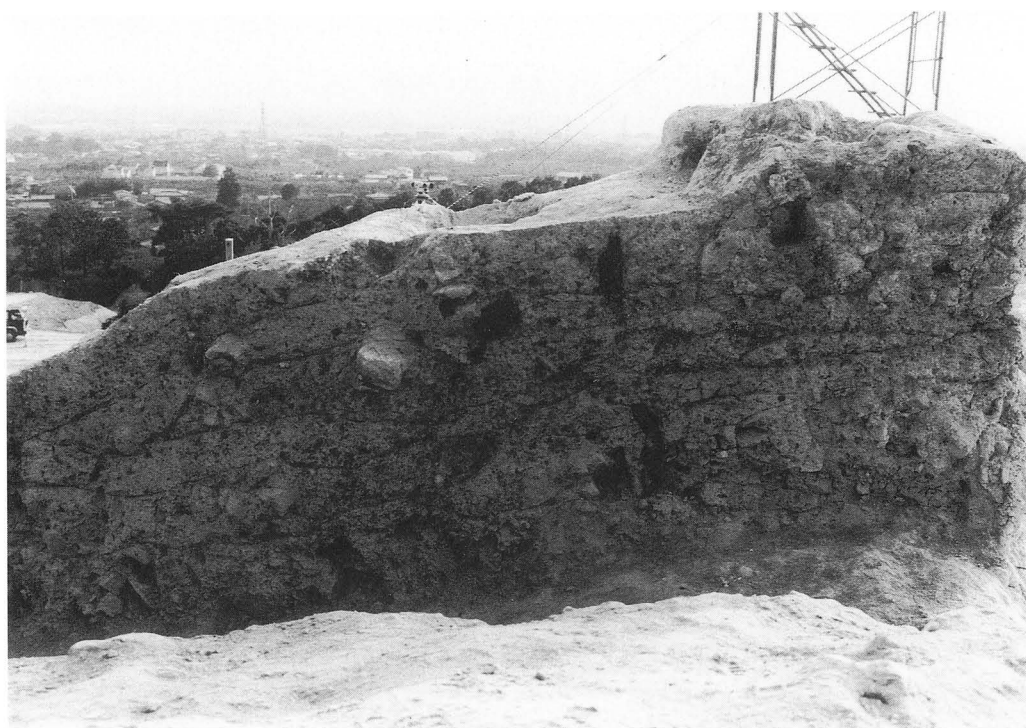




SM1004床面検出状況及び断ち割り状況



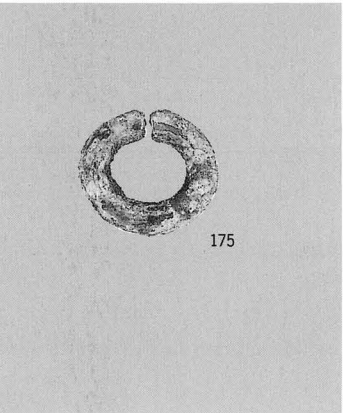
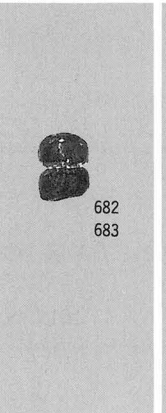
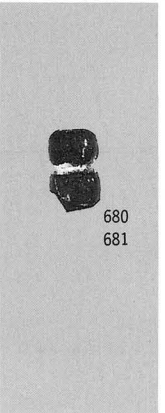
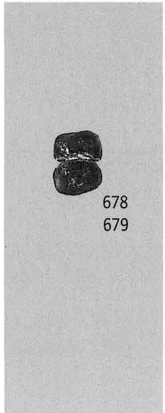
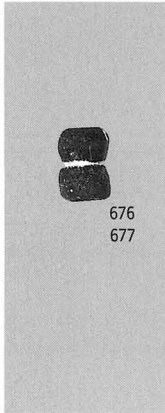
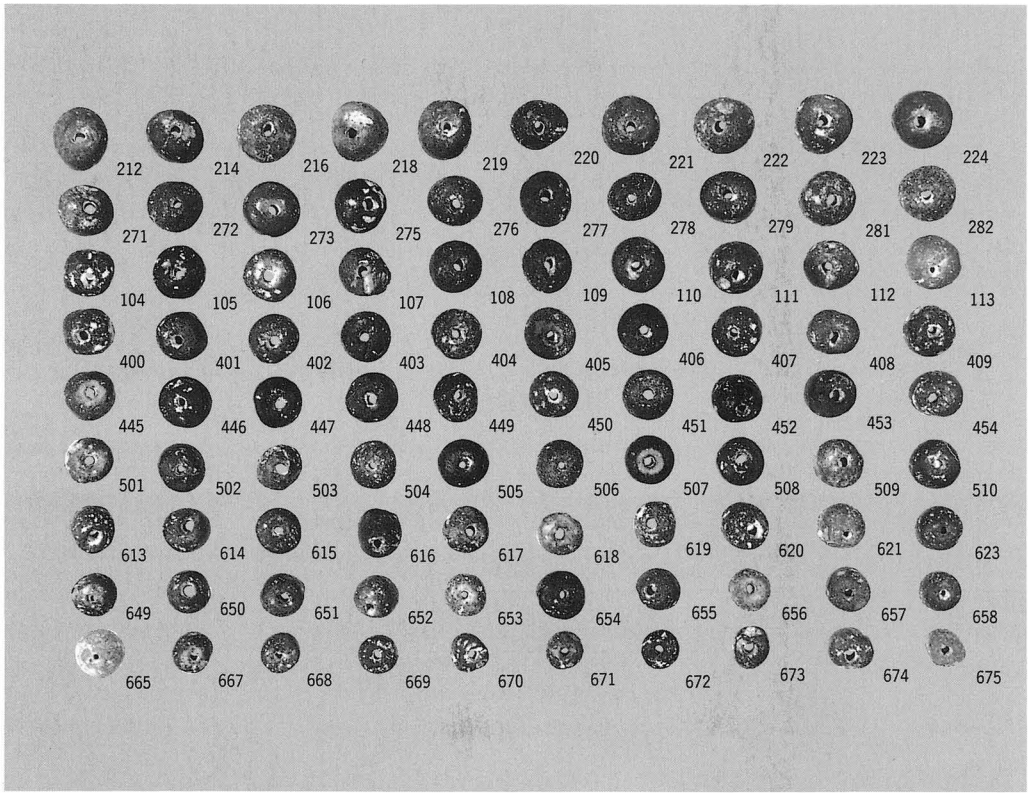
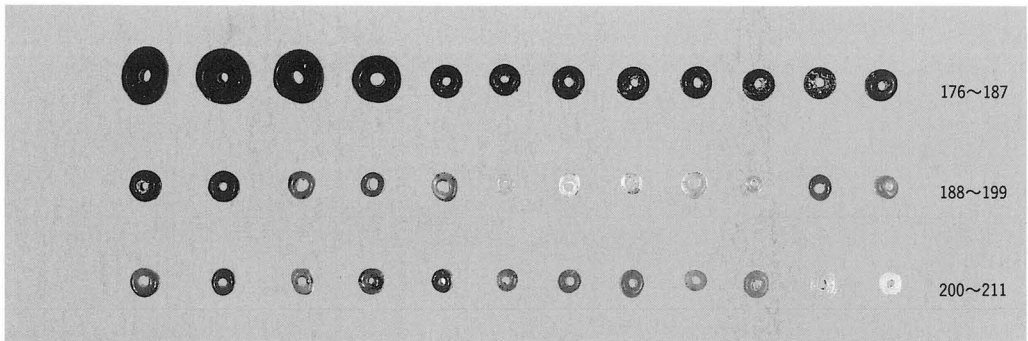
SM1004奥壁



SM1004墳丘断面

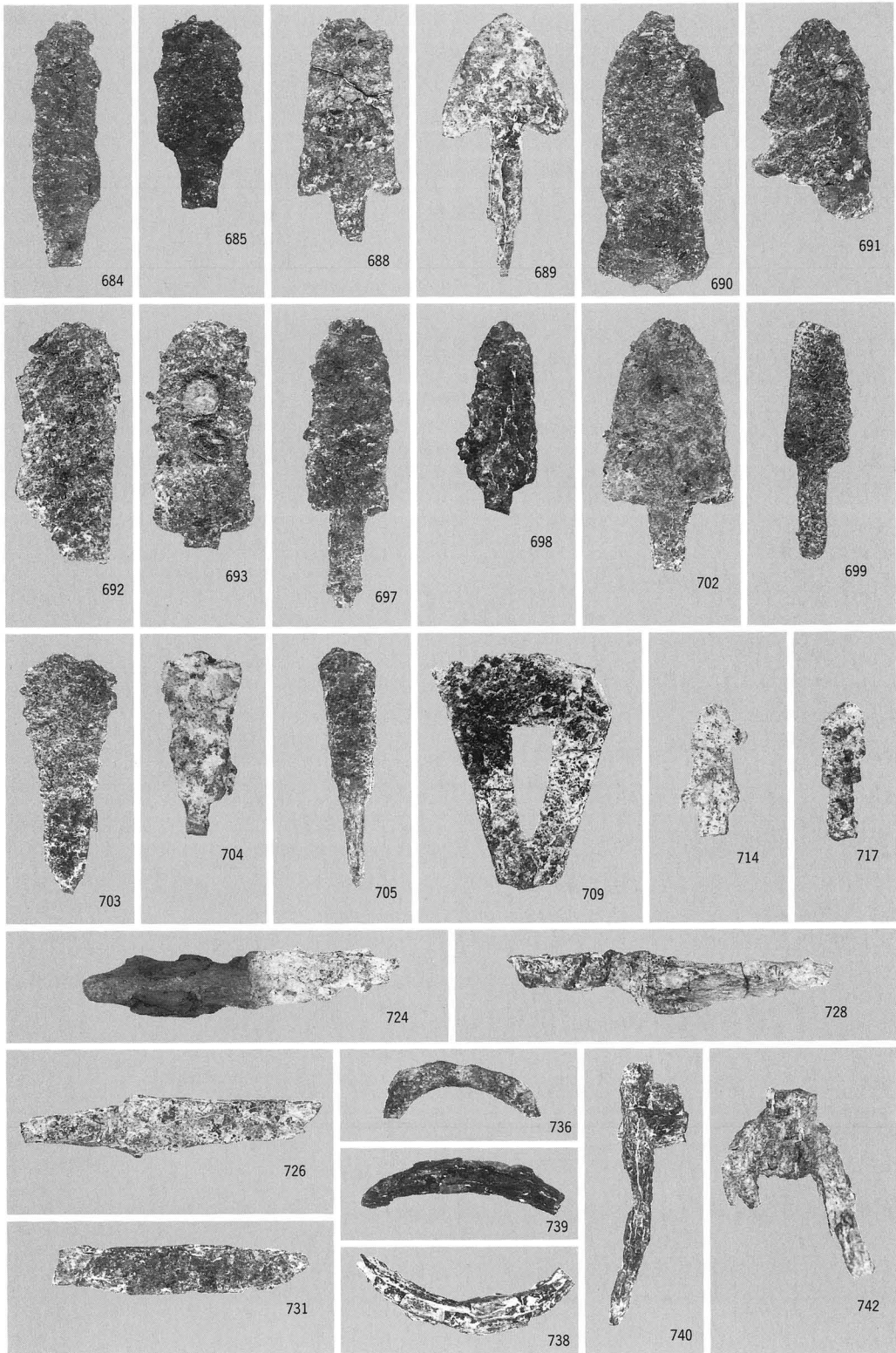


SM1004断ち割り状況

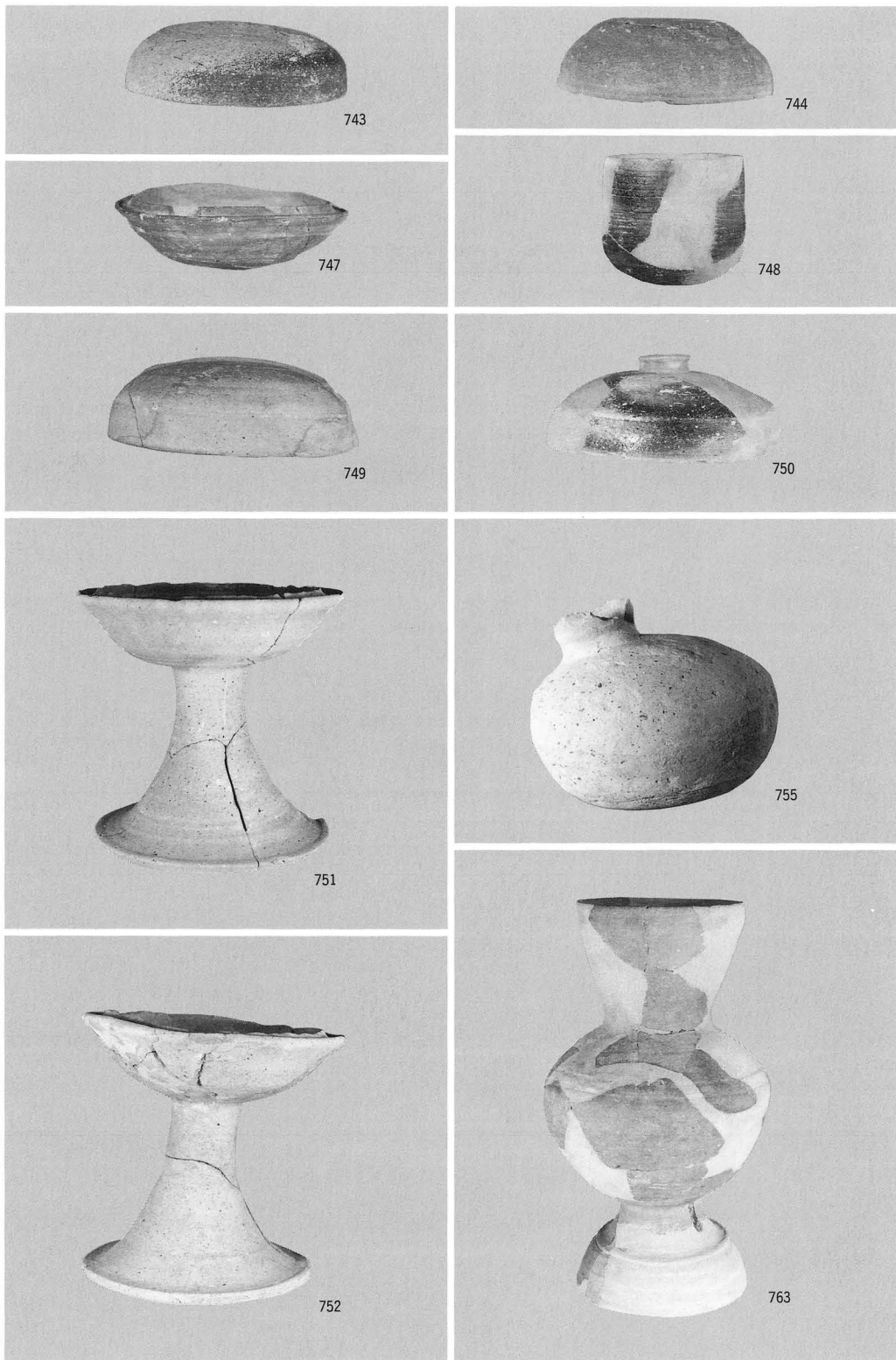


SM1004出土遺物 (1)





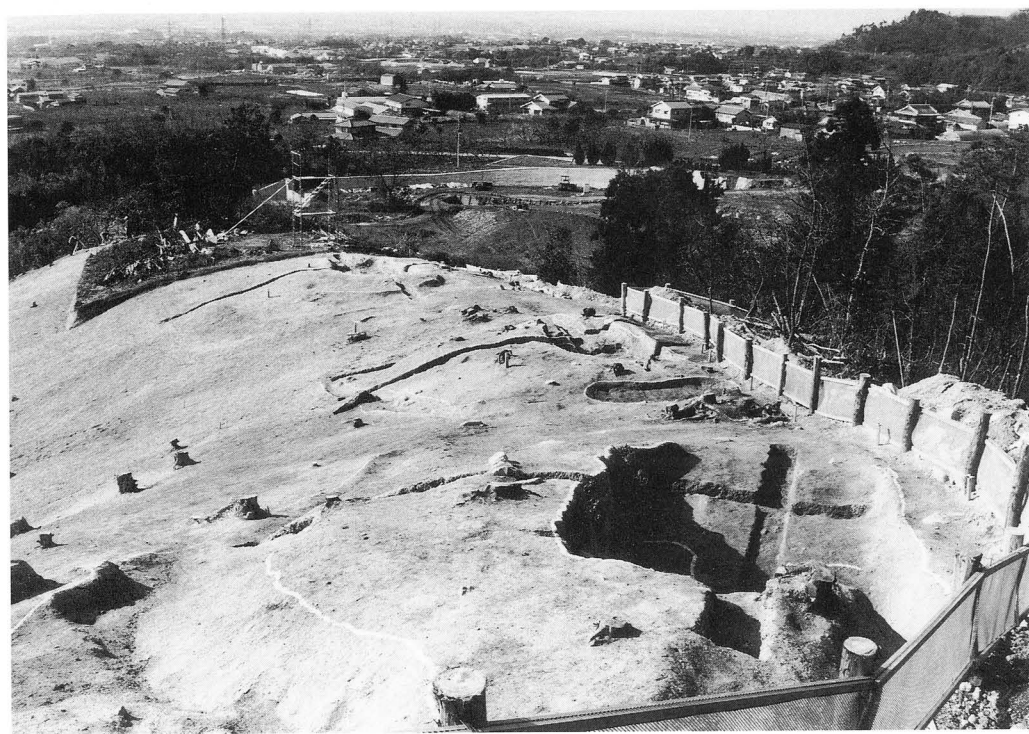
SM1004出土遺物 (2)



SM1004出土遺物 (3)



骨蔵器出土状況



第一次調査終了時調査区全景



V 山田古墳群 A



- 1 本章は四国縦貫自動車道に伴う、山田古墳群Aの発掘調査報告である。
  
- 2 発掘調査期間及び報告書作成の実施期間は次のとおりである。
  - ・発掘調査 平成3年5月28日～平成3年6月6日（試掘）  
平成3年7月20日～平成4年2月20日（本調査）
  - ・整理業務、報告書作成 平成5年4月1日～平成6年3月31日
  
- 3 遺物番号、挿図番号はすべて通し番号とした。

# V 山田古墳群 A

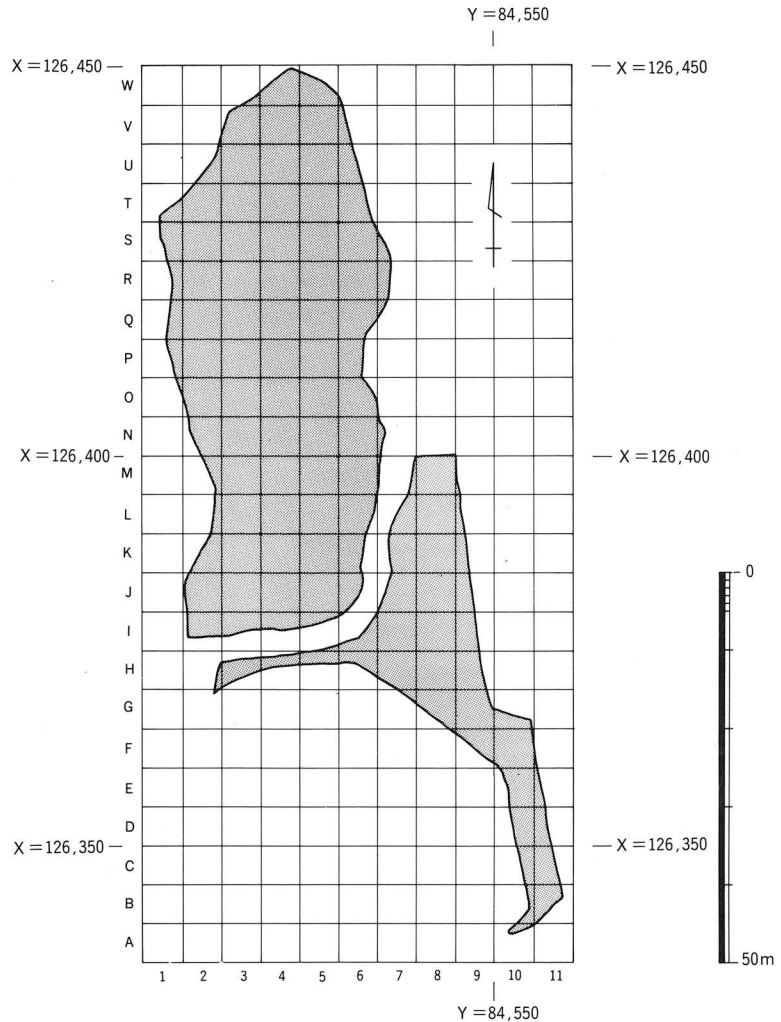
## 1 調査の経過

### (1) 調査の経過

山田古墳群Aでは、四国縦貫自動車道建設予定地の尾根状に古墳状の隆起が認められ、古墳の存在が予想された。平成3年度に50㎡の試掘調査を行った結果、横穴式石室と五輪塔を用いた墳墓の存在が確認されたため、本調査実施の運びとなった。

本調査開始の時点では、南東側の斜面部は調査区に組み入れられていなかったが、調査の途中で、工事の際に法面としてカットされることが判明したため、調査範囲に追加されることとなった。

調査は2,150㎡を対象としており、平成3年7月20日～平成4年3月20日まで実施された。古墳の墳丘が遺存していたため、その位置・規模を正確におさえる目的で掘削前の時点で25cmコンターを基本とする地形測量を行っている。



第1図 グリッド配置図

## (2) 発掘調査の方法

調査区は尾根上の緩い傾斜地と南東側のやや急な斜面とに分かれ、南北に長い。本報告書の段階では、遺構が検出された地点の地形の特徴も考慮にいれながら、尾根上と南東斜面の2地点を中心に記述を進める。

グリッドは国土座標軸のX軸・Y軸を基に、5m×5mを単位として設定した。グリッド番号は東西方向(X軸方向)をアラビア数字で、南北方向(Y軸方向)をアルファベットで組み合わせて表記する。東西方向は1～11、南北方向はA～Wがあるため、南西隅がA-1、北東隅がW-11というグリッド番号となる。調査の経過でも触れたとおり調査区の再設定が調査着手後に行われたため、グリッド番号に関しては報告書の段階で当初のものから変更している。

## (3) 調査日誌抄

1991年	SM1001前庭部遺物検出作業及び遺物平面図作成。
7月25日 平板による調査前の地形測量開始。	10月3日 SM1001主体部検出作業。
8月16日 地形測量終了。	10月8日 ST1003・1004・1005掘り下げ開始。
8月22日 人力掘削開始。	10月9日 SM1001横穴式石室精査。
9月7日 SM1001周辺精査。	10月18日 SM1002墳丘検出作業。
9月20日 ST1001～ST1006検出作業。	10月21日 SM1001周濠検出作業及び掘り下げ。
9月26日 SM1001・1002、ST1001・1002検出状況写真。	10月23日 3区中世墓周辺精査。
10月2日 ST1001・1002掘り下げ開始。	10月24日 基壇状遺構検出状況写真。



写真1 作業風景

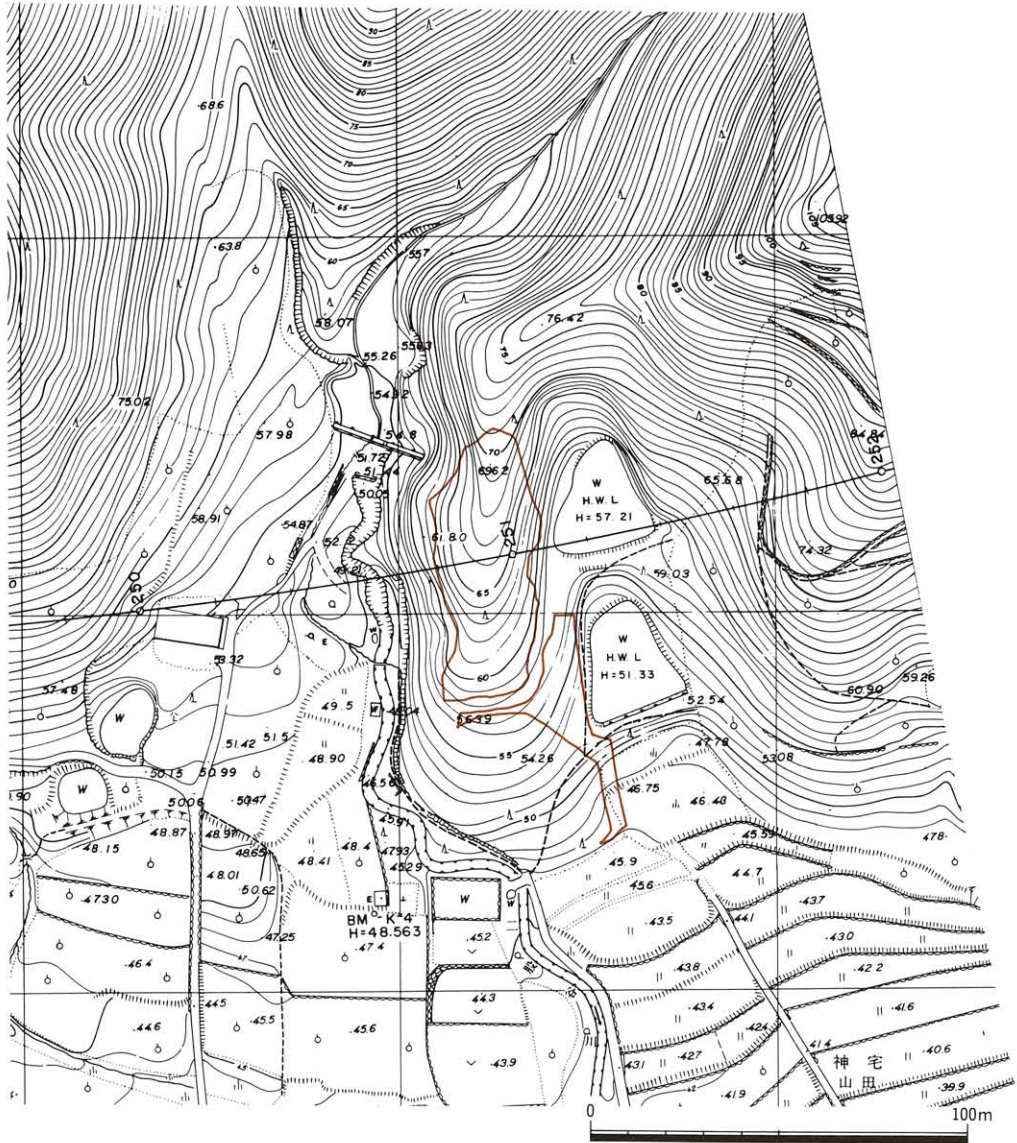


写真2 空中撮影風景

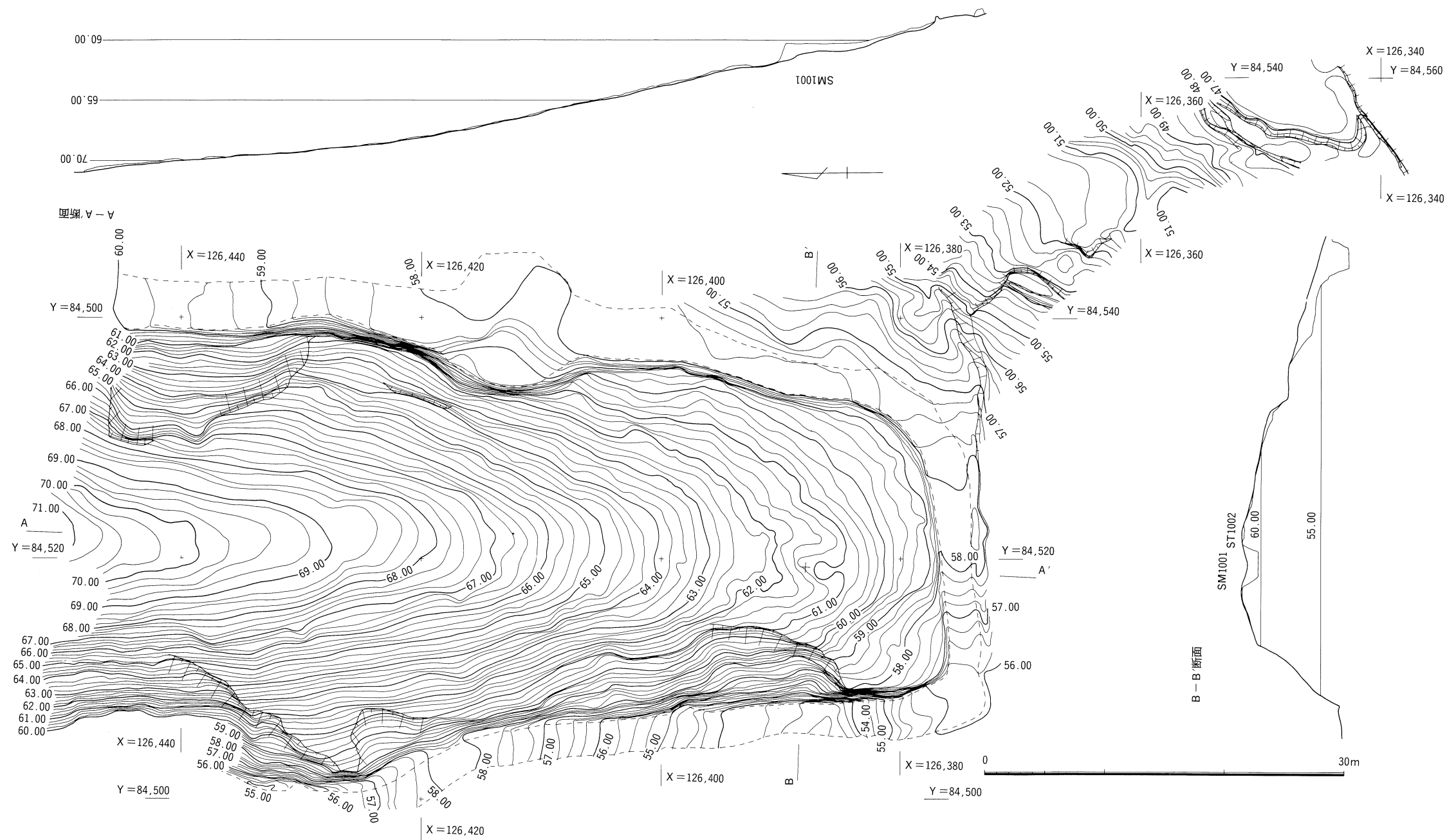


写真3 現地説明会風景

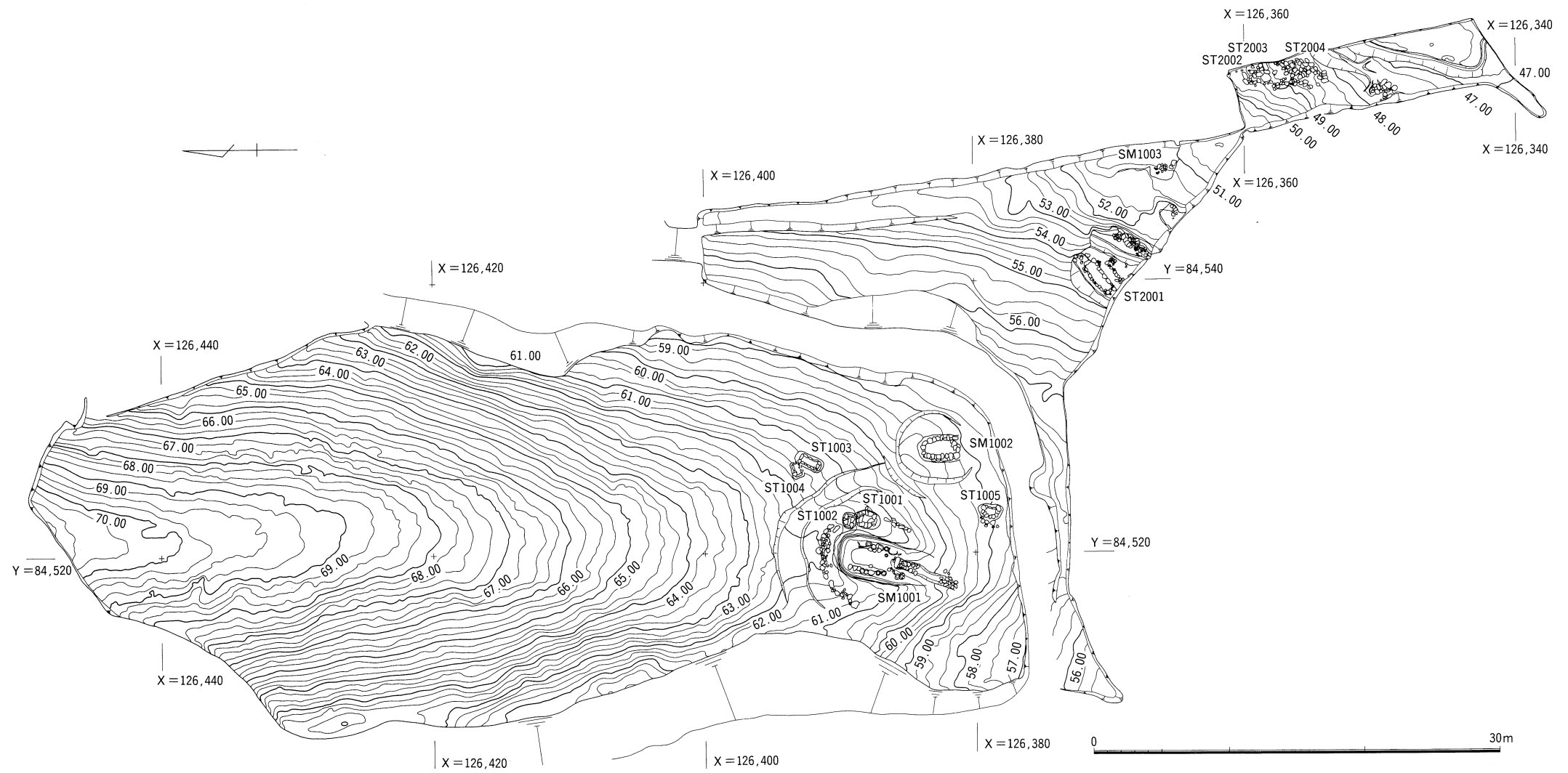
- 10月28日 SM1002周濠・横穴式石室掘り下げ。
- 11月11日 SM1001横穴式石室床面検出作業。
- 11月14日 SM1001横穴式石室の排水溝検出作業。
- 11月18日 ST2001～2004検出作業。
- 11月19日 SM1003精査。
- 11月20日 岡山県古代吉備センターより3名来訪。
- 11月26日 空中撮影。  
各遺構の写真撮影。
- 12月7日 現地説明会。
- 12月10日 SM1001墳丘断ち割り。  
ST2001～2004掘り下げ。
- 1992年
- 1月7日 各遺構完掘状況写真。
- 1月8日 SM1003墳丘断ち割り。
- 1月16日 SM1002墳丘断ち割り。  
ST2001下部遺構精査。
- 1月17日 ST2003・ST2004下部遺構精査。
- 1月24日 SM1001墳丘盛り土除去。
- 1月31日 ST1003～1005断ち割り。
- 2月4日 SM1002断ち割り。
- 2月7日 ST1001完掘状況写真。
- 2月18日 SM1001盛り土除去状態の地形測量。
- 2月20日 現場撤収。



第2図 調査位置図



第 3 図 調査前地形測量図



第4図 調査後地形測量図(全体)

## 2 調査成果

### (1) 現況と基本層序

まず調査前の状況について、地形測量図を基に概観する（第3図）。

山田古墳群Aが位置する地点は南北に伸びる尾根とその南東側の斜面である。尾根上においては標高60～70mの地点が相当する。この間の延長は70mを測るが、際だった傾斜変換もみられずなだらかである。地形測量図には現れていないが、尾根の中央部標高60mより南側についてはやや傾斜が変化しており、下りはわずかに急となっている。このことは、標高60m付近に築かれた1号墳からの眺望がきわめてよいことを示している。1号墳が検出された地点では等高線の乱れがはっきり観察され、横穴式石室を主体とする円墳があり盗掘を受けているらしいことがこの時点で明かとなった。また、2号墳が検出された地点でも等高線が若干乱れていることが、検出後に結果として分かった。尾根の周囲には大小の攪乱や土砂の流失に伴う落ち込みが多数認められる他、尾根の東側にはため池がつくられていることから、遺構が築かれた段階と比較すると地形はかなりの改変を経ていることが分かる。この部分での堆積は尾根上では表土の腐食土直下において風化砂岩を含む基盤層に到達し、包含層は遺存していない。それに対して、東側斜面部においては流失土が堆積しており、厚い箇所では1mを越える堆積があった。

南東側斜面では、限られた測量範囲のため全体の起伏は表現できていないが、やはり攪乱などによる小規模の落ち込み・攪乱のある状況が分かる。斜面部では尾根上と比較すると安定した堆積状況を示しており若干の包含層がみられ、隣接する遺構に伴う土器片や五輪塔が出土した。

### (2) 遺構と遺物

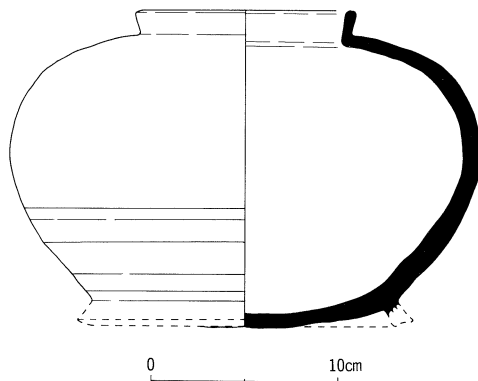
検出された遺構は、古墳3基、小竪穴式石室5基、中世墓4基などである（第4図）。古墳時代の遺構は調査区の南半の尾根上から東斜面にかけて検出された。中世墓は調査区南東端の斜面に集中している。1号墳（SM1001）の南側・南東側の斜面の調査区外では、須恵器が散布する箇所が広がり、古墳時代の遺構や中世墓群の範囲がさらに広がることが確実である。3号墳は墳丘北西側、尾根の東側のため池とそれに伴う導水施設による攪乱を受けていた。3号墳のような墳丘を失った古墳が、調査区外にも点在する可能性も見込んでおく必要がある。



調査区の北半は表土直下が砂岩質の基盤層であり、遺構は検出されなかったが、尾根の稜線上にあたる表土中より、須恵器の蔵骨器1個体分などの遺物がわずかに出土した。破片が広い範囲より出土している点や、遺存の程度が低いことから蔵骨器の埋納施設が築かれてはいたものの、完全に削平されていたことが想定される。また、蔵骨器の周辺では古墳時代の須恵器も少数ではあるが出土しており、尾根線上に何らかの遺構があった可能性も想定ができる。

### 蔵骨器 (第5図)

Q-5・6グリッド地点の表土中より出土した。全体の約20%程度の遺存状態である。高台は完全に欠損しており、蓋に相当する破片も認められない。最大径を上位1/3にもつ偏球形の体部に、直立する短い口縁部がつく。体部肩外面には爪の圧痕を伴う指頭圧痕が部分的には2段にわたって巡るが、焼成前の作



第5図 Q-5・6グリッド出土須恵器蔵骨器

業時についたものであろう。焼成は全体に様ではなく、体部下半及び脚部内面ではやや不良で、焼成不良の部分の色調はやや黄色みが強い。色調・胎土の面からは古墳時代に伴うものとは明らかに違う特徴をもつ。共伴遺物がないため、明確に年代をおさえることは困難であるが、他遺跡の例などからみて8世紀後半～9世紀前半に位置づけておきたい。

同様の須恵器の蔵骨器は、隣接する山田古墳群Bでも人骨などを伴って出土している<sup>(1)</sup>。板野町域から上板町域の広い範囲において古代の埋葬が数例知られており、古代において大山の麓一帯が墓域として意識されていた可能性がある。

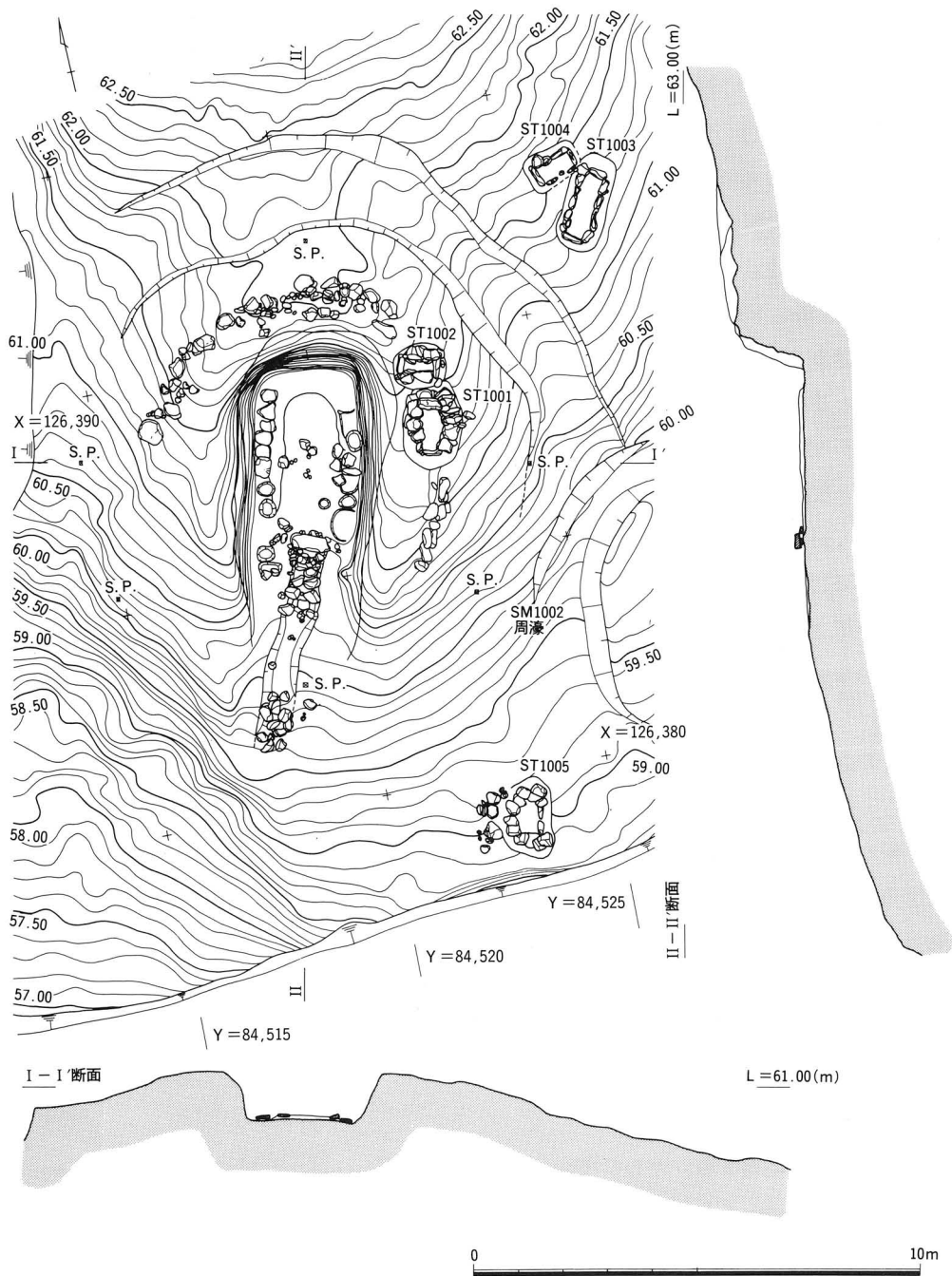
## A 尾根上の遺構

尾根上では尾根の先端部とも言うべき立地を示す1号墳と、1号墳に隣接する2号墳が主要な遺構である。1号墳の墳丘の周囲に検出された5基の小竪穴式石室は1号墳に伴うものとみられるため、1号墳に引き続いて記述を進める。以下、各遺構の概要を述べてゆきたい。

### 1号墳 (SM1001)

#### 位置

山田古墳Aが位置する尾根の稜線上中央部、J・K・L-2・3・4・5グリッドに築かれた横穴式石室を主体とする円墳である。尾根は緩やかな傾斜をもっているものの、1号墳



第6図 SM1001墳丘図

の南側では傾斜はやや急になり、下の水田面へと下っている（第3図・第4図）。1号墳は標高60～62mに位置し、下位の水田面は標高45m台で比高差は15m余りである。後述する2号墳・3号墳などと比較すると、この尾根の中では最も展望のきく条件のよい占地といえることができる。

## 外部施設

### 墳丘（第6図・第7図）

調査前の地形測量の段階で、等高線の微妙な形状や盗掘坑の掘り方の落ち込みから、横穴式石室を主体とする径15～20mの円墳が想定された。調査の結果、周濠を伴うほぼ正円の円墳であり、その規模は墳丘の径が10mである。周濠を含めた全体の規模は13.5～14mとなる。横穴式石室を覆うのに十分な高さを復元すると高さは約4mとなる。

まず、基盤層に平面U字形の墓壇を掘削している。墓壇の規模は全長7.05m、最大幅3.5m、深さは奥壁よりの最も深い部分で1.5m以上に及んだものと考えられる。この場合、掘削土量は約18m<sup>3</sup>と想定される。

横穴式石室の構築手順は、壁体を構築しながら裏込め部分に土を盛ってゆくもので、奥壁部分では8度に（31～23層）、玄室東側側壁では4度に（70～67層）分けて充填し、壁体の構築に従って盛り土を行う。盛り土部分には炭化物を含む層（23・33・48・57・58・63・68・75・83・85層）が鍵層として確認できる。炭化物を含む層を盛り土及び裏込め部分の構築時の作業単位として把握すれば、異なる性質の土3～4層を互層を盛るという作業工程を二～五度繰り返していたことが分かる。

### 周濠

墳丘の北側と東側に周濠を巡らせる。東側の周濠の縁辺は、2号墳の周濠によって切られている。西側についても周濠を巡らせていた可能性があるが、土砂の流失によって本来の地形が失われているために確認することができなかった。遺存していた部分の計測値は墳丘北側部分の最大幅が2.45m、東側の最大幅1.55mである。その深さについても流失している箇所では浅いものとなっている。

最も遺存状態の良い墳丘北側では30cm強の堆積が遺存していた。堆積は4層（17～20層）に分けられるが、いずれもしまりがなく柔らかい砂質土である。これらのうち上位2層中には須恵器片が含まれていた。

### 外区列石

墳丘検出面の墓壇を取り囲むU字形に検出された（第6図）。石材はすべて砂岩であるが、2号石室墓の墓壇より北側約1mを境にして西側が角礫、東側が円礫で構成されていた。礫の大きさは角礫の部分では、径10cm程度の拳大のものから径50cmのやや大形のものまで多様な大きさのものがみられるのに対して、円礫の部分では長径30～50cmの細長いものに揃っている特徴がある。1号墳墳丘内に築かれた2基の小竪穴式石室の墓壇の部分では、これらの列石は途切れている。これらの列石の年代は明確には押さえることができない。礫の下面より1号墳と同時期と考えられる須恵器が出土しており、①1号墳の墳丘築造時、②小竪穴式石室築造時、③古墳再利用時または盗掘時、などの可能性が考えられる。小竪穴式石室の構